国立国語研究所学術情報リポジトリ

昭和40年度 国立国語研究所年報

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-06-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/0000001193

昭和40年度

国立国語研究所年報

—17—

国立国語研究所

1966

はじめに

本書は，昭和40年度における研究および事業について述べたものである。40年度において，研究所として特筆すべき事は，多年の希望がかなって電子計算機（HITAC 3010）を年度末の41年3月から使用し始めたことである。今後電子計算機を利用した各種の調査・研究が期待されると共に，新しい研究分野が開かれることであろう。

なお本年度から言語地図の編集刊行が6年間継続事業として始まった。

40年度内に刊行したものは次の通りである。

戦後の国民各層の文字生活	（報告29）
日本言語地図（1）	（報告30）
国語年鑑（昭和40年度版）	

昭和41年10月

国立国語研究所長

岩淵悦太郎

目　　次

刊行のことば
昭和40年度の調査研究のあらまし …… 1
現代語の文法の調査研究…… 5
動詞・形容詞等の意味・用法の記述的研究……24
日本言語地図の編集と刊行……32
各地方言の共通語との対照的研究……33
中学生の言語習得に関する研究(継続)
　Ⅰ中学生の漢字習得に関する研究……37
　Ⅱ作文による中学生の漢字使用に関する実態調査……63
幼児の言語発達に関する準備的研究……67
言語の表現機能と伝達効果の研究……84
　Ⅰ言語表現における場面の効果の研究(継続)……84
　Ⅱ文の形成過程にあらわれる伝達機能の発達の研究……87
明治時代語の調査研究 ……108
電子計算機による大量語彙調査の準備的研究 ……111
社会構造と言語の関係についての基礎的研究 ……121
現代語における漢字ならびに表記法に関する調査研究 ……128
国語関係文献の調査 ……131
図書の収集と整理 ……139
庶　務　報　告 ……149

昭和40年度の調査研究のあらまし

本年度の研究項目および分担は次の通りである。

(1) 現代語の文法の調査研究	話しことば研究室
(2) 動詞・形容詞等の意味・用法の記述的研究	書きことば研究室
(3) 日本言語地図の編集と刊行	地方言語研究室
(4) 各地方言の共通語との対照的研究	〃
(5) 中学生の言語習得に関する研究	国語教育研究室
(6) 幼児の言語発達に関する準備的研究	〃
(7) 言語の表現機能と伝達効果の研究	言語効果研究室
(8) 明治時代語の調査研究	近代語研究室
(9) 電子計算機による大量語彙調査の準備的研究	第1資料研究室・言語計量調査室
(10) 社会構造と言語の関係についての基礎的研究	第2資料研究室
(11) 現代語における漢字ならびに表記法に関する調査研究	第3資料研究室
(12) 国語関係文献の調査	
(13) 国民各層の言語生活の実態	

(1) 「現代語の文法の調査研究」は従来「話しことばの文法の調査研究」として実施してきたものの継続と充実である。前年度に引き続き語順等の研究とイントネーションの研究を行ない，新たに句関係の研究に着手した。

(2) 「動詞・形容詞等の意味・用法の記述的研究」は，前年度に引き続き，現代の文学作品について用例を採集し，語彙調査ですでに得られている用例に加えて，その意味，用法を詳しく記述し，また，動詞・形容詞以外でも注目すべき用語の採集を行なった。

(3) 「日本言語地図の編集と刊行」は，これまでの「日本言語地図作成のための調査」に基づいて6か年計画で日本言語地図の編集と刊行を行なうもので，本年度は音声に関する項目と形容詞に関する項目について作図した。同時に，この資料の性格を検証するための調査を行ない，日本言語地図に関する地方研究員全国協議会を開催した。

(4) 「各地方言の共通語との対照的研究」は第3年度として，鹿児島市および秋田市方言の録音テキストの再検討と印刷，秋田市方言の質問調査等を行なった。

(5) 「中学生の言語習得に関する研究」は従来「中学校生徒の言語能力の発達に関する研究」であったが，今年度から課題を漢字習得にしぼり，習得文字の種類，その経路等について追跡調査と作文調査などを行なった。

(6) 「幼児の言語発達に関する準備的研究」は今年度新しく開始したもので，国内および海外の文献や研究物を集めて展望を行ない，全国的に幼稚園・保育園および研究者に呼びかけて，言語・文字の資料を収集・整理し，研究法確定のための小調査を行なった。

(7) 「言語の表現機能と伝達効果の研究」は，従来から継続の「言語表現における場面の効果の研究」に加えて，新たに「文の形成過程にあらわれる伝達機能の発達の研究」を開始した。前者は文学作品から採集した文について主語の機能を調査し，後者は幼児の談話を録音して文表現が成立して行く過程を調査しようとするものである。

(8) 「明治時代語の研究」は，前年度に引き続き，明治文献の分類整理，明治初期文献の用字調査，および明治初期生まれの古老の談話の録音採集等を行なった。

(9) 「電子計算機による大量語彙調査の準備的研究」は昭和38年度以降電子計算機の導入について研究してきたことがいよいよ具体化したもので，41年度から大規模の調査が始められるよう，語の単位分割の基準の検討，漢字テレプリンタ入力方式の検討，漢字テレプリンタによる用語総索引作成プログラムの作成などを実施した。

(10) 「社会構造と言語の関係についての基礎的研究」は，今年度新しく開始したもので，特定農村の社会構造・社会生活と言語・言語生活に関する記述的研究を行なうため，福島県保原地区および茂庭地区について，方言体系の記述，言語使用の実態の研究等を実施した。

(11) 「現代語における漢字ならびに表記法に関する調査研究」は，前年度に引き続き，表記のゆれ，とくに送りがなの問題，漢字とかなの使い分けの問題点について調査を行なった。

(12) 「国語関係文献の調査」は例年の通り新聞・雑誌・単行本について調査を行ない，『国語年鑑』の資料として整理した。

(13) 「国民各層の言語生活の実態」は，昭和37年度，38年度に行われた「国民各層の言語生活の実態調査(A)(B)」について，それぞれ集計整理・記述が続けられたもので，その(A)の長岡市における市民の言語生活調査にさらに補充調査を加えたものを，報告29『戦後の国民各層の文字生活』として刊行した。

本年度の研究組織は次の通りである。

◇第1研究部　部長　林　大

話しことば研究室　宮地　裕(室長)　鈴木　重幸

書きことば研究室　見坊　豪紀(室長)　西尾　寅弥　宮島　達夫

地方言語研究室　上村　幸雄(室長)　野元　菊雄　徳川　宗賢

加藤　正信

◇第2研究部　部長　興水　実

国語教育研究室　芦沢　節(室長)　村石　昭三　根本今朝男

天野　清

言語効果研究室　高橋　太郎(室長)　大久保　愛

◇第3研究部　部長　山田　巌

近代語研究室　永野　賢(室長)　進藤　咲子

古代語研究室開設準備室準備主任(併任)　山田　巌

◇第4研究部　部長　大石初太郎

第1資料研究室　林　四郎(室長)　石綿　敏雄　南　不二男

	田中　章夫	松本　昭	
第2資料研究室	飯豊　毅一(室長)	渡辺　友左	高田　正治
第3資料研究室	斎賀　秀夫(室長)	土屋　信一	
言語計量調査室室長(併任)	林　四郎	斎藤　秀紀	

現代語の文法の調査研究

A 目的・意義

現代日本語の文法を，その個別的文法事実の調査分析にもとづいて，文や句や文節の構成など，文法の各分野ごとに組織的に記述することを目ざす。

従来，この研究室で扱ってきた話しことば資料（日常談話等および映画シナリオ）による文法研究の継続のものを含むとともに，書きことば資料に関しても調査研究を行ない，また，一部については各地方言の文法との対比的調査研究をも行なう。これらによって，現代東京語，（ないしは共通語）を中心とする現代日本語の文法を，重要な個別的事実の調査のうえに，体系的に研究し記述しようとするものであって，いままでの文法研究の手うすな分野を開拓し，国語教育や国語改善などの実践上の問題に対しても寄与するところがあることを期する。

B 担　当　者

本年度のしごとの項目としごとに当たった者は，次のとおりである。

1. 語順等の研究（第3年度）——鈴木重幸
2. 句関係の研究（準備年度）——宮地　裕
3. イントネーションの研究（第3年度）——同上

衛藤蓉子がこれらの研究作業を助けた。

C 本年度の作業

1 語順等の研究

この研究の第3年度として，映画シナリオの会話文による語順，およびそれに関連するシンタクス上の問題の研究をひきつづき行なった。

前年度までに，文カード約40,000枚（パンチカード）を作り，その約$\frac{2}{3}$の

文について，それがどんな成分あるいは句から成りたっているかをカードに記入し，その結果をカード周辺にパンチする作業を行なってきたが，本年度は，それを受けて，

(1) 前年度からの作業の残りの処理

(2) 倒置のタイプの分析

(3) 目的語・補語を含む文の語順の分析

(4) 複合述語の調査

を行なった。この研究は来年度で終了の予定である。（資料とした作品については前々年度および前年度の年報参照。）

2 句関係の研究

複文を構成する句と句との関係については，従来の文法研究のうちでも，比較的手うすであったが，近年，国研報告23『話しことばの文型(2)』(構文の項)その他において，論究が進められてきた。この際，この分野の研究をさらにおし進めることを企画し，本年度はその準備として，主として文法カードの作製を行なった。

当面第1期文法カードと称するものを，明治・大正・昭和の文学作品(小説)27種，3924ページ（昭和39年度年報11ページ参照）から作製し(各20コピー)，第2期文法カードとして同じく38種，5172ページを予定し，その一部のカードをも作製した。これらの文法カードは，本研究ばかりでなく今後の文法研究資料として各方面に利用しうるであろう。また，将来，第3期以降の文法カードの作製を期している。

本年度はこのうちから会話文の文をマークすることを行なった。その作品名および文数は次のとおり。

成立年代	作者名	作品名	会話文のなかの文数
1911～1913	有島武郎	或る女	1057
1913	鈴木三重吉	桑の実	1233
1914	夏目漱石	こゝろ	1020
1917	久保田万太郎	末枯	654

成立年代	作者名	作品名	会話文のなかの文数
1919	武者小路 実篤	友情	988
1923	正宗白鳥	生まざりしならば	453
1926	宮沢賢治	銀河鉄道の夜	730
1926	宮本百合子	伸子	1644
1928	山本有三	波	3934
1931	永井荷風	つゆのあとさき	1220
1936	阿部知二	冬の宿	1236
1935～1937	川端康成	雪国	1629
1936～1938	堀辰雄	風立ちぬ	388
1939	太宰治	富嶽百景	139
		(以上A類)	計 16325
1912	森鷗外	阿部一族	210
1915	徳田秋声	あらくれ	1019
1915	佐藤春夫	田園の憂鬱	348
1915	芥川竜之介	羅生門	22
1916	倉田百三	出家とその弟子	5047
1919	菊池寛	恩讐の彼方に	154
1921～1922	志賀直哉	暗夜行路(前篇)	1255
1922	長与善郎	青銅の基督	1516
1923	里見弴	多情仏心(前篇)	3294
		(以上B類)	計 12865
1929	小林多喜二	蟹工船	697
1933	谷崎潤一郎	春琴抄	23
1952	野間宏	真空地帯	2020
		(以上C類)	計 2740

(注) A類は，その会話文のなかに，ほとんどまったく東京語以外の方言や，現代語でない時代もののことばを含まない作品。B類は，それらを含む作品。C類は，ほとんどそれらによる作品である。

会話文を当面の対象としようとするのは，地の文よりも文末が多様であること，比較的単純な複文が得やすいことなどによる。

3 イントネーションの研究

前年度にひきつづいて，文における音調の型としてのイントネーションに

ついて，東京語による一般的研究と，一型アクセント地帯のイントネーションの分析考察を行なった。

一型アクセント地帯については，主として，すでに採録した対話資料の一部（36歳の男性2人の農事に関する対話）を用いてその音韻表記を行ない，その文節的まとまりごとのアクセント発話記録と対比考察した。

また下記について，雑談の録音を採集し，カナモジ化・共通語訳の資料を作製した。

茨城県結城市西の宮町　　鈴木　アサ氏（f．75歳）
　　鈴木　梅子氏（f．51歳）
　　滝沢芳太郎氏（m．67歳）

この調査ならびに資料作製については，鈴木四郎氏・鈴木育子氏（学習院大学文学部国文科四年生）の協力を得た。

本研究は来年度にまとめる予定である。

（付）　話しことば研究室として採録してきた東京語（共通語）の録音資料の一覧を付記する。この一覧の作製は，主として，柴崎香苗・衛藤蓉子の労による。

（宮地　　裕）

話しことば研究室　録音資料　〔東京語(共通語)の部〕一覧

リール番号	略称	速度 cm/秒	時間 分	媒体	話し手 数	話し手 性別	文字化	録音 年月	分類	備考
1	ラジオ　ことばの研究室(1)	9.5	40	ラジオ	複	男女	有	'56- 2	録音構成	NHK放送「易者のことば」「デパートめぐり」ほか
2	ラジオ　ことばの研究室(2)	〃	113	〃	〃	〃	〃	'56- 6	〃	NHK放送，「就職試験」「女の社交場」ほか
3	3人の女性	〃	29	生	〃	女	〃	'57- 2	雑談	〈共〉女性雑談3種
4	九段高校生	〃	30	〃	〃	男女	〃	'55- 3	〃	男女高校生(6人)の雑談
5	ラジオ　新聞人20の扉	〃	26	ラジオ	〃	男	〃	'56-10	問答	〈共〉NHK放送，クイズ
6	ラジオ　歌手20の扉	19.0	30	〃	〃	男女	〃	'56- 9	〃	同上
7	ラジオ　私は誰でしょう	9.5	30	〃	〃	〃	〃	'57- 2	〃	同上
8	研究室の電話(1)	〃	60	生	〃	〃	〃	〃	電話	研究室での電話の応対16種
9	石野家雑談	19.0	30	〃	〃	〃	〃	'57-12	雑談	家族の雑談
10	3人の青年	9.5	22	〃	〃	男	〃	'57-10	〃	同僚の雑談
11	ラジオ　街頭録音	〃	40	ラジオ	〃	男女	〃	'52-11	討論	NHK放送，「はやりことばについて」ほか
12	職安女子部	〃	36	生	〃	女(男)	〃	〃	面接	〈共〉職業安定所係員の求職者との面接
13	職安男子部	〃	30	〃	〃	男	〃	'52- 9	〃	〈談〉同上
14	絵画館のおばさん	〃	30	〃	〃	女(男)	〃	〃	雑談	〈談〉外苑絵画館掃除婦と国研所員の雑談
15	荒井美髪店	〃	30	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〈談〉美髪店主人と客の雑談
16	三鷹学生(1)	〃	35	〃	〃	男	〃	〃	〃	〈共〉三鷹在住学生(4人)の雑談
17	三鷹学生(2)	〃	30	〃	〃	〃	〃	〃	〃	同上

リール番号	略称	速度 cm/秒	時間 分	媒体	話し手 数	話し手 性別	文字化	録音 年月	分類	備考
18	宇野夫妻	9.5	30	生	複	男女	有	'52- 9	雑談	〈談〉夫妻の雑談（報告書での略称は「Ｉ夫妻」）
19	中山家雑談	〃	30	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〈談〉家族の雑談，（報告書での略称は「Ｎ家雑談」）
20	ラジオ ことばの研究室(3)	〃	58	ラジオ	〃	〃	〃	'57- 3	録音構成	ＮＨＫ放送，「東京の女学生」ほか
21	"葦„ 雑談(1)	19.0	30	生	〃	男	〃	〃	雑談	劇団"葦„俳優たちの雑談
22	"葦„ 雑談(2)	9.5	32	〃	〃	男女	〃	〃	〃	〈共〉同上
23	相模女子大生	〃	30	〃	〃	女	〃	'52	〃	〈談〉女子大生８人の雑談（報告書では「Ｓ女子大生」）
24	友の会	〃	30	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〈談〉主婦趣味の会での雑談
25	無尽の会	〃	30	〃	〃	〃	〃	'52- 9	〃	〈談〉主婦無尽の会での雑談
26	浮世床(1)	〃	37	〃	〃	男	〃	'52- 7	〃	理髪店主人と客の雑談
27	結婚式日申込(1)	〃	33	〃	〃	男女	〃	'52- 9	応対	〈共〉式場申込受付係の客との応対
28	接客用語について	〃	30	〃	〃	〃	〃	〃	座談会	〈談〉デパート店員と国研所員との雑談
29	ラジオ 育て方の変遷について	〃	30	ラジオ	〃	〃	〃	'52- 3	〃	ＮＨＫ放送
30	"葦„ 雑談(3)	〃	15	生	〃	〃	〃	〃	雑談	劇団"葦„俳優たちの雑談
31	ラジオ 多磨墓地をたずねて	〃	15	ラジオ	〃	〃	〃	〃	録音構成	
32	ラジオ 名優のおもかげ	〃	20	〃	〃	男	〃	'57- 3	座談会	
33	ラジオ 対談	〃	30	〃	〃	男女	〃	〃	対談	
34	一研雑談	19.0	30	生	〃	〃	〃	'52- 3	雑談	旧第一研究室での雑談

35	ラジオ 夫の心	9.5	23	ラジオ	複	男	有	'57- 3	座談会	
36	一橋中学	〃	55	生	〃	男女	〃	'57- 2	問答	中学校授業風景
37	大修館応接室	19.0	30	〃	〃	〃	〃	'57- 4	雑談	応接室での雑談
38	清水家雑談	9.5	30	〃	〃	〃	〃	'52- 9	〃	家族の雑談
39	ラジオ 人物評論	〃	7	ラジオ	〃	男	〃	'57- 3	対談	匿名評論，流行歌手について
40	松根屋	〃	30	生	〃	男女	〃	'52- 9	雑談	〈談〉浅草橋扇子屋主人と使用人の雑談
41	公聴部陳情	〃	45	〃	〃	〃	〃	'57- 5	応対	都庁公聴部係員の陳情者との応対
42	警視庁補導	〃	60	〃	〃	〃	〃	'57- 1	面接	警視庁補導官の街頭少年補導
43	税務署	〃	30	〃	〃	〃	〃	'57- 5	応対	税務署職員の応対
44	上田家雑談	19.0	30	〃	〃	〃	〃	'52	雑談	〈談〉家族の雑談（報告書では「U氏談」）
45	ラジオ 独身者	9.5	30	ラジオ	〃	〃	〃	〃	座談会	独身者４人の座談会
46	タクシー苦情	〃	30	生	〃	〃	〃	'57- 5	電話	タクシー苦情委員会への苦情の電話の応対
47	歯科大学生	〃	30	〃	〃	男	〃	〃	雑談	歯科大学生２人の雑談
48	麻布主婦(1)	19.0	30	〃	〃	女	〃	〃	〃	麻布在住主婦４人の雑談
49	鎌倉主婦	9.5	30	〃	〃	〃	〃	'57	〃	鎌倉在住主婦２人の雑談
50	研究室の電話(2)	〃	30	〃	〃	男女	〃	'57- 6	電話	研究室での電話の応対数種
51	質屋	〃	30	〃	〃	〃	〃	'57	応対	質屋の主人の客との応対
52	少年工員(1)	19.0	30	〃	〃	男	〃	'57- 6	雑談	文選見習工５人の雑談
53	養老院	9.5	60	〃	〃	男女	〃	〃	〃	養老院老人４人の雑談
54	下町家庭	〃	60	〃	〃	〃	〃	〃	〃	神田在住家族の雑談
55	組合団交	〃	60	〃	〃	男	〃	'55-11	討論	官公労組と当局との団体交渉
56	ラジオ 家庭欄	〃	38	ラジオ	〃	女	〃	'57- 2	解説	NHK放送，「きもののはなし」ほか

リール番号	略称	速度 cm/秒	時間 分	媒体	話し手 数	話し手 性別	文字化	録音 年月	分類	備考
57	ラジオ 朝の訪問(1)	9.5	30	ラジオ	複	男女	有	'57- 2	対談	NHK放送
58	井戸端	19.0	30	生	〃	女(男)	〃	'52	雑談	〈談〉共同洗濯場での家庭主婦の雑談
59	ラジオ 家族会議	9.5	53	ラジオ	〃	男女	〃	'57	座談会	NHK放送，仮設家族の座談会
60	気象台訪問	〃	53	生	〃	男	〃	'52- 7	対談	気象台予報官と国研所員の対談
61	ラジオ 力と女らしさのために	〃	30	ラジオ	〃	女	〃	'58- 1	座談会	女性座談会
62	ラジオ 朗読「土」	〃	30	〃	単	〃	〃	'57-12	朗読	NHK放送「私の本棚」朗読樫村治子
63	欠									
64	2人の女性	19.0	30	生	複	〃	〃	'57	雑談	同僚の雑談
65	人文社	9.5	30	〃	〃	〃	〃	'57- 6	〃	タイピスト3人の雑談
66	文字論	〃	30	〃	単	男	〃	'57- 9	講演	国語学講演
67	ラジオ 女性対談	〃	30	ラジオ	複	女	〃	'58- 1	対談	女性対談3種
68	ラジオ 国会討議	〃	60	〃	〃	男	〃	'58- 2	討論	国会討議風景
69	P.T.A.「しつけについて」	〃	105	生	〃	男女	〃	'51- 2	座談会	小学校 P.T.A. の座談会〈言〉
70	助詞・助動詞	〃	120	〃	単	男	〃	'57- 9	講義	国語学関係講義3種
71	ラジオ 婦人番組(1)	〃	23	ラジオ	複	男女	〃	'57- 3	討論	"全国婦人指導者会議"から（〈共〉No.126に入れたものの残り）
72	リハーサル打合わせ	〃	120	生	〃	男	〃	'58- 2	雑談	テレビ放送リハーサル風景
73	学校劇リハーサル	〃	60	〃	〃	男女	〃	'58- 1	〃	中学校放送劇リハーサル風景
74	ラジオ ニュース(1)	〃	32	ラジオ	単	男	〃	'57-11	ニュース	ラジオニュース各種
75	面接録音調査(1)—大石面接	〃	60	生	複	男女	〃	'58- 3	問答	研究室での面接録音調査

76	面接録音調査(2)—身上調査(i)	〃	60	〃	〃	〃	〃	〃	〃	同上
77	面接録音調査(3)—質問10項応答(i)	〃	60	〃	〃	〃	〃	〃	〃	同上
78	面接録音調査(4)—電話かけ(i)	〃	60	〃	〃	〃	〃	〃	電話	同上
79	面接録音調査(5)—身上調査(ii)	〃	13	〃	〃	〃	〃	〃	問答	同上
80	面接録音調査(6)—質問10項応答(ii)	〃	15	〃	〃	〃	〃	〃	〃	同上
81	面接録音調査(7)—電話かけ(ii)	〃	12	〃	〃	〃	〃	〃	電話	同上
82	国語学講演	〃	31	〃	単	〃	〃	'59- 3	講演	〈共〉No.122に入れたものの残り2種
83	国語学講義	〃	51	〃	〃	男	〃	'57- 9	講義	〈共〉No.123に入れたものの残り4種
84	立合演説会	〃	64	〃	〃	〃	〃	'58- 5	演説	衆議院議員選挙候補者演説
85	NHK案内人	〃	60	〃	〃	〃	〃	'57-10	解説	放送会館案内係員の説明〈言〉〈録〉
86	結婚式(1)	〃	15	〃	〃	〃	〃	'56- 2	あいさつ	結婚式での祝辞など〈言〉，58-2〈録〉
87	ラジオ 趣味の手帳	〃	30	ラジオ	〃	〃	〃	'58- 5	随想	
88	米寿祝い	19.0	11	生	〃	〃	〃	'61- 7	あいさつ	佐々木信綱氏米寿祝賀会での佐々木氏のあいさつ
89	ラジオ スポーツ座談会	9.5	45	ラジオ	複	〃	〃	'61- 9	座談会	
90	国研10周年記念講演	〃	26	生	単	〃	無	'59- 3	講演	「これからの日本語」講師岩渕氏
91	ラジオ けさの話題	〃	30	ラジオ	〃	〃	有	'58- 5	解説	NHK放送「けさの話題」3種
92	ラジオ ニュース(2)	〃	25	〃	〃	〃	〃	〃	ニュース	ラジオニュース各種
93	ラジオ 国会中継(1)	〃	53	〃	複	〃	〃	'60- 2	討論	
94	ラジオ 国会中継(2)	〃	30	〃	〃	〃	〃	〃	〃	

リール番号	略称	速度 cm/秒	時間 分	媒体	話し手 数	話し手 性別	文字化	録音 年月	分類	備考
95	中川小学校(1)	9.5	57	生	複	男女	有	'57- 1	対談	小学校教師と国研所員との対談
96	中川小学校(2)	〃	53	〃	〃	〃	無	〃	〃	同上
97	ラジオ 婦人番組(2)	〃	52	ラジオ	〃	〃	有	'57- 3	対談 討論	"全国婦人指導者会議"から (No.72.126と同じ番組)
98	テレビ 料理(1)	〃	57	テレビ	〃	女	無	'59-11	講義	
99	テレビ 料理(2)	〃	56	〃	単	〃	有	〃	〃	
100	ラジオ 政見放送(1)	〃	47	ラジオ	〃	男	〃	'58- 5	演説	衆議院議員選挙候補者演説
101	ラジオ 政見放送(2)	〃	62	〃	〃	〃	〃	〃	〃	同上
102	ラジオ 政見放送(3)	〃	66	〃	〃	〃	無	〃	〃	同上
103	ラジオ 政見放送(4)	〃	66	〃	〃	〃	〃	〃	〃	同上
104	ラジオ 政見放送(5)	〃	64	〃	〃	〃	〃	〃	〃	同上
105	ラジオ 政見放送(6)	〃	65	〃	〃	〃	〃	〃	〃	同上
106	ラジオ 政見放送(7)	〃	64	〃	〃	〃	〃	〃	〃	同上
107	ラジオ 政見放送(8)	〃	63	〃	〃	〃	〃	〃	〃	同上
108	ラジオ 趣味の手帳(2)	〃	55	〃	〃	〃	有	'60- 2	随想	NHK放送「花と季節」「パリの裏町」
109	ラジオ ニュース解説(1)	〃	26	〃	〃	〃	〃	〃	解説	
110	テレビ 教育番組(1)	〃	39	テレビ	複	男女	〃	'60- 3	〃	学校放送など
111	テレビ 教育番組(2)	〃	39	〃	単	男	〃	'60- 2	〃	同上
112	テレビ 婦人番組(3)	〃	57	〃	単複	女	〃	'60- 7	〃	婦人向け放送
113	テレビ 自民党臨時大会	〃	65	〃	複単	男	無	〃	演説	自民党大会中継

114	テーブルスピーチ(1)	〃	6	生	単	〃	有	'55- 3	あいさつ	国研新庁舎びらき賀宴テーブルスピーチ
115	テレビ 雑 2 種(1)	〃	39	テレビ	単複	男女	無	'60- 7	あいさつ 演劇	テレビ結婚式，演芸クラブ
116	テレビ ニュース解説(1)	〃	28	〃	単	男	〃	'60- 2	解説	NHKテレビ「ニュースの焦点」
117	テレビ ニュース解説(2)	〃	30	〃	〃	〃	〃	〃	〃	同上
118	ラジオ 雑 2 種(1)	〃	54	ラジオ	〃	男女	有	〃	〃	健康相談・女性ジャーナル
119	研究部会議の話	〃	36	生	〃	男	〃	'58- 5	〃	新庁舎のことなど，西尾所長の話
120	国研創立記念日講演	〃	43	〃	〃	〃	〃	'56-12	講演	柳田国男氏の話 〈言〉 '57- 4
121	ラジオ ニュース(3)	〃	24	ラジオ	〃	男女	無	'58 '60	ニュース	ニュース各種
122	講演 4 人	〃	76	生	〃	〃	有	'53～'59	講演	〔共〕 国語学関係講演 4 種
123	国語講義	〃	124	〃	〃	男	〃	'57- 9	講義	〔共〕 国語学関係講義 4 種
124	祝辞・演説	〃	91	〃	〃	〃	〃	'55- 3 '59- 3	あいさつ 演説	〔共〕 賀宴祝辞，選挙演説
125	ラジラ 女性講義ほか	〃	62	ラジオ	〃	男女	〃	'58- 5	講義	〔共〕
126	ラジオ 解説ほか(1)	〃	120	〃	〃	〃	〃	'60- 7	解説	〔共〕
127	テレビ 解説ほか(1)	〃	91	テレビ	〃	〃	〃	〃	〃	〔共〕
128	コーヒーのはなし	〃	61	生	〃	男	〃	'58-12	講義	コーヒーの立て方
129	テーブルスピーチ(2)	〃	36	〃	〃	〃	〃	'61	あいさつ	佐伯・西下両博士退官記念会のスピーチ
130	高校授業・保健	〃	49	〃	〃	〃	〃	'62- 1	講義	高校授業講義
131	高校授業・東洋史	〃	66	〃	〃	〃	〃	〃	〃	同上
132	高校授業・家庭科	〃	66	〃	〃	女	〃	〃	〃	同上
133	ラジオ 文化講演会(1)	〃	59	ラジオ	〃	男	〃	〃	講演	〈補〉 NHK放送「教養特集」
134	ラジオ 文化講演会(2)	〃	58	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〈補〉 同上

リール番号	略称	速度 cm/秒	時間 分	媒体	話し手 数	話し手 性別	文字化	録音 年月	分類	備考
135	ラジオ 解説(2)	9.5	36	ラジオ	単	男	有	'62- 1	解説	〈補〉 NHK放送「学芸展望」「日曜解説」
136	ラジオ 雑2種(2)	〃	20	〃	〃	男女	〃	'62- 2	〃	〈補〉
137	テレビ 心と人生	〃	44	テレビ	〃	男	〃	'61-12 '62- 1	随想	〈補〉
138	テレビ 雑2種(2)	〃	44	〃	〃	〃	〃	'61-12 '62- 1	解説	〈補〉 NHKテレビ「我家の健康」など
139	テレビ ニュース解説(3)	〃	58	〃	〃	〃	〃	'62- 2	〃	〈補〉 NHKテレビ「ニュースの焦点」
140	テレビ ニュース解説(4)	〃	14	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〈補〉 同上
141	国語研究法講義	〃	42	生	〃	〃	〃	'57- 9	講義	全国指導主事講習会で水谷静夫氏の講義
142	国研10周年記念式典	〃	51	〃	〃	〃	〃	'59- 3	あいさつ	記念式典での祝辞，あいさつ8種
143	言語調査の説明	19.0	30	〃	複	男女	無	'51	解説	"山手ことばの調査"の説明風景
144	ラジオ 貞明皇后御葬儀	〃	30	ラジオ	単	男	有	'51- 5	実況	御葬儀実況放送
145	ラジオ 貞明皇后御葬儀	〃	15	〃	〃	〃	〃	〃	〃	同上
146	浮世床(2)	〃	30	生	複	〃	有(ロ)	'52- 7	雑談	理髪店主と客の雑談
147	浮世床(3)	〃	30	〃	〃	〃	〃	〃	〃	同上
148	ラジオ婦人の時間	〃	20	ラジオ	〃	男女	無	〃	解説	「子供の読書指導について」ほか
149	選挙のはなし	〃	30	生	〃	〃	有(ロ)	'52-10	雑談	選挙についての近隣知人の雑談
150	慶応病院予診室(1)	9.5	60	〃	〃	〃	〃	〃	面接	医師の患者との面接
151	慶応病院予診室(2)	〃	60	〃	〃	〃	〃	〃	〃	同上
152	看護婦	19.0	40	〃	〃	女	〃	'52	雑談	看護婦の雑談

153	早朝雑談	〃	32	〃	〃	男女	〃	'52- 9	〃	近隣知人4人の雑談
154	病気見舞	〃	25	〃	〃	〃	無	〃	〃	病人と見舞客との雑談
155	ラジオ 手相見	〃	20	ラジオ	〃	〃	〃	'52-12	録音構成	街頭手相見数人をマイクで探訪
156	女性雑談	〃	30	生	〃	女	〃	'52	雑談	
157	少年工員(2)	〃	30	〃	〃	男	〃	'52- 9	〃	
158	三應分室	〃	30	〃	〃	男女	〃	'52- 6	〃	国研所員の雑談
159	ジイサン・バアサン(1)	〃	34	〃	〃	〃	有(ロ)	'52-10	〃	老人4人の雑談
160	ジイサン・バアサン(2)	〃	35	〃	〃	〃	〃	〃	〃	同上
161	ラジオ 煙草雑談	〃	15	ラジオ	〃	男	〃	'52- 7	〃	
162	結婚式日申込(2)	〃	30	生	〃	男女	〃	'52- 9	応対	式場申込受付係の客との応対
163	結婚式日申込(3)	〃	30	〃	〃	〃	〃	〃	〃	同上
164	結婚式日申込(4)	〃	30	〃	〃	〃	〃	〃	〃	同上
165	結婚式日申込(5)	〃	30	〃	〃	〃	〃	〃	〃	同上
166	日本女子大生(1)	〃	30	〃	〃	女	〃	〃	雑談	女子大生数人の雑談
167	日本女子大生(2)	〃	30	〃	〃	〃	〃	〃	〃	同上
168	三越美容室	〃	10	〃	〃	〃	〃	'52-10	応対	美容室受付係の客との応対
169	ラジオ「男性から女性へ」	〃	30	ラジオ	〃	男	〃	'52- 9	座談会	男性3人の座談会
170	ラジオ「女性から男性へ」	〃	30	〃	〃	女	〃	〃	〃	女性3人の座談会
171	富士工業	9.5	30	生	〃	女(男)	〃	〃	雑談	女子職員の雑談
172	魚屋	〃	40	〃	〃	女	〃	'53- 8	応対	魚屋主人の客との応対
173	ラジオ 英女王戴冠式	19.0	31	ラジオ	〃	女(男)	無	'53- 6	対談実況	戴冠式についての対談
174	研究部会議ほか	〃	30	生	〃	男女	有(ロ)	'53	討論雑談	国研研究部会議風景・研究室の雑談
175	男女学生座談(1)	〃	25	〃	〃	〃	〃	'53- 7	雑談	〈談〉裁判所研修所生の雑談
176	男女学生座談(2)	〃	30	〃	〃	〃	〃	〃	〃	同上

リール番号	略称	速度 cm/秒	時間 分	媒体	話し手 数	話し手 性別	文字化	録音 年月	分類	備考
177	ラジオ ニュース(4)	9.5	25	ラジオ	単	男	有(ロ)	'53- 8	ニュース	ニュース各種
178	ラジオ ニュース(5)	〃	10	〃	〃	〃	〃	〃	〃	同上
179	ラジオ ニュース(6)	〃	10	〃	〃	〃	〃	'53- 7	〃	同上
180	ラジオ ニュース解説(2)	〃	15	〃	〃	〃	〃	〃	解説	
181	ラジオ ニュース解説(3)	〃	15	〃	〃	〃	〃	'53- 8	〃	
182	ラジオ ニュース解説(4)	〃	15	〃	〃	〃	〃	'53- 7	〃	
183	ラジオ うら盆会	〃	15	〃	〃	〃	無	'53- 1	実況	
184	ラジオ 世相玉手箱	〃	25	〃	複	〃	有(ロ)	〃	座談会	
185	ラジオ 朝の訪問(2)	〃	30	〃	〃	〃	無	'53- 2	対談	NHK放送"朝の訪問" 2種
186	ラジオ 話ははずむ	〃	30	〃	〃	〃	〃	'53- 1	座談会	
187	ラジオ 劇「ゆず湯」	〃	30	〃	〃	男女	〃	'53-12	演芸	
188	ラジオ 劇「たわむれに恋はすまじ」	〃	30	〃	〃	〃	有(ロ)	〃	〃	
189	ラジオ 劇「エルナニ」	〃	30	〃	〃	〃	無	〃	〃	
190	オジオ 講談・落語(1)	〃	30	〃	単	男	〃	〃	〃	
191	ラジオ 講談・落語(2)	〃	30	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
192	ラジオ 童話3つ	〃	45	〃	〃	女	〃	〃	〃	
193	ラジオ 童話・講談	〃	30	〃	〃	男女	〃	〃	〃	
194	キャバレー・青年男女	〃	30	生	複	〃	〃	'54	雑談	
195	編物学校 (1)	〃	28	〃	〃	女	〃	〃	〃	編物学校生徒数人の雑談
196	編物学校 (2)	〃	21	〃	〃	〃	〃	〃	〃	同上

197	料理屋	9.5	75	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	料理屋女中の雑談
198	古着屋	19.0	38	〃	〃	男女	〃	〃	応対		古着屋の店先での女主人の応対
199	高校生	9.5	13	〃	単	〃	〃	〃	あいさつ		高校生の自己紹介25種
200	相模女子大事務室	19.0	33	〃	複	〃	有(ロ)	'52- 9	雑談		<談>事務員の雑談
201	ラジオ 声色	〃	7	ラジオ	単	男	無	'52	演芸		歌舞伎役者の声色
202	秋田方言	〃	32	生	複	男女	〃	〃	雑談		秋田出身者の雑談
203	魚屋小僧	9.5	60	〃	〃	〃	有(ロ)	'52- 9	〃		魚屋小僧2人と国研所員との雑談
204	トタン屋	〃	24	〃	〃	男	〃	〃	〃		トタン屋主人と国研所員との雑談
205	録音機テスト中	19.0	7	〃	〃	男女	無	'52	〃		国研での新型録音機テスト風景
206	工芸高校定時制(1)	9.5	34	〃	〃	男	〃	'53-12	〃		高校生5人の雑談
207	工芸高校定時制(2)	〃	43	〃	〃	〃	〃	〃	〃		同上
208	放送ニュース	19.0	10	〃	単	〃	有(ロ)	'55- 3	ニュース		ニュース原稿5本，新藤アナウンサー吹込み
209	結婚式(2)	9.5	14	〃	〃	〃	無	'56- 2	あいさつ		結婚式での祝辞など
210	アナ養成所生(1)	19.0	30	〃	複	男女	有	'56- 6	座談会		アナウンサー養成所生の座談会
211	アナ養成所生(2)	〃	30	〃	〃	〃	〃	〃	〃		同上
212	アナ養成所生(3)	9.5	30	〃	〃	〃	〃	〃	〃		同上
213	ラジオ ことばの研究室(4)	〃	19	ラジオ	〃	〃	無	〃	録音構成		NHK放送“鉄道のことば„
214	日本語のアクセントほか	〃	32	生	単	〃	〃	'57- 8	講義 あいさつ		アクセントの講義，話し方教室生徒自己紹介
215	話し方教室	〃	70	〃	〃	〃	〃	〃	講義		話し方教室の講義
216	尼門跡のことば	〃	5	〃	複	女	〃	'57-11	対談		尼僧の対談
217	P.T.A.戦後の国語教育	〃	80	〃	〃	男女	〃	'57- 7	座談会		中学校P.T.A.の座談会 <言>
218	麻布主婦(2)	19.0	15	〃	〃	女	〃	'57- 5	雑談		麻布在住主婦の雑談
219	P.T.A.読み書き能力(1)	9.5	60	〃	〃	男女	〃	〃	座談会		小学校P.T.A.の座談会

リール番号	略称	速度 cm/秒	時間 分	媒体	話し手 数	話し手 性別	文字化	録音 年月	分類	備考
220	P.T.A.読み書き能力(2)	9.5	60	生	複	男女	有	'57- 5	座談会	小学校P.T.A.の座談会 〈言〉
221	桑名の家中ことば	〃	100	〃	〃	〃	無	'57-11	雑談	桑名の老人のはなし
222	懇談打合わせ	〃	60	〃	〃	男	〃	'57- 5	〃	歯科大学研究室の懇談
223	鎌教委雑談	19,0	30	〃	〃	男女	〃	'57- 6	〃	鎌倉市教育委員会職員の雑談
224	3人の青年(鐘入り)	〃	30	〃	〃	男	〃	'57-10′	(特殊)	ストレッチャーを通して聞きポーズやイントネーションの切れ目に鐘の音を入れたもの
225	ラジオ C.M.マイク探訪	9.5	73	ラジオ	〃	男女	〃	'57- 5	C.M.録音構成	ラジオC.M.,"都立盲学校を訪ねて,,
226	テレビ スポーツ実況放送(1)	〃	60	テレビ	〃	男	〃	'57- 6	実況解説	プロ野球の実況と小西得郎氏の解説
227	弁護士・交番	〃	45	生	〃	〃	〃	'57- 2	応対	
228	大修館営業部	〃	60	〃	〃	男女	〃	〃	雑談	
229	テレビ スポーツ実況放送(2)	〃	105	テレビ	単	男	〃	〃	実況	高校野球実況放送
230	新宿風景	〃	31	生	〃	男女	〃	〃	物売り	街頭物売りデパートマネキンの説明〈言〉58-1〈録〉
231	特飲店で	〃	31	〃	複	〃	〃	'57	対談	特飲店主人・従業婦と国研所員との対談
232	ラジオ 女性教室	〃	30	ラジオ	単	女	〃	'58- 5	講義	
233	ハワイ日本語放送(1)	19.0	30	〃	複	男女	有	〃	電話	ハワイ，KANI放送局の日本語放送聴取者との電話での応対
234	ハワイ日本語放送(2)	〃	30	〃	〃	〃	〃	〃	〃	同上
235	面接録音調査(8)	9.5	30	生	〃	〃	無	'58- 3	問答	研究室での面接録音調査
236	面接録音調査(9)	〃	40	〃	〃	〃	〃	〃	〃	同上

237	面接録音調査(10)	〃	60	〃	〃	男	〃	〃	〃	同上
238	面接録音調査(11)	〃	40	〃	〃	〃	〃	〃	〃	同上
239	面接録音調査(12)	〃	40	〃	〃	男女	〃	〃	〃	同上
240	電話交換手	〃	60	〃	〃	〃	〃	'58- 2	電話	電電公社交換室での交換手の応対
241	家出人保護(1)	19.0	31	〃	〃	〃	〃	'58	面接	警官の家出人補導<言>58-6<録>
242	家出人保護(2)	〃	30	〃	〃	〃	〃	〃	〃	同上
243	老母と息子	9.5	15	〃	〃	〃	〃	'58- 3	雑談	<言>58-5<録>
244	浅草風景	〃	30	〃	単	男	〃	'58- 2	物売り	街頭物売りの話しぶり<言>58-4<録>
245	絵本読み(1)	〃	35	〃	複	女	〃	'58- 1	独白	4才半女児の絵本読み<言>58-3<録>
246	絵本読み(2)	〃	20	〃	単	〃	〃	'58-10	〃	5才女児の絵本読み <言>58-12<録>
247	平安文学の流れ	〃	110	〃	〃	男	有	'59-12	講演	国研で，講師，西尾実氏
248	テレビ ことばの風車	〃	15	テレビ	複	男女	〃	'59- 7	解説	島崎藤村の文学について<言>59-9<録>
249	新型トラック発売	19.0	33	生	〃	男	無	'59- 3	説明	新型自動車発表会の説明<言>59-5<録>
250	時局問題講演	9.5	120	〃	単	〃	有	'60- 6	講演	国研で，講師，鶴見俊輔氏
251	私の方言研究	〃	90	〃	〃	〃	〃	'60- 9	随想	柳田国男氏の話
252	ラジオ 安保闘争	〃	120	ラジオ	〃	男女	無	'60- 6	講演	安保問題集会での報告・講演
253	ラジオ テレビ スポーツ実況放送(1)	〃	40	ラジオ テレビ	〃	男	有	'60- 8	実況	プロ野球，オリンピック水泳実況
254	ラジオ スポーツ実況放送(2)	〃	43	ラジオ	〃	〃	〃	〃	〃	同上
255	ラジオ スポーツ実況放送(3)	〃	40	〃	〃	〃	無	〃	〃	オリンピック水泳実況
256	ラジオ スポーツ実況放送(4)	〃	28	〃	〃	〃	〃	〃	〃	ボクシング実況

リール番号	略称	速度 cm/秒	時間 分	媒体	話し手 数	話し手 性別	文字化	録音 年月	分類	備考
257	テレビ ニュース(1)首相会見	9.5	30	テレビ	単複	男	無	'60- 5	ニュース面接	岸首相記者会見<言>'60-8<録>
258	テレビ 三党首政治討論会	〃	90	〃	複	〃	有	'60-11	討論	
259	寄席風景	19.0	15	生	単	〃	無	'60- 2	演芸	<言>'60-2<録>
260	あれから15年(1)	〃	30	〃	複	男女	〃	'60- 4	雑談	終戦当時の思い出話<言>'60-6<録>
261	あれから15年(2)	〃	30	〃	〃	〃	〃	〃	〃	同上
262	すもう茶屋(1)	〃	30	〃	〃	〃	〃	'60- 1	〃	国技館すもう茶屋風景<言>'60-3<録>
263	すもう茶屋(2)	〃	30	〃	〃	〃	〃	'60-12	〃	同上
264	浅草噺	4.75	20	〃	〃	男	有	〃	〃	明治時代の浅草の思い出話<言>'61-2<録>
265	テレビ あなたは陪審員	19.0	30	テレビ	〃	〃	〃	'61- 4	討論	模疑裁判 "国語問題について"
266	フランス語学会シンポジウム(1)	9.5	60	生	〃	〃	〃	'61- 5	〃	
267	フランス語学会シンポジウム(2)	〃	40	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
268	男女青年雑談	〃	80	〃	〃	男女	無	'61- 1	雑談	<言>'61-3<録>
269	ラジオ 私の歩んだ道	〃	42	ラジオ	単	女	〃	'62- 2	随想	東山千栄子のはなし
270	車が動かない	〃	60	生	複	男	〃	'62	電話	巡回ラジオカー無線司会室の電話での応対<言>'62-4<録>
271	ビジネスショー	〃	60	〃	〃	男女	〃	'60- 5	雑談	ビジネスショー会場風景
272	方言劇「三村踊り」	19.0	20	ラジオ	〃	〃	〃	'55- 3	演芸	沖縄大仲座の放送劇
273	テレビ 討論会「よみがえる紀元節」	〃	20	テレビ	〃	男	有	'65- 2	討論	T.B.S. テレビ「話題をつく」第15回

274	テレビ ニュース(2)	9.5	55	生	〃	男女	〃	'64- 9	ニュース	
275	テレビ ニュース解説(5)	〃	50	〃	〃	〃	〃	'64- 9	解説	
276	ラジオ ニュース(7)	〃	65	〃	〃	〃	無	〃	ニュース	
277	ラジオ ニュース解説(5)	〃	80	〃	〃	〃	〃	〃	解説	
278	ラジオ 朗読(2)	〃	40	〃	〃	〃	有	〃	朗読	
279	ラジオ 雑5種	〃	74	〃	〃	〃	〃	〃	随想講義	
280	短大生スピーチ	〃	90	〃	〃	女	〃	'64- 9 '65- 9	演説	
281	児童座談会「コマーシャルについて」	19.0	55	〃	〃	男女	〃	'65- 5	座談会	毎日放送で録音編集したものを民放連の研究所から借りて再録したもの

「分類」欄用語一覧

1. 雑談
2. 面接
3. 応対
4. 問答
5. 対談
6. 電話
7. 座談会
8. 討論
9. 演説
10. 講演
11. 講義
12. 解説
13. 説明
14. 随想
15. あいさつ
16. ニュース
17. 実況
18. 録音構成
19. 演芸
20. 朗読
21. C.M.
22. 物売り
23. 独白
24. ニュースショー

略語一覧

〔共〕…『話しことばの文型(1)』共通資料
〈共〉…『話しことばの文型(2)』共通資料
〈補〉…『話しことばの文型(2)』補充資料
〈談〉…『談話語の実態』資料
〈言〉…『言語生活』資料
〈録〉…『言語生活』録音器欄に一部掲載されたもの
(ロ)…ローマ字による文字化〔他はカナモジ化〕
「話し手の性別」の(　)は発話量の少ないことを示す

録音時間総計　約180時間19分

動詞・形容詞等の意味・用法の記述的研究

A 目的・意義

目的　現代語の動詞・形容詞等の意味・用法を，言語作品のなかで実際につかわれた用例によって記述すること。

意義　大量の用例をつかうことによって，従来よりもはるかにくわしく，客観的な記述ができる。これは，将来の辞書編集の基礎となるとともに，意味・用法記述の方法論にも寄与するものである。なお，この研究に対しては，「現代語誌記述のための基礎的研究」（代表者・林大）の題目で文部省科学研究費（総合研究）の交付を受けている。

B 担当者

見坊豪紀（動詞・形容詞等以外の用例採集）・西尾寅弥（形容詞・形容動詞の記述）・宮島達夫（動詞の記述）が担当し，高木翠が作業を助けた。

C 本年度の作業

前年度に引き続き，大量の用例カードを追加作成し，動詞・形容詞の意味の分析・記述その他を行なった。

I 用例採集の対象

本年度は，第2年度として，明治・大正・昭和にわたる次の25の文学作品から，動詞・形容詞・形容動詞を中心とした用例カードを作成したほか，これと用法上関連のある自立語も広範囲に採集，カード化した。結果として，今年度は新たに約43万枚のカードが作成され，延べ枚数は約60万枚に達した。

作品年代	作家名	作品名	ページ
1901	徳富健次郎	△思出の記(上)	228
1910	長塚節	△土(上)	208
1916	倉田百三	△出家とその弟子	213
1917	久保田万太郎	末枯	55
1922	長与善郎	△青銅の基督	114
1923	正宗白鳥	生まざりしならば	45
1928	山本有三	△波	393
1930	野上弥生子	△真知子(前)	204
1930	林芙美子	放浪記	303
1930	横光利一	機械	28
1934	室生犀星	あにいもうと	24
1936	佐多稲子	くれない	143
1938	中山義秀	厚物咲	36
1939	岡本かの子	河明り	98
1943	中島敦	李陵	51
1947	丹羽文雄	厭がらせの年齢	42
1948	大仏次郎	帰郷	348
1949	田宮虎彦	落域	43
1949	井上靖	闘牛	80
1950	井伏鱒二	本日休診	81
1950	獅子文六	自由学校	375
1951	大岡昇平	野火	176
1954	中野重治	むらぎも	351
1954	三島由紀夫	潮騒	159
1959	石川達三	人間の壁(上)	350

(25種　4148ページ)

(二か年の累計　52種　8072ページ)

以上の作品は，1作家1作品の方針にもとづき，次のような方法で選択した。

(1) 昨年度取り上げなかった作家の作品で，岩波・新潮・角川の3文庫に共通して収められている作品。△印をつけた6作品がそれで，これらは岩波文庫によった。

(2) (1)以外の19作品。これは岩波・新潮・角川のうちの2文庫に共通して収められており，かつ吉田精一編「日本文学鑑賞辞典(近代編)」(1960刊)に項目として取り上げられているものの中から選んだ。これらは新潮文庫によった。

Ⅱ　カード作成の方法

カードの作成は，昨年度と同じくトーシャファックスを用い，リプリント方式によって行なった。異なるカードの種類は8048となった。同じ種類のカードは100枚前後ずつ作成したが，これは昨年度より多い。今年度は動詞・形容詞以外にも広く自立語を採集したからである。

広く採集することにした理由は，たとえばある名詞と結びつく動詞・形容詞にどんなものがあるかを名詞のがわから検索できると動詞・形容詞の意味分析に便利であることと，将来の種々の調査研究のためにもこの際あらかじめ資料を作っておこうということであった。採集した語の範囲はおよそ，固有名詞・数詞・感動詞・接続詞・代名詞・形式化した体言や用言を除く，自立語の全般に及ぼした。(採集範囲外の語については，Ⅳ　その他の用例の採集の項を参照)

Ⅲ　意味の分析と記述

今年度採集したカードの五十音順排列はまだ終了していないので，昨年度採集したカードと雑誌九十種・総合雑誌の調査のカードとを利用して，動詞・形容詞の意味の分析・記述を進めた。なお，動詞については，一語一語の記述のほかに，意味上一群をなす動詞（さしあたっては移動をあらわすもの）の概観的な記述に着手した。

本年度，分析・記述した語は次の通りである。

動　詞　　のぼる，でる

形容詞　　うすい，厚い，たかい，ふかい

草稿の一部分を下に掲げる。

動　詞　の　部

「でる」

〔０００〕「でる」のもっとも基本的な意味は，物体が他の物体から，または一定範囲の空間から，外に移動することである。

このうちで，用例の大部分をしめるのは，人間が建物やへやからでていくものである。

○九時ごろ二人はその家を出た。(暗夜行路〔前〕 83)

○彼女は圖書館を出た。(伸子〔上〕 90)

○蓮華寺を出たのは五時であつた。(破戒 8)

○私は奥さんの後に尾いて書齋を出た。(こころ 45)

○まもなくみんなはきちんと立つて禮をすると教室を出ました。(銀河鉄道の夜 246)

つぎに，空間的ではあるが一定の物体から「でる」ものがある。この例はずっとすくない。

○「起きるよ。」と，島村は女の手を握つたまま，勢ひよく寢床を出た。(雪国 111)

○おくみは蚊帳を出て電氣をつけた。(桑の実 138)

移動を表わす動詞の総論としては，移動の動詞の意味用法を区別する下のような特徴のおのおのについて分析する。

1) 方　　向

a)	上　下	あがる／おりる
b)	内　外	はいる／でる
c)	前　後	すすむ／しりぞく
d)	特定の点に対する方向	近づく／遠のく
e)	話し手に対する方向	いく／くる
f)	最初の出発点に対する方向	いく／もどる
g)	その他の方向	いく／さかのぼる

h） 定・不定	いく／さまよう
2） 距　離	はなれる／とおざかる
3） 段　階	むかう／いく／つく
4） 結果と経過	うつる／とおる
5） 反　復	いく／かよう
6） ようす	あるく／はしる

以下にあげるのは，1）のc）「前後」の草稿の一部である。〔　〕内は要約部分。

〔動物や乗りものについては，原則として，もの自体の構造によって「すすむ」方向がきまる。「馬がすすむ」「船がすすむ」というとき，これらは頭や船首のある方向に移動するのである。しかし，つねにもの自体の構造から「すすむ」の方向がきまるとはかぎらない。〕

○電車は黄色い車體を悠長に日に照らしながら，少し走つたかと思ふとガタン，またガタン，とうるさく一丁目毎に止りながら**進む**。(伸子〔上〕63)

というのは，ニューヨークの市街電車だが，もし日本のと同じ構造だとすれば，車体そのものには前後の区別がないものである。また，

○田の面には，風が自分の姿を，そこに渚のやうな曲線で描き出しながら，ゆるやかに蠕動して**進んで**居た。（田園の憂欝 44）

○その視点が，次第に遠く，尾張町の四角（よつかど）の方へ**進んで**行く時分に，（多情仏心〔前〕160）

などについては，風や視点それ自身に前後が考えられないことはいうまでもない。

以上のように，「すすむ」とは前に移動することだと規定するとき，その「前」とは，かならずしも静止した状態で決定された方向ではない。いわばそれがすすんでいくことによって前後が決定するのである。とすれば，「すすむ」を「前への移動」と規定するのは同義反復であって，むしろ「一定方向への移動」と規定すべきかもしれない。

形 容 詞 の 部 （「ふかい」の記述から）

〔意味区分のあらまし〕

〔000〕 穴がフカイ；雪がフカイ

〔001〕 底がフカイ；フカク沈む

〔010〕 奥行がフカイ；しわがフカイ

〔011〕 床（とこ）にフカクもぐる；朝日がフカク差しこむ

〔1 〕 フカイ静けさ；沈黙がフカイ

〔20 〕 木立がフカイ；フカク茂る

〔21 〕 霧がフカイ；フカク霧がおりる

〔22 〕 緑がフカイ；フカイ焦茶色；影がフカイ

〔3 〕 秋がフカイ，冬がフカイ；夜がフカイ

〔4 〕 関係がフカイ，フカイ仲；フカク結びつく

〔50 〕 フカイ愛，フカク愛する；フカイ苦しみ，フカク苦しむ

〔51 〕 フカイ興味，フカイ関心

〔60 〕 フカク考える，フカク考察する；フカイ考証

〔610〕 フカク聞く；フカク追及する

〔611〕 フカイ理由；フカイ事情；フカイ原因

〔612〕 フカイ意味

〔70 〕 趣きがフカイ；哀れがフカイ；味がフカイ

〔71 〕 フカク眠る，フカイ眠り

〔72 〕 思出がフカイ；用意がフカイ；迷信がフカイ

〔草 稿 の 一 部〕

〔1 〕 以上にみた，空間的な一種の量を表わす「ふかい」本来の意味は，空間とは関係のない，さまざまの事象に転移しても用いられ，それに伴ってその意味もこまかなバリエーションを起こしていく。

まず，空間的な意味での「ふかい」の形象がかなり生き生きと残存しており，しかもそれが空間以外の事象に適用されている例を見よう。言いかえれば「（空間的な意味での）ふかい感じがする」という意味の例である。

○爆音が遠のくと，一層深い静けさがきた。

（村上笹雄「川の上の太陽」中央公論　1956年3月　311」

○深い静寂の中に，ぽつんとホテルが立っていた。

（丹羽文雄「母の忘却」小説新潮　1956年6月　299）

○不意に，五人の一座に来た沈黙は深かつた。

（多情仏心（前）　106）

○暫くの間は深く沈黙を守つてゐたが（或る女（前）　28）

ここで注意すべきことは，「静けさ」「沈黙」など，静的なイメージを持つ語と「ふかい」が結びつきやすく，動的な意味の語と「ふかい」とは結びつきにくい点である。「ふかい騒ぎ」のような結びつきは考えられない。波の立ち騒ぐ浅瀬とことなって，深い淵は静かであるというような日常体験は，上のような比喩ないし転義を自然なものとして了解させる上の支えとなるであろう。また，「ふかいナゾに包まれた事件」「深い神秘」のような結びつきもあるが，かくされたもの，というような意味を持つ語も「ふかい」と結びつきやすいのであろう。

Ⅳ　その他の用例の採集

上と同じ資料の範囲で，広く各種の自立語，造語要素，連語形式，特殊な付属語のほか，まま表記の面にもわたり，動詞・形容詞等の採集にもれた用例をできるだけ多く採集整理しておくことにした。これは，おのずから限界はあるにしても，動詞・形容詞等の用例カードと相まって，一種の現代語用例集を形成するものであり，同時に，種々の検索ならびに考察の用に立つべきものである。今年度は約6万枚のカードを採集したが，この結果，採集カードの累計は，約16万枚となった。これに動詞・形容詞等のカードを合わせると，二か年で総計76万枚のカードを作成したことになる。

採集した用例のごく一部を山本有三「波」（1928年）について示す。（数字は岩波文庫本のページ数）

1　複合語の後（あと）部分

紙／屑（6）　とんぼ／返り（6）　物／干／竿（22）　今／し／がた（13）

電車／通り（6）　古／新聞（7）　屈折／する（7）　停留／所（6）

2　慣用的な連語形式

生肉のにほひが鼻を打つて（6）

こんなところに突つ立つてゐると態がないや。（7）

行介はちよつと小面がにくいやうな氣がした。(40)

その上どうかすると（6）

さういふわけでもないが(13)

飲まない先からその調子ぢや(14)

一體細君なんてものは(14)

足袋の中に手紙を入れておく奴もないものだ。(25)

3　助詞・助動詞類

君なんかは半人前ぐらゐの値打つきりないんだぜ。(20)

そりや教壇に立つた時の話だあな。(21)

おきぬがどうぞしたのですか。(29)

4　促音をともなう語

彼は〔ほこりで〕赤つ茶けた風に押されて歩いた。（6）

牛肉を買つて行つてやらなくつてはならない。（6）

吹きつさらしの中を冷え切つて帰つて来た體には，(11)

5　表　　記

行介は手探りで電燈を探し，スキッチをひねつた。(11)

今後の予定

41年度以降，約4～5年間で，動詞・形容詞のおのおのについて，分析・記述の一応のまとまりをつける予定である。　（見坊）

日本言語地図の編集と刊行

「日本言語地図作成のための調査」は，昭和39年度に完了した。地方言語研究室では，昭和40年度以降，6か年計画で，日本言語地図の編集と刊行を行なう。毎年50面ずつ6年間で，計300面の地図を刊行する計画である。

本年度は，音声に関する項目，および形容詞に関する項目について作図した。昭和41年度は，動詞に関する項目について，昭和42年度以降は，名詞に関する項目について作図する予定である。

編集と刊行に関する業務は，室長上村幸雄，室員徳川宗賢，同加藤正信が分担し，白沢宏枝，芥川豊子が補助したが，非常勤職員 W.A. グローターースが加わり，さらに多くの人々の協力を得た。氏名は，地図第1集の付録「各図の説明1」のまえがきに示してある。

作図の手続きの詳細については，機会を改めて報告したい。

別に，編集・刊行の業務とは直接関係ないが，本年6月，高知市において，「日本言語地図作成のための調査」によって集められた資料の性格を検証するための調査を行なった。「日本言語地図作成のための調査」では，各調査地点で，男の老人1名について方言を尋ねたが，この調査では，居住経歴の異なるものについて，各地点2名以上について，女について，少年について調べた場合，どの程度結果が違ってくるか，また，質問方法を変えることによって，どの程度結果が違ってくるものか，確かめた。参加者は，徳川宗賢，加藤正信。調査の内容および結果の詳細については，機会を改めて報告する。

なお，昭和40年11月9日～10日に開かれた，国立国語研究所地方研究員全国協議会において，「日本言語地図」に関して，次の発表を行なった。

調査の実施と整理の経過および出版計画の報告	徳川宗賢
検証調査についての報告	加藤正信
作図についての説明，原図供覧	徳川・加藤

各報告に関して，質疑応答があった。　（徳川）

各地方言の共通語との対照的研究

A 目的と意義

地方における共通語の教育，ことに共通語の文法の教育に役立つ資料を得るために，各地方言の文法と共通語の文法とを対照的に研究する。あわせて，昭和41年度以降に地方研究員に依頼すべき研究の準備を行なう。

B 計画の概要

研究期間は昭和38年度から40年度までの3年間である。また，対象とする方言は，秋田市，鹿児島市，京都市の3方言とする（研究方法および，38年度，39年度の研究経過については，国立国語研究所年報15のP．22以下，および同16のP．30以下を参照）。

C 40年度の経過

40年度にはつぎのことを行なった。

(1) 地方研究員の委嘱

40年度は，日本言語地図の作成と刊行の第1年度にあたり，地方言語研究室がその仕事に忙殺されたため，地方研究員に対しては臨地調査を依頼しなかった。かわりに，つぎの二点について記した報告書（200字づめ原稿用紙20～30枚程度）の提出を求めた。

イ．今後の方言研究とくに地方研究員に依頼して行なうべき方言研究一般についての意見と希望

ロ．日本言語地図作成のための調査完了に際して，今後に残された問題点とそれについての意見

40年度の地方研究員には，「日本言語地図作成のための調査」を4年間以上分担した次の51名を委嘱した。

担当地域	氏名	勤務先	住所
北海道	五十嵐三郎	北海道大学文学部（助教授）	札幌市月寒西3条5丁目
北海道	長谷川清喜	北海道学芸大学(助教授)	札幌市北23条西7丁目
北海道	石垣福雄	札幌市立東栄中学校（校長）	北海道札幌郡手稲町西野79
青森	此島正年	弘前大学教育学部(教授)	弘前市袋町20
岩手	小松代融一	岩手医科大学教養部（教授）	盛岡市山岸町1丁目1の2
秋田	北条忠雄	秋田大学学芸学部(教授)	秋田市手形東新町1
山形	後藤利雄	山形大学文理学部(講師)	山形市緑町2丁目10の2
山形	佐藤亮一	東北大学大学院(学生)	仙台市福室字松堂市営住宅LB32の135
福島	三浦芳夫	県立田村高校(教諭)	福島県田村郡三春町大町51
茨城	金沢直人	茨城大学教育学部（助教授）	水戸市石川町4043の2
栃木	多々良鎮男	宇都宮大学(助教授)	宇都宮市一ノ沢町1の61
群馬	上野勇	県立高崎工業高校(教諭)	沼田市西倉内町810
埼玉	江原襄	川越市立城南中学校（教諭）	川越市南通町9の17
千葉	加藤信昭	徳島大学学芸学部(講師)	徳島市北島田町1の111の8県営住宅矢三団地28号
千葉	後藤和彦	茨城工業高等専門学校(講師)	勝田市中根長堀6の6
東京	馬瀬良雄	信州大学文理学部（助教授）	長野市淀ケ橋柳町アパートB14の1
神奈川	日野資純	静岡大学人文学部（助教授）	静岡市北安東694の6
新潟	劔持隼一郎	県立柏崎高校(教諭)	柏崎市柏木町1255の194
富山・石川	岩井隆盛	金沢大学教育学部(教授)	石川県河北郡津幡町字清水ホ313
福井	佐藤茂	福井大学(教授)	福井市乾徳4丁目3の26
山梨	清水茂夫	山梨大学(助教授)	山梨県中巨摩郡白根町百々3062
長野	青木千代吉	三水第二中学校(校長)	長野県更級郡更北村中氷鉋1089
岐阜	谷開石雄	県立岐阜商業高校(教諭)	岐阜市旦の島402
静岡	望月誼三	静岡大学教育学部(教授)	静岡市北安東628
愛知	山田達也	名古屋市立大学教養部(助教授)	名古屋市中村区大秋町3の26
三重	慶谷寿信	名古屋大学文学部(助手)	名古屋市東区山田東町3の108第一郷荘ほ号
滋賀	筧大城	県立虎姫高校(教諭)	長浜市北新町4の4

京都	奥村三雄	岐阜大学学芸学部（助教授）	岐阜市長良六本松大学住宅
京都	遠藤邦基	京都大学大学院（学生）	京都市左京区岩倉花園町403大久保方
大阪	前田勇	大阪学芸大学（教授）	大阪市東住吉区田辺西町6の34
兵庫	和田実	神戸大学教養部（助教授）	神戸市垂水区神田町3の6
兵庫	岡田荘之輔		兵庫県美方郡温泉町湯
奈良・大阪	西宮一民	皇学館大学（教授）	伊勢市中村町30の14
和歌山	村内英一	和歌山大学（助教授）	和歌山市片岡町1の1
鳥取・島根	広戸惇	島根大学文理学部（教授）	出雲市今市町元宮町
島根	岡義重		島根県簸川郡斐川町
岡山	虫明吉治郎	県立岡山操山高校（教諭）	岡山市津島2413の15
広島	村岡浅夫	大野中学校（校長）	広島県佐伯郡五日市町屋代121
山口	阿波陽	県立下関南高校（教諭）	下関市みもすそ川町6の35
徳島	宮城文雄	徳島大学学芸学部（教授）	徳島県那賀郡那賀川町島尻931の2
香川	近石泰秋	香川大学学芸学部（教授）	高松市九番町8公務員宿舎41
愛媛	杉山正世	新田高校（教諭）	今治市河南町2丁目267
高知	土居重俊	高知大学（助教授）	高知市弥生町44
福岡	都築頼助	福岡学芸大学（教授）	福岡市高宮玉川町56
佐賀・長崎	小野志真男	佐賀大学教育学部（教授）	佐賀市赤松町中館93
熊本	秋山正次	熊本大学教育学部（助教授）	熊本市若葉町36の12
大分	糸井寛一	大分大学学芸学部（助教授）	臼杵市海添190
宮崎	岩本実	宮崎大学学芸学部（教授）	宮崎市下水流町190の1
鹿児島	上村孝二	鹿児島大学法文学部（教授）	鹿児島市武町965
沖縄	仲宗根政善	琉球大学（教授）	那覇市字大道262
沖縄	外間守善	琉球大学（助教授）	東京都杉並区上荻窪1の57

(2) 地方研究員全国協議会における報告と協議

11月9，10の両日に地方研究員全国協議会が行なわれた。この協議会は，「日本言語地図作成のための調査」の結果について，研究所が地方研究員に対して報告を行なうことをおもな目的として行なわれたが，席上，

(1)によって40年度地方研究員が提出した報告書の内容の紹介と，今後の地方研究員制度のありかたについての協議も行なわれた。

(3) 鹿児島市および秋田市方言の録音テキストの再検討と印刷

昭和38年度に作成した鹿児島市および秋田市の録音テキストについて，上村孝二氏(鹿児島大学教授，国立国語研究所地方研究員)，北条忠雄氏(秋田大学教授，国立国語研究所地方研究員)の協力をえて，内容の再検討を行ない，うち，鹿児島の分については「鹿児島市方言録音資料」(国立国語研究所地方言語研究室編，非売品)として，タイプ印刷にした。

(4) 秋田市方言の質問調査

秋田市において，インフォーマント3名について，文法に関する質問調査を行なった。インフォーマントの選定その他については，北条忠雄氏および，井上章(秋田大学助教授)の協力をえた。

(5) 昭和41年度以降の地方研究員に依頼する研究についての準備

これまでの成果をもとにして，41年度以降に地方研究員に依頼する文法の調査のための，調査票を作るしごとにとりかかった。

D 今後の予定

この研究は，41年度から主として地方研究員に依頼して行なう予定の「全国方言文法の対比的研究」のなかに解消されて引きつがれる。研究成果もその一部として発表していく予定である。

E 担当者

担当者は地方言語研究室の次の3名である。

上村幸雄　徳川宗賢　加藤正信

本年度は主として上村が担当した。また，白沢宏技と芥川豊子(第4研究部)の2名がこの研究を補助した。

(上村)

中学生の言語習得に関する研究

I　中学生の漢字習得に関する研究（継続）

A　目的・意義・担当者

中学生が義務教育課程終了までに，どれくらいの漢字をどのようにして習得するか，中学校3年間にわたり，事例的に，特定個人についての漢字の習得状況を量的・質的に追跡調査し，中学生の文字習得の可能な量とその習得状況・過程・要因を推定しようとするものである。

昭和39年度から着手，昭和40年度は，芦沢節・根本今朝男の分担，川又瑠璃子の補助によって行なわれ，そのうち根本今朝男は，作文による漢字使用の実態調査を主として担当(別掲)，川又瑠璃子は，調査の実施・集計整理など，作業の全般に参加した。また，一定期間，数名の臨時補助者が，一部の集計作業を助けた。

B　これまでの経過

中学生の漢字習得を研究する方法として，当用漢字全数音訓読み書き調査を行なった。これは，中学生の漢字力をできるだけくわしくみるために，事例研究の方法をとり，当用漢字を中心に（表外字にも及ぶ）全数調査を実施し，それを中学3年間継続して追究するもので，全数調査をたてまえとするので，調査方法として消却方式をとり，まず昭和39年度入学の時に全数調査を実施し，その後の調査で正しく読み書きができ習得が安定したと認められた文字は調査対象からはずして，徐々に新しく表外字をさし加えていくという方法をとった。

調　査　方　法

（読み）　当用漢字（1850字）を当用漢字音訓表で認められている音訓全部に

わたって調べる。

カードによる1対1方式（個人調査）で読みの力を追究する。

左図のように，見出し漢字のほか，その文字の音と訓（当用漢字音訓表による）が出るような語形をあらかじめカードに記入しておいて，それを読ませ，反応集計表に反応を詳しく記入する。

（書き） 問題用紙に記入させる。集団調査

文字の意味が出やすい文脈や語句を与えて，目的の文字を記入させる。

例 □（まど）をあける。 西□（せいれき） 1964年。

読みでは，音訓両方にわたったが，書きでは，原則として，生徒に親近性のある読み方をとった。（問題のあるものは，音・訓両面にわたって書かせた。）

用紙 教育漢字 16枚 教育外当用漢字 22枚

表外字の読みの調査

生徒が他教科その他の読書，テレビ，広告，看板などの文字環境から自然に習得する表外字はどの程度のひろがりをもっているかを推定しようとするもので，当研究所で，雑誌九十種の用語用字調査で行なった漢字表における表外字を中心に，他の諸資料から得た表外字の読みの力を見る。文字を示し，その読みをたずね，なお，何で，どこで，どういうことばでなど，その文字の習得の経路などをできるだけ記入させる。

調 査 対 象

調査の実施協力学校 北区稲付中学校 （校長 長谷重幸氏 国語主任 吉村安夫氏 北区教育委員会指導主事 相原正志氏推薦による）

被調査者 昭和39年度新入生8人 （男子4・女子4。知能・国語学力等学級で中位のもの）

以上のような規模で，全数調査を，2回（第1回 昭和39年4月～7月）（第2回 昭和39年12月～40年3月）実施し，その結果，漢字の読み書きの力（とくに教育漢字）は一応あるが，音訓をつくして読めるという立場からは問題があること，漢字を書く力は教育漢字の高学年用の漢字がやはり書けないこ

と，表外字の読みは，200字程度ならば，かなり接近度が高く，読める字が多いことなどが認められた。

C　本年度の作業

本年度は，この研究の第2年めにあたる。次のような研究計画を立てて実施した。

計画と実施

〔計　画〕

Ⅰ　昨年にひきつづき当用漢字全数音訓読み書き調査を行なう

年間　2回

Ⅱ　漢字習得上の問題解明のためのテストを実施する

特定の対象生徒の全数調査の補いとして，全数調査での問題点や習得の確度を吟味したり，漢字習得上の問題を解明したりするために，該当の学年の中学生(集団)に検証テストをおこない，全数調査の結果の解釈資料，次の調査への修正資料を得る。

Ⅰのb　対象生徒の漢字の習得要因資料の収集・整備をはかる

漢字の習得要因資料として学校での成績その他の資料を参考にし，他の国語学力，読書力など，標準テストの結果との関係をみる。

Ⅲ　作文等によって，調査・テスト等の意図的場面によらない自然のままの中学生の漢字の使用力の実態を見ておく

Ⅳ　この研究調査の方法や成果の解釈に資するということを考慮して，漢字調査資料の収集整備をはかり，なお，前年度から継続中の，中学校国語科教科書の主要語句調査を続行する。

〔実　施〕

Ⅰ　当用漢字(1850字)の全数音訓読み書き調査(付　表外字の読み)の実施

第1回　当用漢字全数音訓読み書き調査(表外字の読み　322字)

40年6月18日～7月21日　延べ　10回

(1回のテスト所要時間は，放課後の時間を

利用し，約2時間，1年の時より，消却文字がふえてきたので，調査の延べ回数は短縮されてきた。)

第2回　当用漢字全数音訓読み書き調査(表外字の読み　668字)

41年3月14日～3月24日　延べ　8回

Ⅱ　漢字習得上の問題解明のためのテスト

同一の対象生徒に，同じ文字を，音訓全般にわたって継続的に調査するので，習得上の問題点がいろいろ出る。すでに，第1回の調査結果から

読みにおける，音訓の難易とその習得の不均衡の問題，小学校の段階で，学習するたてまえの教育漢字における読めない音訓の問題

書きにおける，教育漢字の小学校中・高学年用の文字の習得不振の問題

などが習得上の問題点としてみられたが，2年生の第1回(通算第3回)の当用漢字全数音訓読み書き調査の結果で，さらにそれらが確かめられたので，この漢字習得上の問題点の解明を期して，漢字調査を行なった。

調査の実施校

	校長	国語主任	実施時期
北区稲付中学校	長谷重幸氏	吉村安夫氏	41年1月24日・26日
新宿区四谷第二中学校	富田義雄氏	久保田吉彦氏	41年2月4日
江東区砂町中学校	山本寛太氏	新井　章氏	41年2月8日・15日
教育大学附属中学校	鈴木　清氏	長谷川敏正氏	41年2月17日・18日
武蔵野市武蔵野第三中学校	中嶋幸三氏	久保田勝蔵氏	41年2月11日

事例調査の対象生徒のいる稲付中学校および，教育的環境がととのっているところ，地域的に環境が不備なところなど，生徒の漢字力が幅広くわかるように，学校を選び，各学校の2年生の2学級分の生徒にテストした。(武蔵野中学は，特殊事情のため1学級分)

調査の問題

問　　題	字　数	ねらいと構成	実施上の注　意
1 教育漢字の読み	45字	8人の調査結果を参考にし，主としてのものを選び，音訓全部にわたるものを成績のわるいもの，問題のあり8人にテストしたと同じ語形で提出し，事例調査結果と比較できるようにする。	時間内で答えるよう，全員に配慮する。 制限せよが解答を与えるようにする。 以下同じ。
2 教育外当用漢字の読み	50字	ねらいは教育漢字の場合と同じ。 なお，できない文字でも，既習(事例生徒の学校)文字を中心として構成した。	
3 表外字の読み	50字	8人の調査結果を参考にし，よく読めた字を中心に，50字の読みの力をみる。 なお，他教科と関連のある文字もいくつか入れてある。	
4 教育漢字の書き	50字	8人の調査結果を参考にし，(よくできた字も加えて) 成績の悪いもの，問題のあるものから文字を選び，8人にテストしたと同じ文脈・語句で提出する。 なお，読みとの対応をみるために，文字上の配慮がしてある。	
5 教育外当用漢字の書き	47字	ねらいは，教育漢字の場合と同じ。 なお，その大半は，既習文字にしてあり，また，読みとの対応をみるために，文字上の配慮がしてある。	
6 書字力の分析	8字	文字を書く際の文字の構造(偏・旁・音符など)の知識の有無や，漢字の表意性の認識の有無などを，発問によって内省させながらたしかめる。	
7 漢字の訓よみ	教育 38字 教外当 25字	8人の調査で，教育漢字・教育外当用漢字における訓よみで，問題のあるものをえらび，その読みの力，反応のしかたをみる。問題1・2と1部重複させてある。	問題8よりも先に実施する。
8 漢字の読み(訓)と意味理解	教育 15語 教外当 10語	漢字の問題のある訓よみが，ことばとしての理解と，どのような関係があるか，漢字のよみ(訓)とその語の意味理解の関係をみる。 問題7および問題1・2と対応させてある。	

問　　題	字　数	ねらいと構成	実施上の注　意
9 漢字の音よみ	教育 33字 教外当 20字	8人の調査で，教育漢字・教育外当用漢字における音よみで，特に問題のあるものをえらび，その読みの力，反応のしかたをみる。問題4・5と1部重複させてある。	
10 漢字力（漢字の音と訓と義）の分析	10語	漢字の音・訓・義の三つの面の力を分析し，音で読め，訓で字義を知ることと，それらの文字の結合による単語の意味を理解する力との関係をみる。	

問題1～5は，8人の事例調査の結果や，問題の提出方法等の検証テストの性格をもち，問題6～10は，事例調査の結果，漢字習得上，問題となると思われる点を，追究するために，重点的，発展的に，問題を構成し調査するもの。

問題用紙　10枚　　所要時間　約150分

Ⅰのb　要因調査の実施と資料の収集

対象生徒の漢字習得に関係があると思われる諸要因を明らかにしておくことは漢字の習得過程を知る上に重要であるので，学校における各教科の成績，各種のテスト結果などの諸資料の収集整備につとめる一方，われわれの手で，いろいろのテストを実施し，要因資料の収集につとめた。テストは対象生徒だけとし，だいたいの位置づけができる利点をとって，市販の標準テストの中から選んだ。

1　新・標準綜合学力検査(国語　中2)　　40年12月13日実施
2　教研式総合読書力診断テスト(中学生用)　〃　〃　〃　〃
3　クローズ式　読書力検査(中学生用)　　40年12月16日　〃
4　京大NX知能検査　9—15　　〃　〃　〃　〃

上記テストの実施の結果，8名とも，国語学力・読書力・知能において，だいたい中位ないし中の上ぐらいのところに位置していることが確かめられた。

Ⅲ　作文による中学生の漢字使用に関する実態調査

作文によって，調査，テスト等意図的場面によらない自然のままの中学生の漢字の使用力をみるもので，後に掲げる。

Ⅳ　漢字調査資料の収集整理および中学校国語科教科書の主要語句調査

この二つの調査研究は，それぞれ独立するものであるが，当面，中学生の漢字習得に関する研究のための基礎的資料を得ることを主目的として，随時進められた。

漢字調査資料の収集は，今年度は，従来の漢字学習指導についての展望ができるように漢字学習指導についての参考諸文献を必要に応じて収集(25点)，また収集不能のものは，将来，複写できるように，その所在を確かめる（例「中学校ニ入学セル当初ノ生徒ノ漢字ニ関スル知識ノ調査」森本角蔵〈大13〉）などして，資料の収集整備につとめた。

中学校国語科教科書の主要語句の調査は，前年度に引きつづき（前年度までに4種の国語教科書について主要語句約6000語(句)を採集した）さらに一種の教科書の主要語句を採集，計8000枚のカードについてパンチカードへの記入および，1部項目のパンチ化をすませ，5種の教科書について，語・句ごとに，提出教科書名，提出学年，初出ページ，漢字・ひらがな・漢字かなまじりなどの文字別，提出文脈等がわかるところまで整備された。

結果のあらまし

Ⅰ　当用漢字全数音訓読み書き調査

結果については，整理中のものもあるので，第3回（2年1学期実施）の全数読み書き調査の結果を中心に，その概要だけをあげておく。

第3回の当用漢字全数読み書き調査(付，表外字322字)の結果を数量的にみると次のようで，第1表は教育漢字・教育外当用漢字・表外字(雑誌九十種の用字調査「現代雑誌九十種の用語用字——漢字表」で，度数9度以上の表外字)が，第1回入学時の調査結果と比べて，どの程度読み書きできるようになっているかをみたもの。第2表は，これも個人別には，それぞれどれだけの文字が読み書きできるようになったかをみたものである。第1・2表で読めた(正答)というのは，従来の漢字調査の結果と比較するた(→47ページ)

（第１表） 当用漢字全数読み書き調査結果（付表外字読み） 1・3回

字種 / 読み・書き / 調査 / 時期 / 平均正答字数 平均正答率	教育漢字（881字）				教育外当用漢字（969字）				表外字		
	読み		書き		読み		書き		読み		
	第1回	第3回	第1回	第3回	第1回	第3回	第1回	第3回	第1回（100字）	第2回（220字）	第3回（322字）
正答 100％の漢字	813字 (92.3)％	877 (99.5)	347 (39.4)	531 (60.3)	187 (19.3)	531 (54.8)	18 (1.9)	48 (5.0)	* 16 (16.2)	12 (5.5)	31 (9.6)
87.5％	56 (6.4)	4 (0.5)	155 (17.6)	135 (15.3)	117 (12.1)	140 (14.4)	20 (2.1)	65 (6.7)	10 (10.1)	8 (3.6)	39 (12.1)
75.0％	9 (1.0)	0 (0)	118 (13.4)	119 (13.5)	103 (10.6)	82 (8.5)	30 (3.1)	68 (7.0)	8 (8.1)	18 (8.2)	26 (8.1)
62.5％	3 (0.3)	0 (0)	75 (8.5)	44 (5,0)	87 (9.0)	57 (5.9)	36 (3.7)	67 (6.9)	11 (11.1)	16 (7.3)	26 (8.1)
50.0％			83 (9.4)	30 (3.4)	96 (9.9)	43 (4.4)	50 (5.2)	87 (9.0)	8 (8.1)	23 (10.5)	37 (11.5)
37.5％			53 (6.0)	16 (1.8)	84 (8.7)	27 (2.8)	73 (7.5)	119 (12.3)	6 (6.1)	13 (5.9)	21 (6.5)
25.0％			30 (3.4)	4 (0.5)	75 (7.7)	25 (2.6)	79 (8.2)	125 (12.9)	7 (7.1)	29 (13.2)	28 (8.7)
12.5％			15 (1.7)	1 (0.1)	88 (9.1)	37 (3.8)	150 (15.5)	151 (15.6)	9 (9.1)	29 (13.2)	44 (13.7)
0％			3 (0.3)	0 (0)	132 (13.6)	27 (2.8)	513 (52.9)	239 (24.7)	24 (24.2)	72 (32.7)	70 (21.7)

* 表外字の第１回調査文字数は100字であるが，印刷上のミスから，実際は99字について整理してある。

(第2表) 個人別成績一覧

字種 / 読み・書き / 調査期日 / 氏名	教育漢字 (881字)						教育外当用漢字 (969字)						表外字		
	読み			書き			読み			書き			読み		
	第1回 (39.4~7)	第2回 (40.1~3)	第3回 (40.5~7)	第1回	第2回	第3回	第1回	第2回	第3回	第1回	第2回	第3回	第1回 (100字)	第2回 (220字)	第3回 (322字)
男 K・M 正答字数	880字	881	881	843	865	875	758	886	910	363	490	615	60	91	195
正答率	(99.9%)	(100)	(100)	(95.7)	(98.2)	(99.3)	(78.2)	(91.4)	(93.9)	(37.5)	(50.6)	(63.5)	(60.6)	(41.4)	(60.6)
N・T	875 (99.3)	880 (99.9)	881 (100)	689 (78.2)	720 (81.7)	738 (83.8)	606 (62.5)	735 (75.9)	812 (83.8)	121 (12.5)	167 (17.2)	225 (23.2)	49 (49.5)	79 (35.6)	120 (37.3)
M・M	877 (99.5)	881 (100)	881 (100)	802 (91.0)	839 (95.2)	849 (96.4)	544 (56.1)	751 (77.5)	840 (86.7)	183 (18.9)	272 (28.1)	416 (42.9)	41 (41.4)	56 (25.5)	122 (37.9)
M・N	881 (100)	881 (100)	881 (100)	646 (73.3)	713 (80.9)	739 (83.9)	710 (73.3)	818 (84.4)	851 (87.8)	138 (14.2)	183 (18.9)	237 (24.5)	63 (63.6)	94 (42.2)	151 (49.7)
女 K・E	879 (99.8)	881 (100)	881 (100)	756 (85.8)	795 (90.2)	831 (94.3)	497 (51.3)	704 (72.7)	785 (81.0)	201 (20.7)	298 (30.8)	411 (42.4)	49 (49.5)	69 (31.4)	140 (43.5)
K・I	842 (95.6)	870 (98.7)	880 (99.9)	600 (68.1)	655 (74.3)	770 (87.4)	307 (31.7)	539 (55.6)	690 (71.2)	82 (8.5)	127 (13.1)	254 (26.2)	38 (38.4)	41 (18.6)	132 (41.0)
K・R	853 (96.8)	868 (98.5)	878 (99.7)	524 (59.5)	642 (72.9)	707 (80.2)	351 (36.2)	528 (54.5)	597 (61.6)	79 (8.2)	131 (13.5)	194 (20.0)	28 (28.3)	34 (15.5)	95 (29.5)
F・K	879 (99.8)	881 (100)	881 (100)	702 (79.7)	787 (89.3)	805 (91.4)	531 (54.8)	722 (74.5)	860 (88.8)	190 (19.6)	230 (23.7)	341 (35.2)	46 (46.5)	72 (32.7)	159 (49.4)

8人平均	870.8 (98.8)	877.9 (99.6)	880.5 (99.9)	695.2 (78.9)	752.0 (85.4)	789.3 (89.6)	538.0 (55.5)	711.0 (73.4)	793.1 (81.9)	169.6 (17.5)	237.0 (24.5)	336.6 (34.7)	46.8 (47.3)	67.0 (30.4)	139.3 (43.3)

（第3表）　教育漢字(881字)音訓読み書き調査結果　（第3回調査〈2年1学期〉までに，音訓を考慮に入れて文字習得の状況をくわしくみた場合。（　）内は%）

		読み書きとも完了				読　み　完　了				書　き　完　了			
		2回目までに	3回目	3回目までに	残	2回目までに	3回目	3回目までに	残	2回目までに	3回目	3回目までに	残
男	K・M	717字 (81.4%)	57 (6.5)	774 (87.9)	107 (12.1)	766 (86.9)	33 (3.8)	799 (90.7)	82 (9.3)	823 (93.4)	28 (3.2)	851 (96.6)	30 (3.4)
	N・T	438 (49.7)	121 (13.7)	559 (63.5)	322 (36.5)	617 (70.0)	122 (13.8)	739 (83.9)	142 (16.1)	589 (66.9)	62 (7.0)	651 (73.9)	230 (26.1)
	M・M	563 (63.9)	148 (16.8)	711 (80.7)	170 (19.3)	654 (74.2)	115 (12.8)	769 (87.3)	112 (12.7)	757 (85.9)	53 (6.0)	810 (91.9)	71 (8.1)
	M・N	457 (51.9)	120 (13.6)	577 (65.5)	304 (34.5)	695 (78.9)	76 (8.6)	771 (87.5)	110 (12.5)	567 (64.4)	78 (8.9)	645 (73.2)	236 (26.8)
女	K・E	493 (56.0)	112 (12.7)	605 (68.7)	276 (31.3)	580 (65.8)	112 (12.7)	692 (78.5)	189 (21.5)	708 (80.4)	57 (6.5)	765 (86.8)	116 (13.2)
	K・I	298 (33.8)	146 (16.6)	444 (50.4)	437 (49.6)	460 (52.2)	160 (18.2)	620 (70.4)	261 (29.6)	546 (62.0)	71 (8.1)	617 (70.0)	264 (30.0)
	K・R	266 (30.2)	130 (14.8)	396 (44.9)	485 (55.1)	463 (52.6)	109 (12.4)	572 (64.9)	309 (35.1)	469 (53.2)	124 (14.1)	593 (67.3)	288 (32.7)

	読み書きとも完了				読み完了				書き完了			
	2回目までに	3回目	3回目までに	残	2回目までに	3回目	3回目までに	残	2回目までに	3回目	3回目までに	残
F・K	482 (54.7)	129 (14.6)	611 (69.4)	270 (30.6)	638 (72.4)	72 (8.2)	710 (80.6)	171 (19.4)	654 (74.2)	94 (10.7)	748 (84.9)	133 (15.1)
男子平均	543.7 (61.7)	111.5 (12.7)	655.3 (74.4)	225.8 (25.6)	683.0 (77.5)	86.5 (9.8)	769.5 (87.3)	111.5 (12.7)	684.0 (77.6)	55.3 (6.3)	739.3 (83.9)	141.8 (16.1)
女子平均	384.8 (43.7)	129.3 (14.7)	514.0 (58.3)	367.0 (41.7)	535.3 (60.8)	113.3 (12.9)	648.5 (73.6)	232.5 (26.4)	594.2 (67.5)	86.5 (9.8)	680.8 (77.3)	200.3 (22.7)
男女平均	464.3 (52.7)	120.4 (13.7)	584.6 (66.4)	296.3 (33.6)	609.1 (69.1)	99.9 (11.3)	709.0 (80.5)	172.0 (19.5)	639.1 (72.5)	70.9 (8.0)	710.0 (80.6)	171.0 (19.4)

めに，1字のもつ音・訓をすべてつくして読めたという数でなく，音・訓すべてにわたって読めたものはもちろん，音・訓どちらか読めたものも入れた数字であり，当用漢字を読み書きする力は，このように従来の調査・整理方法でみると，中学の入学時から2年時にかけて相当の習得ののびが認められる。しかし，第1年度の調査結果で，すでに見出されたように（年報16—昭和39年度参照），音訓表に認められる音・訓にわたってその文字がどのように読めるか，また書く力との関係からみるとどうか，完全に習得したと認めうる文字という立場（1・2回続けて正答できたものは習得が定着したとみなす）から厳密に調べてみたのが，第3表で，習得の文字量は，かなり減少してくる。

したがって，第1表～第3表を比べて見た時，漢字を読む力(ことに教育漢字)は相当高いが，音・訓すべてにわたっては，まだ読めていないことがわかる。教育外当用漢字の読みは，中学3年間に習得されるから，今後の問題としても，小学校の段階で学習された教育漢字の読みについて音訓上の問題が依然として残っていることがわかる。具体的な文字についてみると，次のようである。

第3回(2年前期)テスト終了時の教育漢字習得状況

全員(8人)読み書きともに完了した字

1年用漢字　25字(読み　25字 / 書き　45字)

一 二 三 四 五 六 七 十 月 火
水 土 左 大 中 小 目 手 人 山
森 雨 花 本 正

2年用漢字　55字(読み　57字 / 書き　103字)

円 王 海 学 休 牛 空 犬 見 古
考 校 高 合 国 糸 紙 時 車 書
少 心 千 前 早 多 男 池 地 知
竹 町 鳥 長 朝 東 道 南 入 年
馬 百 父 風 母 方 北 毛 夜 友
用 立 林 話 走

3年用漢字　81字(読み　104字 / 書き　148字)

暗 意 運 駅 温 科 歌 画 貝 界
活 感 岩 記 急 級 球 教 橋 近

未完了のもの(読みく音・訓のどちらかに難点のあるもの>や書きの上で，また1人でも正答できないものがあった場合)

21字(このうち，半数以上のものが読み書きできなかった文字例。数字は誤った人数。かなは問題のある読みかたを示す。)

読　み

(8人) 赤シャク　下もと (7人) 白ビャク (6人)
石コク　生キなま (4人) 木ボク　川セン

50字

読　み

(8人) 今キン　行ア　字あざ　夕セキ　天あめ
(7人) 切サイ (6人) 麦バク　音イン (5人)
谷コク　読トク　分ブ　元ガもと　外ゲほか　会エ
(4人) 何カ　作サ　間ケン　色シキ　歩ブホあゆむ
出スイ　玉ギョク

106字

読　み

(8人) 面おもて　由よし　回エ　社しゃ　体テイ

銀 君 計 県 研 原 午 語 広 才
算 市 死 使 指 寺 事 弱 終 週
集 住 所 昭 進 親 数 世 星 晴
全 台 第 茶 鉄 店 点 度 当 島
答 動 肉 配 畑 番 美 表 品 物
聞 勉 毎 妹 野 葉 様 曜 落 楽
両

4年用漢字　59字（読み 108字 / 書き 105字）

愛 案 以 育 員 院 英 横 改 害
季 喜 共 具 係 景 湖 港 差 最
材 残 史 式 種 習 順 消 章 照
植 清 線 選 他 打 帳 定 庭 働
熱 農 飛 秒 部 服 福 変 法 味
脈 問 薬 油 予 類 歴 列 録

5年用漢字　12字（読み 116字 / 書き 24字）

胃 紀 区 質 周 想 側 伝 銅 辺
牧 例

（7人）病 仕 公 （6人）重
苦 発 遠 形 流 図
板 （5人）頭 弟 客 室
助 遊 万 顔 役 食
太 新 （4人）申 後 期
皮 和

書き

（5人）止 勝 （4人）送 者

146字

読み

（8人）結 望 丁 商 業
（7人）機 絲 内 成 拾
（6人）民 幸 反 （5人）末
宮 言 唱 付 初 連
競 極 静 （4人）借 節
練 焼

書き

（7人）旗 （5人）底 初 （4人）燈
隊 付 鼻 借

182字

読み

（8人）因 功 報 統 殺
精 各 示 政 （7人）説
解 設 興 経 留 （6人）
蚕 仮 似 修 （5人）管

全員（8人）読み書きともに完了した字

未完了のもの（どのでもいいから1人書けたら場合のみ，音・訓の難点のもの〈答えがまちがっているもの〉，正しく読めるもの）

省（かえりみる）　参（まいる）　素ス　武ム　価（あたい）　織（シヨク）

責（せめる）　折（セツ）　貪（ドン）（4人）漁（リヨウ）　居（キヨる）

飯（めし）　布フ

書き

（7人）仮 辞（6人）救 移 居

（5人）修 統 寄 給 賞 余 適 敵

象 規 張 低（4人）折 慣 衛 格

単 際 謝 俵 燃 準 識 容 演 均

防 領 祝 候 貸 殺 管

6年用漢字　1字（読み　13字／書き　3字）

諸

143字

読み

（8人）衆（シユ）　厳（ゴン）　潔（いさぎよい）　眼（まなこ）　基（もとい）

供（そなえる）　宗（ソウ）　己（キ）（7人）権（ゴン）　奮（ふるう）

否（いな）　暴（バク）　就（ジユ）　採（とる）　災（わざわい）　訳（わけ）

難（かたい）　済（すむ）（6人）額（ひたい）　欲（ほつする）　臨（のぞむ）

退（しりぞく）　舌（ゼツ）　納（ノウナ）　拝（おがむ）　率（ひきいる）　皇（オウ）

授（さずける）　境（ケイ）（5人）逆（さからう）　討（トウ）　犯（おかす）

除（ジヨ）　預（ヨ）（あずける）　補（おぎなう）　推（おす）（4人）険（けわしい）

富（フ）（とむ）　我（ガ）

書き

（8人）衆 称（7人）勧 訳 供 難

就 異（6人）提 派 著 遣 厳 己

臨 災 境 版 陛 専 歓 兼 勤
(5人) 権 討 奮 欲 採 補 延 誤
蔵 従 純 宣 妻 幹 券 構 述 需
招 (4人) 宗 潔 眼 推 暴 否 険
除 富 預 逆 拝 俗 壱 聖 孝 拡
穀 資 損 認 釈 属

教育漢字は，教育外当用漢字に比べると，音訓が多様のものが多く，また，教育漢字の読みは，小学校の過程で学習するのがたてまえであるから，系統的に文字学習をしないと，これら読みにくい音や訓が読めないままに放置されてしまうおそれがある。また，このように，音・訓両面にわたり，正しく習得されないところに，漢字力の低下の要因の一つがあると思われる。

教育漢字の書きについてみると，個人的にはかなり書けるものもいるが，やはり5・6年用漢字が習得しにくく，中学2年生になっても，まだ，全員が正しく書ける字が少ないことが認められる。

表外字については，調査の結果および習得の内省から，他教科，一般読書，親しい固有名詞(人名・地名)，広告・テレビなどで，意外に接近していること，1～3回のテスト結果で，その習得状況も，あまり不安定なものでないことがわかった。

表外字の読み

全員(8人)が読めたもの

頃　藤*　僕*　岡*　杉*　鹿*　吾*　彦　智*　靴　塚*　須　鳩
堀*　汁　潟　亭*　弘**　釣　亀**　皿**　菱　洞**　枕　梶　瞳**
嵐**　柿**　堺**　殻　嘩

(注) * 印は1年入学時の調査(100字)に，** 印は1年後期(3学期)の調査(220字)の時にも全員読めた字。

その他　1年入学時　崎　阪　伊　呂　鶴　昌
　　1年後期　蓮　狼　釜　幡
} は，全員読めている。

7人～4人までが読めたもの

崎 阪 伊 唄 呂 仙 鶴 奈 灯 熊 肌 隅 也 泥 偵 椅
蓮 嶺 猫 宏 狼 辰 幡 猿 蘭 鎌 棚 桐 泡 浩 淵 鷹
壺 釜 靖 韓 濡 扉 （以上7人） 誰 那 旦 駄 俺 阿 縞
蝶 唇 桂 昌 尚 雀 薩 栃 蔭 淳 栗 菅 縄 淋 傘 爪
隈 鍵 洲 （以上6人） 巾 廻 竜 坐 殆 漬 駒 濯 炒 叱
醤 噌 播 窟 喉 噂 曹 槽 膳 函 漠 斉 樽 萩 丼 只
（以上5人） 袖 之 頁 錦 嫌 虎 庄 鍋 尻 瓶 磨 鉢 仇
甚 叉 嘘 爺 篇 垣 箸 蛇 蹟 頑 伍 眉 荻 鴨 乞 宛
峯 苑 茄 蒙 柏 盃 稀 蛋 （以上4人）

全然読めなかったもの （*印**印は読めた場合に準ず）

糎* 紐 或* 筈* 貫* 綴* 籠* 叩* 駈 訊* 勿* 挨* 稼
嬉 甘 拶* 稽* 釦** 厭** 悠** 戴** 蘆** 忽** 洩** 馴** 呑**
妓 貌** 匙 罐** 葱** 隙** 馳 巴** 拳** 艶** 吊** 吻** 恰**
綾** 厄** 嚙** 宵** 慄** 沙** 臥** 覗** 賭 鈎** 髭** 劫** 咳**
垢 妬** 尤** 戟** 撫 腎 鞄 兜** 刳** 姐 瘍 睨** 聯**
肘** 茸** 蒐** 顎** 這

その他

1年入学時に

裾 戻 逢 頬 狙 於 拭 殆 股 雰 葦

1年後期に

据 呆 鉢 昂 崖 僅 凄 粍 蒲 蒼 拐 棟 眉 披 剃 扮
挑 歎 焔 惹 憧 椀 渦 炙 盃 糞 臆 蔽 蛋 蓋

は，全然読めなかった。

Ⅱ 漢字習得上の問題解明のためのテスト

当用漢字全数音訓読み書き調査の結果で得た問題点を検証し，また習得上の問題の解明がねらいのこの調査は，41・2ページのような問題構成のもとに実施したが，結果はまだ整理中なので，そのうちから，漢字の読み，

特に，訓読みについての習得上の問題解明に資すると思われる結果の１部を記しておく。

８人の事例調査で，音は読めるが訓では読めないという現象は，事例の対象生徒のみの現象かどうかを見るために該当学年の中学２年生（５校，２学級分ずつ）に調査した（問題７，問題１・２の１部）結果，やはり，集団調査の場合でも，同様の傾向・現象があることが認められる。

問題７は，８人の調査で，音では読めるが訓よみでは不振のものから，㈠教育漢字38字，㈡教育外当用漢字25字を選んで，読ませたものであるが，学校による差（地域や教育環境等が左右している），調査の時期のずれ（８人の調査は２年の１学期末）等があっても，第４表の結果で示されるように大体同じ傾向がみられる。

（第４表）　問題７（教育漢字（一）・教育外当用漢字（二）訓よみテスト）の正答率

（一）

学校	学級	級	人	1 入る	2 和らぐ	3 老いる	4 唱える	5 商う	6 統べる	7 競う	8 省みる	省く	9 設ける	10 承る	11 肥える	12 欲する	13 授ける	14 断つ	断わる	15 率いる	16 述べる	17 臨む	18 除く	19 失う	20 試みる
				%																					
I 校		A	43	14.0	88.4	51.2	34.9	34.9	2.3	51.2	30.2	67.4	37.2	18.6	69.8	37.2	25.6	48.8	76.7	37.2	93.0	34.9	62.8	83.7	60.5
		B	44	0	79.5	56.8	25.0	34.1	0	34.1	18.2	56.8	38.6	20.5	68.2	25.0	18.2	52.3	86.4	31.8	97.7	34.1	75.0	95.5	56.8
S 校		A	39	10.3	61.5	35.9	23.1	25.6	0	33.3	20.5	71.8	48.7	10.3	53.8	7.7	0	28.2	87.2	28.2	82.1	30.8	56.4	74.4	12.8
		B	39	23.1	64.1	35.9	17.9	7.7	0	35.9	20.5	66.7	53.8	12.8	51.3	2.6	2.6	25.6	84.6	33.3	82.1	43.6	46.2	69.2	20.5
Y 校		A	40	17.5	72.5	70.0	50.0	25.0	2.5	82.5	25.0	42.5	62.5	12.5	55.0	32.5	40.0	50.0	87.5	72.5	87.5	25.0	77.5	80.0	90.0
		B	39	5.1	79.5	89.7	76.9	41.0	17.9	61.5	46.2	56.4	92.3	15.4	74.4	41.0	53.8	71.8	92.3	87.2	89.7	30.8	84.6	84.6	92.3
K 校		A	41	39.0	87.8	100	80.5	97.6	12.2	80.5	75.6	95.1	100	78.0	100	78.0	65.9	95.1	97.6	90.2	97.6	85.4	85.4	95.1	100
		B	41	58.5	85.4	95.1	85.4	85.4	9.8	82.9	68.3	97.6	100	61.0	97.6	68.3	56.1	100	100	78.0	97.6	61.0	82.9	90.2	100
M 校		A	43	18.6	86.0	72.1	48.8	60.5	27.9	65.1	48.8	60.5	69.8	20.9	81.4	62.8	20.9	67.4	81.4	46.5	93.0	30.2	76.7	88.4	83.7
計			369	20.6	78.6	67.5	49.1	46.1	8.1	58.5	39.3	68.3	66.7	27.9	72.6	39.8	31.4	60.2	88.1	55.8	91.3	41.7	72.1	84.8	68.8

学校	学級	人	21 退く	22 営む	22 経る	24 異なる	25 逆らう	26 健やか	27 難い	28 潔い	29 等しい	30 豊かな	31 尊い	32 快い	33 魚	34 器	器りつばな	35 旅路	36 飯をく	飯にぎり	37 銭入れ	小銭	38 民の頑い
			%																				
I 校	A	43	41.9	69.8	23.3	72.1	44.2	58.1	2.3	4.7	95.3	97.7	30.2 30.2	55.8	20.9	53.5	60.5	62.8	86.0	93.0	76.7	74.4	55.8
	B	44	40.9	70.5	18.2	65.9	40.9	40.9	0	6.8	97.7	97.7	50.0 31.8	54.5	40.9	50.0	61.4	59.1	86.4	100	93.2	84.1	36.4
S 校	A	39	15.4	74.4	12.8	56.4	25.6	17.9	2.6	0	92.3	92.3	5.1 53.8	30.8	20.5	48.7	56.4	59.0	69.2	89.7	66.7	61.5	25.6
	B	39	20.5	61.5	30.8	64.1	23.1	30.8	2.6	2.6	89.7	89.7	20.5 35.9	28.2	17.9	61.5	66.7	53.8	79.5	87.2	76.9	61.5	23.1
Y 校	A	40	77.5	67.5	55.0	80.0	42.5	52.5	0	2.5	97.5	97.5	47.5 32.5	60.0	55.0	37.5	52.5	65.0	90.0	95.0	72.5	77.5	60.0
	B	39	97.4	71.8	53.8	79.5	61.5	66.7	0	0	100	97.4	20.5 61.5	66.7	53.8	43.6	59.0	76.9	94.9	92.3	97.4	84.6	59.0
K 校	A	41	95.1	95.1	73.2	100	95.1	97.6	19.5	39.0	100	97.6	70.7 26.8	82.9	75.6	80.5	97.6	97.6	97.6	100	100	95.1	100
	B	41	92.7	92.7	82.9	97.6	92.7	85.4	4.9	24.4	97.6	97.6	78.0 17.1	90.2	82.9	80.5	97.6	80.5	97.6	100	97.6	87.8	97.6
M 校	A	43	51.2	79.1	44.2	74.4	53.5	72.1	2.3	18.6	90.7	95.3	51.2 39.5	58.1	53.5	55.8	74.4	74.4	93.0	97.7	86.0	79.1	72.1
計		369	59.1	75.9	43.6	76.7	53.4	58.3	3.8	11.1	95.7	95.9	42.0 36.3	58.8	46.9	56.9	69.6	69.9	88.3	95.1	85.4	78.6	59.1

（二）

学校	学級 ＼ 訓の問題よみ	1 怒る	2 充てる	3 触れる	4 描く	5 捕える	6 汚す	7 巡る	8 憤る	9 訪れる	10 欺く	11 掲げる	12 携える	13 刻む	14 探る	15 忙しい	16 戯れる	17 企てる	18 催す	19 施す	20 危うい	21 侮る	22 募る	23 炎もえる	24 仰せ	25 更に
1 校	A %	53.5	2.3	65.1	72.1	48.8	7.0	4.7	0	65.1	0	53.5	0	74.4	51.2	32.6	34.9	7.0	41.9	7.0	72.1	0	2.3	93.0	20.9	23.3
	B	65.9	2.3	75.0	68.2	36.4	6.8	0	0	65.9	2.3	47.7	2.3	77.3	65.9	34.1	38.6	9.1	31.8	2.3	84.1	0	2.3	93.2	11.4	20.5
S 校	A	23.1	0	38.5	64.1	15.4	2.6	0	0	59.0	0	69.2	0	69.2	43.6	33.3	17.9	0	35.9	7.7	59.0	0	0	92.3	0	2.6
	B	35.9	0	25.6	53.8	20.5	2.6	0	0	33.3	0	53.8	0	59.0	41.0	35.9	12.8	0	28.2	2.6	46.2	0	0	89.7	0	10.3
Y 校	A	60.0	0	62.5	80.0	57.5	2.5	0	0	70.0	40.0	50.0	10.0	92.5	55.0	70.0	7.5	32.5	22.5	5.0	75.0	0	0	87.5	15.0	27.5
	B	76.9	0	76.9	89.7	71.8	2.6	5.1	0	79.5	41.0	64.1	15.4	100	74.4	76.9	5.1	56.4	41.0	5.1	82.1	10.3	7.7	97.4	15.4	41.0
K 校	A	63.4	9.8	100	87.8	95.1	4.9	12.2	19.5	95.1	24.4	78.0	19.5	87.8	92.7	82.9	56.1	75.6	87.8	63.4	95.1	12.2	39.0	100	26.8	73.2
	B	56.1	0	95.1	85.4	87.8	7.3	4.9	22.0	90.2	22.0	70.7	17.1	85.4	92.7	82.9	36.6	53.7	82.9	39.0	92.7	12.2	41.5	92.7	54.1	70.7
M 校		53.5	0	76.8	81.4	67.4	2.3	4.7	2.3	65.1	0	55.8	0	81.4	60.5	53.5	7.0	25.6	23.3	9.3	88.4	2.3	25.6	93.0	11.6	30.2
計		54.5	1.2	68.8	75.9	55.8	4.3	3.5	4.9	69.4	14.1	60.2	7.0	80.8	64.2	55.6	24.4	28.7	43.9	15.7	77.5	4.1	13.3	93.2	15.2	33.3

これらの問題は，問題1・2で，8人の調査と同じ方法・語形で調査した場合も，第5表のように，音に比べて訓では不振のものがあり，学校によって，多少の出入りはあるが，同じ傾向が認められる。（なお，この調査を両日にわたつて行なつた学校には，被調査者に1，2のずれがある。）

(第5表) 問 題 1 の 正 答 率

学校＼学級		商		統		経			省				設		潔		率			授	
		ショウ	あなきう	トウ	すべる	ケイ	キョウ	へる	セイ	ショウ	かみえりる	はぶく	セツ	もけうる	ケツ	いよいさぎい	リツ	ソツ	ひいきる	ジュ	さけずる
1校	A	95.2	31.0	78.6	2.4	95.2	45.2	21.4	97.6	83.3	23.8	71.4	90.5	35.7	90.5	2.4	90.5	47.6	35.7	85.7	16.7
	B	100	18.6	90.7	0	100	58.1	16.3	100	86.0	18.6	58.1	90.7	30.2	90.7	2.3	100	41.9	30.2	74.4	14.0
S校	A	94.9	20.5	74.4	0	97.4	46.2	10.3	92.3	79.5	17.9	69.2	84.6	48.7	97.4	0	89.7	25.6	28.2	66.7	2.6
	B	91.9	5.4	81.1	2.7	89.2	45.9	32.4	86.5	83.8	21.6	67.6	78.4	51.4	81.1	0	81.1	27.0	32.4	56.8	2.7
Y校	A	100	25.0	90.0	2.5	92.5	75.0	55.0	95.0	92.5	25.0	45.0	95.0	62.5	85.0	2.5	97.5	52.5	70.0	82.5	35.0
	B	100	33.3	94.9	2.6	100	87.2	46.2	97.4	100	46.2	53.8	97.4	87.2	89.7	0	92.3	66.7	76.9	92.3	43.6
K校	A	100	97.6	100	12.2	100	97.6	70.7	100	100	82.9	95.1	95.1	100	100	31.7	100	92.7	87.8	100	63.4
	B	97.6	87.8	100	9.8	100	90.2	75.6	100	100	63.4	97.6	100	100	100	24.4	100	85.4	73.2	100	56.1
M 校		97.7	53.5	90.7	16.3	93.0	83.7	41.9	100	88.4	51.2	55.8	83.7	67.4	88.4	14.0	95.3	60.5	41.9	83.7	16.3
計		97.5	41.9	89.0	5.5	96.4	70.1	41.1	96.7	90.4	39.2	68.2	90.7	64.7	91.5	8.8	94.2	55.9	52.9	82.7	27.9

問題2の正答率

学校＼学級		企		募		汚			刻		掲		憤		戯		訪	
		キ	くわだてる	ボ	つのる	オ(汚物)	オ(汚職)	けがす	コク	きざむ	ケイ	かかげる	フン	いきどおる	ギ	たわむれる	ホウ	おとずれる
1校	A	69.0	7.1	95.2	2.4	81.0	66.7	0	95.2	64.3	90.5	57.1	23.8	0	64.3	31.0	90.5	73.8
	B	62.8	9.3	97.7	2.3	69.8	62.8	2.3	97.7	74.4	97.7	39.5	11.6	0	58.1	32.6	95.3	62.8
S校	A	51.3	0	89.7	0	7.7	17.9	2.6	94.9	74.4	82.1	71.8	20.5	0	66.7	15.4	84.6	51.3
	B	43.2	0	86.5	0	13.5	24.3	5.4	83.8	62.2	83.8	48.6	5.4	0	62.2	8.1	75.7	29.7
Y校	A	70.0	32.5	90.0	2.5	35.0	47.5	2.5	95.0	92.5	80.0	52.5	57.5	0	60.0	10.0	97.5	72.5
	B	79.5	43.6	94.9	5.1	61.5	66.7	0	100	94.9	94.9	64.1	56.4	0	69.2	5.1	97.4	84.6
K校	A	85.4	68.3	100	36.6	100	97.6	7.3	100	85.4	97.6	68.3	92.7	19.5	85.4	56.1	100	90.2
	B	85.4	53.7	97.6	39.0	95.1	97.6	4.9	100	85.4	100	68.3	87.8	22.0	87.8	34.1	100	85.4
M校		62.8	25.6	93.0	20.9	79.1	76.7	2.3	97.7	65.1	90.7	55.8	30.2	2.3	53.5	9.3	93.0	72.1
計		67.9	26.8	94.0	12.3	61.4	62.7	3.0	96.2	77.5	91.0	58.4	43.0	4.9	67.4	22.7	92.9	69.6

音では読めるが，訓では読めないという場合，訓のもっていることばそのものとの親近性ということが考えられる。不振の語の意味把握の程度，接近の度合を調べたのが，問題8であるが，問題のそれぞれの語について，1意味の書けるものは意味を書く，2意味が書けない場合は，どういう時に使うか，または使用例などを書く，3なんとなく意味はわかるが，うまく言えない，4どういう意味かわからないの4通りの反応をさせた場合，第6表のような結果となる。(5校平均)

(第6表) 問 題 8 の 結 果

語 / 反応・評価 / 反応	1 老いる		2 商う		3 唱える		4 和らぐ		5 統べる		6 競う		7 省みる		省く	
	A 生徒の反応	B 判定者の評価	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B
意味を書いたもの	81.1	75.7	70.6	62.5	42.3	15.9	50.9	35.0	22.1	13.2	82.8	81.4	66.0	61.2	82.5	72.8
使用例をあげたもの	2.7	1.8	4.0	3.2	21.6	18.9	15.4	14.0	4.6	2.2	8.1	7.3	3.8	3.8	6.2	5.7
うまくいえないもの	6.5		11.6		27.8		27.2		23.7		4.6		15.1		7.3	
意味がわからないもの	9.7		13.7		8.3		6.5		49.5		3.5		15.1		4.0	

語 / 反応・評価 / 反応	8 設ける		9 承わる		10 欲する		11 率いる		12 経る		13 異なる		14 尊い		15 潔い	
	A 生徒の反応	B 判定者の評価	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B
意味を書いたもの	68.2	44.7	70.3	44.5	60.9	52.0	55.0	35.8	40.4	21.3	71.4	56.3	64.4	46.4	54.2	38.8
使用例をあげたもの	12.4	10.0	9.7	8.1	2.4	2.4	13.7	11.9	9.4	7.3	3.0	2.7	4.9	4.0	9.4	8.9
うまくいえないもの	16.4		14.8		13.5		19.4		20.5		14.8		17.3		23.4	
意味がわからないもの	2.9		5.2		23.1		11.8		29.6		10.8		13.5		12.9	

語 / 評価・反応 / 反応	1 描く		2 訪れる		3 欺く		4 携える		5 募る		6 戯れる		7 催す		8 施す		9 汚す		10 触れる	
	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B
意味を書いたもの	77.1	42.6	87.6	70.9	60.1	22.6	34.8	22.4	37.7	29.4	55.5	20.5	56.3	42.3	42.3	26.1	63.6	48.8	84.6	81.7
使用例をあげたもの	9.7	9.4	5.4	5.4	10.0	8.1	3.8	2.4	9.4	7.5	8.9	8.1	12.9	11.6	7.0	5.4	9.2	8.6	5.4	4.9
うまくいえないもの	10.2		5.4		18.1		22.9		22.4		23.2		14.3		30.7		13.5		6.5	
意味がわからないもの	2.9		1.6		11.8		38.5		30.5		12.4		16.4		19.9		13.7		3.5	

Aは生徒が示した反応数の百分比。

Bは，生徒の反応(1・2)について，正否の判定をした結果，正しいと認めた数の百分比。

問題では，おいる〈老〉あきなう〈商〉という形で提出した。なお，ある学級では文字を消して，ことばのみ（統べる・経るは同音の語を考慮して，文字を添えた)をたずねてみた。

上の結果から，読めない訓の語には，語としても生徒に親近性のないもの（4および3の反応のもの）が相当数あること，また，意味がわかっているとして意味を書いているが，実は誤まっているというものもあることが確かめられる。

たとえば，教育漢字の統の字の訓「すべる」は，読みの結果も低い（正答率8.1%）が，ことばとしての意味の把握も相当低い(15.4%)こと，また，意味がわかっているとしながら，す(滑)べる，ころぶなどの意に誤まっているものが相当ある。唱える→おがむ　設ける→もうかる，とくをする，利益をあげる　欲する→ほっとする，気持がさっぱりする　経る→減る，すくなくなる　戯れる→むらがる，一つのところに集る　汚す→けがをする，きずをつけるなどの誤答現象もある。これらは，元来漢字の意味を知る上での一つの手がかりとなる訓であるにもかかわらず，すでに，ことばとしての理解の上での抵抗があるために，正しい読みかたがわからないことにもなり，ひいては漢字力不振の一因ともなるわけで，語い教育との連関が改めて認識されるのである。

なお，これらの訓よみの習得不振には，読みのテストの誤答・無答反応と語い把握との関係などの一連の調査結果から，読みにくい訓の問題に，次のような二つの面があることが推定される。

一つは，その訓が生徒の日常生活の中で，次第に使用されなくなっていることばである場合であり，

例　教育漢字　　唱える(読みの結果でも，正答率49.1%　誤答率24.7%　無答率26.2%　以下同じ)　商う(46.1　16.8　37.1)　統べる(8.1　60.9　30.9)　省みる(39.3　22.4　38.3)　承る(27.9　26.3　43.8)　欲する(39.8　43.1　17.1)　授ける(31.4　63.7　4.9)　臨む(41.7　14.1　44.2)　経る(43.6　27.4　29.0)　難い(3.8　52.6　43.6)　潔い(11.1　53.9　35.0)など

当用漢字　　戯れる(24.4　22.0　53.7)　催す(43.9　14.6　41.5)　施す(15.7　34.7　49.6)　侮る(4.1　30.4　65.6)　募る(13.3　34.1　52.6)

仰せ(15.2　32.0　52.8)　など(生徒は，むしろ，商売する，統一する，反省するといった漢語の形で，意味把握をしており，事実，漢語の形にして，意味を答えたものが多い。)

二つには，当用漢字音訓表の読み方に，伝統的な訓とはいえ，すでに，現在の生徒の日常の言語生活とはあまりなじまないよみがとられている場合である。

「潔い」は「いさぎよい」のほかに，別訓「きよい」もあるわけで，「いさぎよい—11.1%」「きよい—53.9%」の反応は，生徒のふたつの訓に対する親近度を如実に示している。

その他，「汚す」の正答率は4.3%と低いが，多くは「よごす」(65.0%)と，世間で行なわれている読みの形で反応しており，「けがす」というと，「穢」の字をあてたくなると，「よごす」とこたえた優秀児もいた。

また，「巡—めぐる　3.5%」「まわる　66.4%」，「償る—いきどおる　4.9%」「おこる・いかる　17.9%」のように，音訓表制定以前，世間で通用し，普及もしていたよみかた(例　お巡りさん)による一連のものがあげられる。

その他，「入る」の「いる，はいる」，「魚」の「うお，さかな」(関東地域では，「うお」といわず「さかな」というのが一般で，本調査は東京地区のみであったから，優秀児でも「さかな」と反応している例が相当ある)などの類もあって，漢字習得の問題として，音訓の側から，さらに検討を加える必要が感じられる。

D　今後の予定・見通し

この研究は，消却方式をとりながら，今後も，年間に2度の音訓全数読み書き調査(表外字を順次にふやす)と，全数読み書き調査で得た問題点を検証，究明するテストをくり返し，3年間にわたって漢字習得についての量・質両面からの研究を続ける予定であり，最終的には，この事例研究で得た結果にもとづき，大量調査を実施し，なお，中学生の漢字教育の指導法の実態調査も合わせ行なって，それらの結果をまとめ，報告書「中学生の漢字習得の研究」を刊行したいと思っている。　(芦沢)

Ⅱ　作文による中学生の漢字使用に関する実態調査

A　調査の目的・意義

作文で，生徒が自由に使った漢字をとおして，漢字使用能力のひろがりや深まりの姿を明らかにしようとするのがこの調査の目的である。そして，生徒が，作文の中でどういう漢字をどのように使っていくか，また，どういう種類の漢字が誤りやすいか，使用上学年的傾向が認められるかなどなどについてもできるだけ明らかにし，漢字の習得，漢字の学習指導の基礎的資料を提供していこうとするものである。

B　調査の実施

1　調査対象　被験者には東京都北区内の公立中学校5校（各校とも各学年1クラスずつ）を選んだ。選定には，平均的状況が見られるようにとの観点から中位程度と見られる学校という基準を設けた。具体的手続きについては，北区指導主事相川正志氏のお力添えに負うところが大であった。

調査校および，調査校に依頼した作文の文題はつぎのとおりである。

豊島中学校	小学校時代の思い出
神谷中学校	将来の希望
清至中学校	書きやすい作文・書きにくい作文
王子中学校	機械の構造
北中学校	クラブ活動について

2　調査の時期および実施方法・回収状況

調査は39年12月に実施した。12月中に各校で時間の都合のつくときに，1校時（約45～50分）以内で書いてもらうということで各校へ依頼した。さいわい，調査は順調に行なわれ，100％回収することができた。

C　結果の概要

上記5種の文題をえらんだのは，文題による使用漢字のかたよりをできる

だけ排除するためである。実際の処理にあたっては，主として「小学校時代の思い出」を中心におこない，他の四つはその参考とするに止めた。

ここでは「小学校時代の思い出」についての結果のあらましを報告する。この場合の被験者はつぎのとおりである。

1 年 生	男 21 人	女 23 人	計 44 人
2 年 生	〃 20 人	〃 23 人	〃 43 人
3 年 生	〃 21 人	〃 19 人	〃 40 人
合 計	男 62 人	女 65 人	男 女 127 人

1 漢字の含有率

本文全体の文字数(文題・署名に用いられた文字，「 」、。？々等の記号類を除く，以下これに準ずる。)に対して漢字(正字・誤字ともに1字とみて)が用いられている割合はつぎのとおりである。

	1 年	2 年	3 年
男	21.1 %	24.9 %	23.7 %
女	24.7 %	20.6 %	26.4 %
計	23.1 %	22.1 %	24.9 %

これをみると，3年が最も高くなっているが，三者の間には僅少の差しか認められず，少なくともこの結果からは含有率は学年が高まるにつれて高くなるというような傾向的なことはいえない。

2 使用漢字1人当たり異なり字数

平均して，1人当たり，何字ぐらいの異なり漢字が現われるかと見るとつぎのようになる。

	1 年	2 年	3 年	1年～3年
男	62.1 字	50.5	65.1	59.4
女	70.0 字	58.0	66.1	66.7
計	69.4 字	54.5	65.6	63.1

この結果によると，異なり漢字数は，各学年とも女子のほうが男子に比

較して多くなっている。漢字使用についての関心の度合いが，女子のほうが高いのかも知れない。しかし学年差という点では何とも言えない。

3　字種(教育漢字・当用漢字・表外漢字)別異なり字数

1人当たりの使用異なり字数は前掲のとおりであるが，1年～3年までをとおしてみたばあい，全体の使用異なり字数はどうであるか，これを表に示すとつぎのとおりである。

a．教育漢字	620字	計　852字
b．当用漢字	185字	
c．表外漢字	47字	

(1)　教育漢字はその70.4%にあたる620字がとにかく使われている。

これを配当学年と実際の使用字数との関係で見るとつぎのようになる。

学年	配当字数	使用字数	使用率
1	46	45	97.8%
2	105	101	96.2
3	187	179	95.7
4	205	146	71.2
5	194	101	52.1
6	144	48	33.3
計	881	620	70.4

使用された漢字，および使用されなかった漢字について具体的に示すことは省略するが，だいたいにおいて，当然のことながら配当学年の高いものほど使用されにくい傾向がはっきりと認められる。

(1)　表外漢字は47字使われている。具体的に示すとつぎのとおりである。

烏　椅　茨　猿　靴　鹿　崖　樺　頑　嬉　崎　磯　臼
熊　頃　渓　蕨　嫌　岡　之　叱　疹　須　誰　戚　阪
膳　駄　塚　灯　辻　戻　藤　洞　栃　瀞　乃　唄　猫
僕　堀　爺　哉　栗　鎌　呂　肋

これらのうち，最も特徴的なのは「僕」である。「僕」は，1年～3年の男子生徒のほとんどが使用している。そして誤字率もまた高い。また，

〔boku〕を「ぼく」と書く率よりも「僕」と書く率の方が高い。

表外字の中でどういう種類の漢字が使われやすいかという観点では篇やつくりのうえからは定めにくいが，使用例から帰納的に判断すると，一般的に，自分となんらかの形で交渉を持ったものごとで，自分にとって興味・関心の対象として印象づけられたものごとに使われる漢字ということができよう。そのいくつかを挙げると，たとえばつぎのようなものである。

棋→将棋	茨→いなかが茨城
猿→動物園の猿	藤→佐藤君
猫→家の猫	瀞→長瀞へえんそくに行った。

(3) 当用漢字については省略する。

4 使用漢字の誤字率

1人当たり平均して何字ぐらい誤字（誤用も含む）をおかすか。この割合はつぎのとおりである。

	1　年	2　年	3　年
男	2.14 %	3.17 %	2.92 %
女	2.99	2.80	2.54
計	2.49	2.99	2.74

上表のように，誤字は使用異なり漢字100字につき2字～3字というところで，学年差というほどのことは見られない。誤字使用については，ある生徒は，漢字を用いるとすれば正確に書き，自信のない場合はかながきする。ある生徒はうろ覚えでもとにかくそれらしい字を当ててしまうというように，性格的なもののほうがより大きく作用するようである。一方，誤字を書く傾向のある者という観点からいえば，1年68.2 %，2年76.7 %，3年77.5 %となって，学年が進むにつれてその割合いは増加の傾向が見られる。しかしながらこの現象は，あたかも，自転車にまったく乗らないうちはけがもしなかったが，自転車の練習をはじめたら，転げたりするだけ，危険度がましたというようなもので，マイナスの作用とだけきめつけることはできない。（根本）

幼児の言語発達に関する準備的研究

A　目　　的

幼児・児童・生徒が言語・文字をどのように習得し，どのように使用するか，またその要因はなにか等を明らかにする言語発達の研究は，国語教育，とくにその教育計画や指導法の確立・改善のために欠くことのできぬ基礎的な仕事として重視されなければならない。しかしながら，この言語発達の過程はきわめて複雑であるから，われわれはまず，幼児・児童・生徒の具体的な言語活動を現象的に整理することから研究は出発するが，その研究は単に現象的事実を記述するにとどまらず，究極的には次のような問題の解決をその主要なものとして含んでいる。

1　言語発達の過程とは一体いかなるものであるか。その中にどのような法則性があるか，とくに各発達段階で行なわれる学習・言語活動は発達という点からみて，どういう意味をもつのか，その関係を明らかにする。

2　言語発達の過程には質的に異なるさまざまの段階があるが，その段階にはいかなるものがあって，それらはどのように特徴づけられるのか，乳幼児から成人にいたる発達の諸段階を個人的特質にも及んで具体的に明らかにする。

3　ある段階から次の段階への移行，それは質的な発達として，発達的変化の中で最も特徴的なものであるが，その移行の内的条件を明らかにする。

4　日本語を母国語にもつ言語発達の過程は他の場合にくらべて，どのような特徴をもっているのか。また，外国語の習得の過程と母国語の習得の過程の相違を明らかにする。

5　教育は発達の中でいかなる役割を果たすのか，発達における教育の果たす役割を具体的に明らかにするだけでなく，発達を最も効果的に促進するための教育方法，教授法についての基礎的資料を提供する。

上記の課題に対して，当面，われわれは対象を幼児に限った上で，言語発達に関する従来の研究展望をはかり，今後の課題解決の長期的研究ステップと方法論に関する問題点を明らかにすることをもって，初年度の準備的研究とした。

B 担　当　者

国語教育研究室の村石昭三，天野清（1965年7月1日以降）の2名がこれにあたり，福田昭子がこの研究作業を助けた。

C 研　究　経　過

本年度は次の研究作業に従事した。

1　従来の言語発達研究の展望

2　言語・文字の記録資料の収集・整理

3　研究法確定のための言語調査

1　従来の言語発達研究の展望

この領域では，国内研究物，海外文献を収集し，各文献の研究目的・方法，結果にわたって，科学的検討を加えつつ，従来の言語発達研究を展望することにした。このために，まず，全国的に各幼稚園，保育園，研究者によびかけて協力を要請し，幼稚園，保育園で発行された研究物(非売品)を収集した。その内容は調査報告書，指導記録，指導案，カリキュラムなどにわたっており，件名をカード化し，必要な内容を転写しながら検討を加えたが，現在までに整理・検討がおわったものは295点に及んでいる。

いっぽう，海外文献は最近10年間のアメリカにおける博士論文のマイクロ・フィルム57巻を購入したが，簡単にその内訳を示すと次の通り。

発音および発音障害　Contreras, H.W., (1961) The phonological system of a bilingual child ほか12巻，語いと概念　Miller, A., (1958) An experimental study of the role of sensorimotor activity in the maintenance of verbal meaning of action-words ほか9巻，話し

ことばと書きことばの構造　Menyuk. P., (1961) A descriptive study of the syntactic structures in the language of children : nursery school and first grade ほか13巻，読みかた　Norton. M.C., (1962) The design and evaluation of a specialized program for the development of certain skills of the pre-reading child ほか6巻，インベントリー　Lewis, A.J., (1958) An inventory of the auditory and visual discrimination abilities of begining kindergarten children ほか3巻，教育プログラム　Mason. G. E., (1962) An analysis and comparison of programs for teaching word-recognition in basal reading series and phonic materials ほか4巻，その他　Creech. H. B., (1962) The responses of mothers to speech of children as determined by measures of physiological activity ほか10巻。

上記の各巻のうち，本年度は発音，文字の読みかた，文構造の研究文献を中心に検討を加えたが，記述にみられるアメリカ構造言語学の影響，早期言語教育に対する可能性の検討，言語教育プログラムの理論化が特徴的であった。

2　言語・文字の記録資料の収集・整理

全国的に各幼稚園，保育園，研究者によびかけて，幼児の言語活動を収録した録音資料および幼児が実際に書いた文字や手紙類などの文字資料を収集し，必要な内容については転写し，それらのいくつかは研究法確定のための資料として整理を試みた。言語録音資料は108巻，文字資料は500枚につき，転写をおわったが，おのおのを一覧表にしてあげれば次の通り。

幼児の言語録音資料リスト

活動	内容	園	年令	収録年月	リール番号
1A 教師の問に答える(問答)	教師との問答1対1，きょう何時におきたの？ おうちでどんな遊びを	岩手・好摩保育園	4才児(1,2年保混)	昭40.10.16	A—1
2 〃	1. 仲よしときらいな子ども 2. 写真をみて友だちの名まえをどれだけ覚えているか	東京・北多摩・翼蔭幼	3才児	昭40. 6.30	A—2
3 〃	好きな遊び	京都教育大付属幼	4才児(2年保育年少)	昭39. 6	A—3
4 〃	幼稚園でのすきな遊び	〃	5才児(2年保育年長)	〃	A—4
5 〃	幼稚園のこと	〃	5才児(1年保育)	〃	A—5
6 〃	〃	〃	4才児(2年保育年少)	〃	A—6
7 〃	〃	〃	5才児(2年保育年長)	〃	A—7
8 〃	各自が名まえをいう，すきなうた	東京・お茶の水女子大付属幼	5才児	昭37.10.22	A—8
9 〃	お誕生会での会話	東京・台東・花川戸幼	4才児	昭40. 5	A—9
10 〃	「お誕生会」録音	〃	3才児	昭39.10	A—10
11B 自由遊び・会話	3才児のことば(インタビュー)	東京・愛育研	〃	昭40	B—1
12 自由あそび	〃 (〃)	〃	〃	〃	B—2
13 〃	3才児のことば，遊戯室で	〃	〃	〃	B—3
14 〃	保育中の遊びの会話	東京・北多摩・翼蔭幼	4才児	昭40. 7.10	B—4

15	〃	1. 朝のあいさつ 2. 自由あそび 3. TVをみたあとの話し合い 4. 製作他	長崎市立桜ケ丘幼	5才児 (2年保育年長)	昭40. 6	B－5
16	〃	自由あそびのなかで，とけいづくり他	茨城・水戸・常盤幼	5才児	昭39. 6	B－6
17	自由会話	自由会話とお弁当の時間	福島・郡山・セントポール幼	〃	昭40. 6. 4	B－7
18C	あそび	モノレール遊び(自然)磁石遊びの約束	愛知学芸大付属幼	〃	昭40. 6.23	C－1
19	〃	磁石あそび，順番に道具を使う	〃	〃	〃	C－2
20	ごっこ遊び	時計屋ごっこ	栃木・育成館幼	4才児	昭40	C－3
21	ゲーム	「玉入れあそび」(みさおちゃんグループ)	埼玉・川口市立舟戸幼	5才児	昭34. 7.22	C－4
22	〃	「玉入れあそび」(つねちゃんグループ)	〃	〃	昭34. 7	C－5
23D	なぞなぞ遊び	なぞなぞ遊びで子どもに言わせる	群馬・前橋・若宮幼	5才児 (2年保育年長)	昭40. 6.10	D－1
24E	友だちどうし質疑	友だちの話を聞いてたずねる	広島・呉第一幼	5才児 (3年保育年長)	昭39. 8	E－1
25F	意見発表	意見発表	〃	〃	昭39. 6	F－1
26G	生活発表他	海に行った話他(問答を含む)	山形・鮭川保育所	3，4才児混合	昭40. 6. 9	G－1
27	生活発表	お祭りに行った話他(昭40.8.21) 大きくなったら何になりたいのか(昭40.8.26)	岩手・盛岡・くりやがわ保	5，6才児 (大半3年保育)	昭40. 8	G－2
28	〃	プールに入った経験の発表	埼玉・川口市立舟戸幼	5才児	昭34. 7	G－3
29	〃	海水浴に行ったこと	広島・呉第一幼	5才児 (3年保育年長)	昭39. 8	G－4

活動	内容	園	年令	収録年月	リール番号
30 生活発表	生活発表	広島・呉第一幼	5歳児（3年保育年長）	昭39.10	G—5
31 〃	生活発表（前半は〈絵本を見ながら話す〉内容を含む）	群馬・前橋・若宮幼	5才児（1年保育）	昭40. 6.10	G—6
32 〃	生活発表	栃木・育成館幼	4，5才児	昭39. 6，昭40	G—7
33 〃	きのうのことの生活発表	〃	4才児	昭40	G—8
34 〃	かたつむりの観察	〃	〃	〃	G—9
35 〃	町でみたこと	東京・板橋・まきば幼	5才児	〃	G—10
36H お話づくり	自由につなぎ話をする	東京・お茶の水女子大付属幼	5才児	昭40. 3	H—1
37 〃	お話づくり	〃	〃	〃	H—2
38 〃	リレー発表	広島・呉第一幼	5才児（3年保育年長）	昭39.10	H—3
39 〃	〃	東京・お茶の水女子大付属幼	5才児	〃	H—4
40I 話し合い	話し合い「子どもの日・母の日について」クラス全員で	東京・文京・明照幼	4才児	昭40. 5. 7	I—1
41 〃	「ていでん」のできごとの話し合い	京都教育大付属幼	4才児（2年保育年少）	昭40. 6	I—2
42 〃	野菜やくだものについて話し合う	〃	5才児（2年保育年長）	昭36.11	I—3
43 〃	課題をもった話し合い	広島・呉第一幼	5才児（3年保育年長）	昭38. 3	I—4
44 〃	ラジオを聞いての話し合い	栃木・育成館幼	4才児	昭40	I—5

45	〃	「マキ(犬)の話」の絵本を読んでもらったあとの話し合い	埼玉・川口市立舟戸幼	5才児	昭34. 9.21	I — 6
46	〃	遠足をした後の話し合い	〃	〃	昭34	I — 7
47	〃	「身体検査について」の話し合い	〃	〃	昭34. 5. 6	I — 8
48	〃	「おやつの時間の話し合い」中村君たちのグループ	〃	〃	昭34	I — 9
49	人形劇	人形劇「赤ずきん」を見た後の話し合い	〃	〃	昭35. 1.21	I —10
50	聞いた話の話し合い	「だんまりくらべ」の話し合い	埼玉・川口・川口南幼	〃	昭40.10	I —11
51	〃	〃	〃 蕨・東蕨幼	〃	〃	I —12
52	〃	〃	〃 北足立郡・戸田幼	〃	〃	I —13
53	〃	〃	〃 川口・松原幼	4才児(2年保育年少)	〃	I —14
54	〃	〃	〃 富士美幼	5才児	〃	I —15
55	話し合い	〃秋の自然〃についての話し合い	東京・文京・愛星幼	〃	昭40.10.12	I —16
56	〃	新潟地震の話し合い	栃木・育成館幼	4才児	昭39. 6	I —17
57	〃	うさぎの観察をもとにした話し合い	東京・荒川・道灌山幼	5才児	昭40. 4	I —18
58	〃	お正月について	東京・台東・花川戸幼	4才児	昭40.12.21	I —19
59	〃	冬休みをむかえる心構え	〃	〃	昭40.12.22	I —20
60 J	絵本を見て話す	絵本を見て話す「ドロンコハリー」	京都教育大付属幼	4才児(2年保育年少)	昭39.12	J — 1

活動		内容	園	年令	収録年月	リール番号
61	〃	〃 「おやどりとひよこ」	〃	5才児（2年保育年長）	昭34.10	J－2
62	〃	「ドロンコハリー」絵本を見ながら話す	〃	〃	昭39.12	J－3
63	〃	絵本「犬のおいしゃさん」を見て話す	〃	5才児（1年保育）	昭34. 9	J－4
64	絵を見て話す	絵を見て内容を想像する	広島・呉第一幼	〃（3年保育）	昭39. 7	J－5
65	絵本を見て話す	絵本を見ながら	福島・郡山・セントポール幼	5才児	昭40. 6.17	J－6
66K	絵を見て話す	自由に絵をかかせて，どんな絵をかいたか話させたもの	愛知学芸大付属幼	4才児	昭40	K－1
67	絵をかきながら話す	花の絵をかきながら	東京・世田谷・ゆかり文化幼	〃	昭40. 4.19	K－2
68	絵を見て話す	紙芝居を創作し，それを見ながら，すじを話す	東京・江戸川・新小岩幼	5才児	昭40. 6	K－3
69	〃	自分のかいた絵を見て話す	東京・港・みなと幼	5才児（2・3年保育）	昭36. 5	K－4
70	紙芝居につくる	紙芝居……創作<運動会の話>	東京・お茶の水女子大付属幼	5才児	昭37.12. 3	K－5
71	紙芝居	「マキ(犬)のお話」<紙芝居>を見ながらの発言	埼玉・川口市立舟戸幼	〃	昭34. 7.22	K－6
72	絵を見て話す	飛行場見学をしたことについて話す	北海道・函館・若葉幼	〃	昭40.11	K－7
73L	童話を聞いて話し合う	童話「大ちゃんと花」を聞いて	東京・渋谷・本町幼	5才児（1年保育）	昭40. 5.15	L－1
74L	童話を聞いて話し合う	創作童話「犬と雀の話」	〃	〃	昭40. 5.15	L－2
75	〃	「アリの冒険」の話を聞く	〃	〃	昭40. 5	L－3

76	〃	童話「町のとけいやさん」の話を聞く	〃	〃	昭40. 6	L— 4
77	〃	童話「そらをとびたい」を聞いて	〃	〃	昭40. 6. 5	L— 5
78	〃	童話「海の音楽会」の話を聞いて想像する	〃	〃	昭40. 6	L— 6
79	童話	小鳥のリズム遊び	〃	〃	昭40. 6.22	L— 7
80	童話を聞いて話し合う	「いつつのえんどう豆」の話を聞く	〃	〃	〃	L— 8
81	童話を聞く	童話「かにさんのぼうえんきょう」を聞いて絵にかく	〃	〃	昭40. 7	L— 9
82	童話を聞いて話し合う	童話「人魚の歌」の聞く	〃	〃	昭40. 7.15	L—10
83	〃	童話「きれいな虹の下」を聞く	〃	〃	昭40. 7.16	L—11
[84	聞いた話を話し合う	〃「かにのじゃんけん」	〃	〃	昭40. 9	L—12
85	〃	〃「せみがおとなになるとき」	〃	〃	〃	L—13
86	〃	〃「しっぽのないさる」	〃	〃	〃	L—14
87	〃	〃「まいごになったチイ」	〃	〃	昭40.10	L—15
88	〃	〃「おさるのでんしゃ」	〃	〃	〃	L—16
89M	ラジオの話を聞く	ラジオ「ジャングル太郎」を聞く	秋田・阿仁合保育園	5才児	〃	M— 1
90	聞いた話の発表	「だんまりくらべ」の発表	埼玉・川口南幼	〃	〃	M— 2
91	〃	〃	〃 鳩谷まごころ幼	〃	〃	M— 3

活動	内容	園	年令	収録年月	リール番号
92 〃	〃	〃 東蕨幼	〃	〃	M— 4
93 〃	〃	〃 川口・清月幼	〃	〃	M— 5
94 〃	「ちびっこワンちゃん」(ラジオ)を聞いてすじを話す	岩手・盛岡・くりやがわ保		〃	M— 6
95 〃	童話「出発ミイ公号」他	東京・渋谷・本町幼	5才児(1年保育)	〃	M— 7
96N 話の続きの発表	「お話のつづきは？」童話(小熊のサム君)	千葉・柏・くるみ幼	5才児	昭40. 3	N— 1
97 絵を見て発表	絵本に親しませる 絵本を見せて各自の読後発表の録音	茨城・水戸・常盤幼	〃	昭39. 7. 7	N— 2
98 童話を聞いて発表	「みんなの知っている話をする」(赤ずきん)	東京・台東・花川戸幼	3才児	昭39.11	N— 3
99 紙芝居を見て発表	「時計の3じくん」の話をする	群馬・前橋・若宮幼	5才児(1年保育)	昭40. 6.10	N— 4
100O 劇あそび	劇あそび「迷子になったミーちゃん」(聞いた話から幼児がつくる)	京都教育大付属幼	5才児(2年保育年長)	昭38. 4	O— 1
101 紙芝居	紙芝居(三匹の子ぶた)(セリフ)	東京・お茶の水女子大付属幼	5才児	昭37. 3	O— 2
102 〃	紙芝居　セリフ	〃	〃	昭37.10.29	O— 3
103 ペープサート	ペープサート(赤ずきん)(ブレーメン)	〃	〃	昭38. 2.25	O— 4
104 園内放送	三匹のドウドウ山羊	千葉・銚子・若宮幼	〃	昭37.10.19	O— 5
105 紙芝居	自分で紙芝居をつくる	広島・呉第一幼	5才児(2年保育)	昭39. 7	O— 9
106 雑	みんなの知っているうたをうたう	東京・台東・花川戸幼	3才児	昭37. 6	P— 1

107	〃	音楽リズム(歌唱指導)折紙づくり(製作)	秋田・阿仁合保	5才児	昭40.10	P－2
108	〃	雑(日曜日のこと)	埼玉・川口市立舟戸幼	〃	昭34. 7.13	P－3

幼児の書いた文字資料リスト

内容	題目	園	年令	収録年月
手紙	すきな手紙 〈クレヨン〉	群馬・前橋市立若宮幼	5才児	昭 40. 6.10
〃	季節の手紙	東京・お茶の水女子大付幼	〃	昭 40.
〃	手紙 (病気の友へ)	山口・下関市立第四幼	5才(2年保育年長)	昭 39.12.
〃	手紙 (転居した友へ)	〃	〃	昭 38. 9.
〃	手紙	〃山口女子短大付属幼	6才(2年保育年長)	昭 40. 1.26
〃	手紙 (夏休み)	東京・お茶の水女子大付属幼	5才児	昭 40. 8.
〃	手紙 (担任教師あて)	京都・京都教育大付属幼	3才児	昭 34～
〃	〃	〃	4才児	〃
〃	〃	〃	5才児	〃
〃	5才児の文字 4才児の文字	〃	4，5才児	昭 36～

内　　容	題　　目	園	年　　令	収録年月
日　　記	岩崎博美　日記集	栃木・小山・早蕨幼	5才(3年保育)	昭 40.
〃	松岡あつ子　日記	京都・京都教育大付属幼	5才3月～6才1月	昭 39.7.18 ～40. 5. 4
物の名 (自分の名まえ他)	おとうさん，おかあさん，自分の名	栃木・小山・早蕨幼	5才(2年保育年長)	昭 40.
〃	自分の園の組名「むらさきぐみ」 クレヨン	群馬・前橋市立若宮幼	5才児	昭 40. 6.10
〃	自分の園名「わかみやようちえん」 クレヨン	〃	〃	〃
〃	おおきくなってなりたいもの クレヨン	〃	〃	〃
〃	「すきなおともだち」の名 クレヨン	〃	〃	〃
〃	おうちでのあそび クレヨン	〃	〃	〃
〃	名まえを書いてあそぶ マジックインキ	千葉・銚子市立若宮幼	5才1年保育入園期	昭 40. 4.
〃	短冊に自分の名まえを書く	大阪・堺市立三国立幼	5才，1年保育	昭 40. 7. 1
〃	名まえと録音に使った絵 (子どもがかいたもの)	東京・江戸川・新小岩幼	5才児	昭 40. 6.
知っている文字	知っている文字	群馬・前橋市立神明幼	4才児	昭 40. 6. 1
〃	〃	〃	5才児	昭 40. 5.31
〃	〃	〃	6才児	昭 40. 6. 1
〃	自分の名と知っている文字を書く	島根・松江市立北堀幼	〃	昭 35.12.

描画と文字	描画と文字	東京・お茶の水女子大付属幼	3才児	昭 40. 6.
〃	自分でかいた絵に自分でかいた文字他	島根・松江市立北堀幼	5才児	昭 32.
〃	絵と自分の名まえ	千葉・銚子市立若宮幼	5才(1年保育)卒園児	昭 39. 3.
〃	松岡隆之	京都・京都教育大付属幼	3才2月～3才9月	昭 39. 10. ～昭 40. 4
カルタ	絵カルタ	東京・お茶の水女子大付属幼	6才3か月	昭 40. 7.

幼児が書いた文字　（前橋市立神明幼稚園資料より）

昭和40年5月31日，6月1日の両日，「自分の知っている文字」について書かせた前橋市立神明幼稚園の調査資料を整理した。生活年齢5歳，108名の結果をまとめると別表のようになる。

1　平がな清音，濁音，半濁音，片かな，漢字，アルハベットについて，当該文字が全体の何％の幼児によって書かれたかを示した。幼児たちによって書かれた平がな清書について，「入門期の言語能力」（国立国語研究所報告7）における書字力テストとの順位相関係数は・85で，高い相関がみられた。

平がな清音(%)

あ	37.0	か	58.3	さ	44.4	た	46.3	な	25.9	は	25.9
い	52.8	き	45.4	し	55.6	ち	37.0	に	31.5	ひ	43.5
う	56.5	く	35.2	す	38.0	つ	38.0	ぬ	10.0	ふ	14.8
え	31.5	け	27.8	せ	25.9	て	28.7	ね	20.4	へ	14.8
お	60.2	こ	61.1	そ	17.6	と	52.8	の	53.7	ほ	15.7
ま	51.9	や	30.6	ら	33.3	わ	27.8	ん	46.3		
み	43.5			り	38.0						
む	15.7	ゆ	21.3	る	36.1						
め	20.4			れ	13.9						
も	37.0	よ	36.1	ろ	35.2	を	6.5				

平がな濁音，半濁音(%)

が	12.0	ざ	3.7	だ	13.9	ば	22.2	ぱ	2.8
ぎ	13.0	じ	29.6	ぢ	0	び	12.0	ぴ	12.0
ぐ	10.2	ず	5.6	づ	8.3	ぶ	6.5	ぷ	2.8
げ	7.4	ぜ	3.7	で	17.6	べ	9.3	ぺ	0.9
ご	17.6	ぞ	2.8	ど	16.7	ぼ	6.5	ぽ	4.6

片かな(%)

パ 5.6	サ ビ 4.6
キ グ 3.7	コ ス ブ 4.8
カ タ ト ハ フ ホ ヤ ユ ヨ ラ ヲ 1.9	
ア エ ク チ ツ テ マ リ ル ロ ン ガ ゴ ゼ ド 0.9	

漢　字(%)

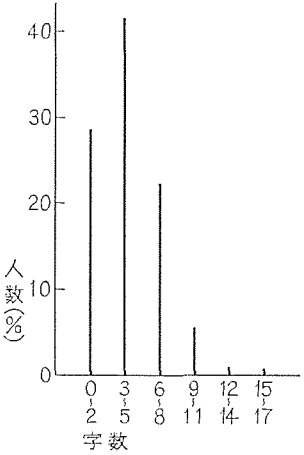
中 19.4	子 13.9	日 13.0	田 12.0
大 山 11.1			
人 月 6.5			
三 5.6			
十 木 本 号 4.6			
一 二 上 白 目 鉄 3.7			
四 小 犬 明 金 品 2.8			
川 口 下 土 円 手 自 門 梅 1.9			
五 千 女 井 天 文 母 夫 古 左 右 正 出 北 用 合 吉 奈 美 直 針 高 渕 森 道 間 細 陽 男 沢 横	0.9		

アルハベット(%)

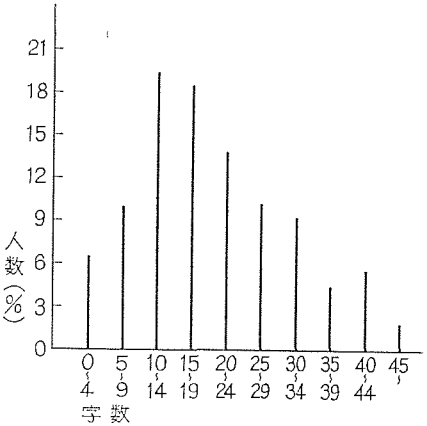
X 3.7	
C 1.9	
A F H S T 0.9	

2　平がな清音，濁音，半濁音について，幼児によって書かれた異なり文字量を分布図で示した。就学前幼児の文字習得量の一実態を知ることができる。

平がな清音・書字分布



平がな濁音・半濁音書字分布



3　文字の書き誤りを類型別に示した。書かれた平がな文字1,989字のうち誤りは200字であった。比較的誤りの多かった文字は，〈え〉〈お〉〈き〉〈く〉〈さ〉〈の〉〈ほ〉〈よ〉〈ん〉〈ば〉であった。誤りの類型の中では，文字の左右を反対に書く鏡映文字が全体の誤りの70%弱にのぼっていることが特徴であった。

書き誤りの類型

	類型	類数	%	文字例
A	鏡映	71	35.5	くさたの
	他の誤りを含む鏡映	8	4.0	お
B	部分鏡映	39	19.5	きはよば
	他の誤りを含む部分鏡映	16	8.0	ん
C	反転	6	3.0	も
	他の誤りを含む反転	3	1.5	ふ
D	横転	5	2.5	も
E	点線の追加	7	3.5	ま
F	点線の省略	9	4.5	む

	類　　型	類数	%	文字例
G	線の延長	18	9.0	ほぼ
H	線の不足	6	3.0	お
I	線の断続	4	2.0	え
J	その他	8	4.0	お

3　研究法確定のための言語調査

研究法を確定するために必要な課題として，録音時間量，場面と言語の質量変化に関することをとりあげた。従来，言語の収録には，30分あるいは60分にわたる継続録音が試みられてきたが，その録音時間量は調査者の恣意によっていたりして科学的な根拠に乏しいものであった。その点では，録音場面の確定にしても同様である。この意味において，年令変化に伴なう言語の質量の測定にはそれぞれ，どのような録音場面と録音時間量が必要であるかの基礎的問題に対する検討が試みられねばならない。

これに関する本年度の調査は10月以降に着手した。まず，手持ち録音資料* によって，30分単位による言語の質量変化に関する分析を進めるかたわら，幼稚園3才児(男)，小学校1年生(女)の各1名につき，2月上旬，10時間ずつの長時間継続録音をすませた。これらに関する分析の結果は次年度に報告することになつている。

* 1才5か月児(男) 60分録音　　1才5か月児(女) 180分録音
　1才7か月児(女) 60分録音　　1才9か月児(女) 180分録音

D　今後の予定

昭和41年度は，40年度研究題目「幼児の言語発達に関する準備的研究」の継続として行ない，40年度に手がけた，従来の言語発達研究に関する文献的研究は，これを展望してレポートにまとめ，他方，「特定幼児の言語発達に関する課題調査」の実験的研究をおしすすめる予定である。

(村石)

言語の表現機能と伝達効果の研究

I　言語表現における場面の効果の研究　(継続)

A　目　　的

場面によって言語表現がどのような変容を示すかを，伝達という観点から調べる。あわせて，場面の分析および言語表現の分析を行なう。特にそのうち，主語の有無が場面によって，どのように変容するかを調べる。

B　担　当　者

言語効果研究室の高橋太郎が担当し，屋久茂子がこれを助けた。

C　これまでの作業経過

これまでに，主語の有無の分析のためのカードを約6万枚作成した。このカードは，原則として，1文につきカード1枚とし，前後の文脈をつけたもので，くわしいことは，前年度年報でのべた。

前年度末において，この分析の計画を立て，今年度にはいって分析にかかった。

D　本年度の作業

1　作業の進め方

はじめ，研究速度をあげるため，直接「主語のない条件」を分類しようとして，計画および試験的作業を試みたが，やはり，相当無理があるので，文における「主語の機能」の研究を行ない，その結果にもとづいて，主語の有無の分析を行なうことにした。そのため，まず「主語の機能」の研究からかかると

いうことで，計画をたてなおした。

2 「主語の機能」の分析段階

主語と述語の関係は，種々の側面をもっている。この側面をきちんととらえて，より基本的なものから順に分析を進めていく必要がある。そこで，次のような五つの段階を設定した。

① 主述関係を構成する要素の，連語論的な側面の概観

② ことがら関係を表わすものとしての主語と述語の関係の分析

③ 文の陳述から見た，主語と述語の関係の分析

④ 述語の機能の概観

⑤ 主語の本来的な役割と補助的な役割の分析

①は，文における主語と述語の関係でなく，文以前の，単語と単語の関係の概観である。たとえば「戸があいた。」という文においても，「戸があくのはあたりまえだ」という文の「戸があく」という部分にも共通する「戸が」と「あく」の関係がある。この関係がどういうものかを概観する。

この段階では，主として，ガ格をとる名詞，または名詞相当語句と，動詞・形容詞との関係を扱う。つまり，ガ格の名詞と動詞との組合せ，ガ格の名詞と形容詞との組合せ，その他の品詞の体言なみの語形のガ格（「走るのが」，「彼女の美しいのが」など）と動詞または形容詞との組合せ，などが，おもな対象である。

この段階では，「花が咲く」は扱うが，「花は咲く」や「花咲く」は扱わない。「戸があく」と「すきまがあく」の違いには着目する。「彼女が母親に似る」と「顔が母親に似る」の違いにも着目する。

②では，文の成分として主語と述語一般を対象とする。したがって，「花が咲く」も「花は咲く」も「花咲く」も扱う。しかし，主述関係のうちの，ことがらをあらわす側面しか扱わないので，「花が咲く」と，「花は咲く」，「花も咲く」，「花咲く」の違いには着目しない。「戸があく」と「すきまがあく」の違いに着目する点は，①の段階と同じである。「戸があかない」と「この戸はあかない」の主語と述語の関係の違いについては，片方は述語をとりたててのべ，

片方は主語をとりたててのべているというような違いは扱わないが，片方が一定の時点の状態(動作の否定としての状態)をあらわし，片方が，戸の性質をあらわしているのではないかというような，あらわすことがらの違いの観点は問題にする。「彼は社長だ」と「社長は彼だ」の違いには着目するが，「彼は社長だ」，と「彼が社長だ」の違いには着目しない。

この段階では，主として，名詞述語文の場合，形容詞述語文の場合，動詞述語文の場合について，分析し，さらに全体を通して法則をみつけるようにしたい。主語でなく述語によって分類したのは，①および④との関連で，この研究を進める過程で最もやりやすいと判断するからでる。

③では，②でとらえたことがら関係にもとづいて，それが陳述的な側面とどのようにからまっているかをしらべる。

③の分析は，②の側面とのからまりを切り捨てて行ない得ないと思われるが，もし，それを捨象し得るならば，③段階で独自の法則を見出し得るかもしれない。これは，研究の過程で対象を明らかにすることによって次第に見通しのつくことであろう。

④では，述語一般について調べる。②③では，主語と述語の関係について分析するので，主語のない文の述語については，分析できていない。しかし，実際には，主語のない文が多く，しかも，この研究の目的そのものが，主語の有無の問題を解明することにあるので，ここで述語の機能を，主語のありなしにかかわらず分析する。

⑤では，②③④の総合として，また，次の主語の有無の分析への橋わたしとして，主語の役割を分析する。

以上のうち，研究を進める過程で，③と④の段階の順序がいれかわるかもしれない。

3 本年度の作業

このような段階づけの中で，本年度は，実際の作業として

㋐の段階である「ガ格の名詞と動詞の組合せ」

㋑の段階である「名詞述語文」

の分析を平行して行なってきた。

これらの研究は，現在のところ，分析の途中であるが，大体の大分類の見当をつけ，各問題点への接近を深める段階にはいった。㋐㋑とも，特に，側面を抽象した類概念的なガ格名詞または主語と具体的な名詞のそれとの違いに最も重点をおいた。たとえば「彼が変わった」と「性格が変わった」とはどう違い，どう関連しているか，「彼女が母親に似ている」と「顔が母親に似ている」と「性格が母親に似ている」とはどう違い，どう関連しているか，また，「彼はAである」と「名前はAである」とはどう違い，どう関連しているか，などは，その例である。

思考の進む過程で発生した分析的主語，その過程として部分抽象から側面抽象への問題など，本来の主語から二次的に発生したものへの過程が明らかになれば，主語の有無の問題の一つの重要な分野が開けるので，その方向で，現在問題をほりさげている。

E 今後の予定

41年度は，40年度にひきつづき，新しいカードをふやすとともにこの分析を進め，41年度で②の段階を終る予定である。

（高橋）

Ⅱ 文の形成過程にあらわれる伝達機能の発達の研究

A 目的・意義・担当者

言語の表現機能と伝達効果の発達は，幼児の言語の獲得あるいは言語活動の形式の分化の中にさまざまな形であらわれるから，これを，特に幼児の文表現が成立し，文形式が形成されていく過程でとらえようとする。

そのために，(1)伝達機能の単位として文（センテンス）をとりあげる。(2)対象としては，まず到達点としての4～6才児について行ない，次に発達的観点に立って1才から6才児の問題を扱おうとしている。

言語については，文を構文，陳述の両側面から文法的に分析する。言語行動については，主として伝達機能の側面から分析する。かくして，文法的形式と伝達機能の関係の考察をする，等を目的としている。この研究は言語効果研究室の中で主として大久保愛が当たり，屋久茂子がこれを助けた。

B　本年度の作業と成果

本年度がこの計画の第一年目に当たる。次のことを行なった。

(1) 対象への接近の観点の検討。(文献調査，幼児の言語行動の観察，手持ちの録音資料の分析など)

(2) 録音をとる方法，カード化の方法など，調査法に関する検討。

(3) 幼稚園(保育園)年中児(4～5才児)，年長児(5～6才児)を調査対象として，話しことばの録音採集。

(4) 採集した録音の文字化，および研究資料としてのカードの作成

(3)については，被調査者として，東京板橋区・東京自由保育園，北区・赤羽台幼稚園の二園の協力を得て，その年中，年長児の話しことばの録音採集ができた。被調査者の男女別，年令別の人数をあげると以下の表のようである。

園名	組	年令	男	女	計	
東京自由保育園	年長	6;0～6;5	5	13	18	36
		5;5～5;11	12	6	18	
	年中	5;0～5;5	10	3	13	26
		4;7～4;11	7	6	13	
赤羽台幼稚園	年長	6;2～6;6	10	5	15	26
		5;7～5;11	7	4	11	
	年中	5;1～5;6	10	8	18	28
		4;7～4;11	3	7	10	
計			64	52		116

すなわち，年令は4才7か月から6才6か月にわたり，人数は男児64人，女児52人，計116人である。そのうち，(4)の文字化，カード印刷共にできて，資料として使える人数は，男児55名，女児41名，年長50名（男29，女21)，年中46名(男26，女20)計96名となっている。

録音時間をみると，もっとも長く話したものは年長で27分，年中で15分平均12分弱で，全部の合計時間は20時間弱である。もちろんこの中には，調査者のことばも入っている。

採集法は調査者と被調査者による一問一答形式で行なった。幼児のことばの録音採集法としては，大きく(a)つくられた場面，(b)自然の場面が考えられる。(b)の場面でとるのが理想だと思うが，録音機の性能，採集の場所等によって(a)の場面を採用した。(a)の中でも，幼児同志の対話をとるということもできないわけではないが，幼児個人に調査者が面接して聞き出すほうが，場面が固定でき，分析が容易であると思い問答式を採用した。伝達機能の面の調査としては，たとえば「役割あそび」などの場面を設定してみることも可能であるが，一方，文の分析には，文末などの明瞭さが求められるので，マイクの操作に便利なこの形式を，最初の資料収集法として採用したのである。

以下の話題で一人の調査者が幼児を一定の場所に呼んで，一対一で聞いた。話題は，できるだけ幼児の生活場面がおおえるようにつとめた。そして，さまざまな表現がみられることを期待した。以下のようである。

(1) 名まえと年令

(2) 家族について(構成メンバー，どっちが好きか，両親の仕事など)

(3) 新しいあるいは印象深い経験（運動会，祭，夏休み，旅行，休日など）

(4) 園や家庭での生活（昨日何をしたか，どういう遊びをするか，幼稚園での生活，友だちのこと，趣味など）

(5) 園あるいは家への道順

(6) 両親から聞いた話や，自分で読んだ本について

(7) テレビで見た漫画，その他の筋や感想

(8) 社会的話題(ニュースその他)

(9) 筋のある絵を見せて話を作らせる

これら話題を聞くことによって，内容的には，経験したものの再生力や，他人に筋道をたてて話をする能力や，話を作り構成する創作力，構成力の発達もみることができる。すなわち，最近のこの年令の幼児の言語の形態面と同時に精神面の傾向をも知ることができる話題を選んだつもりである。

これら作業の成果として，「幼児のことばカード」ができあがった。カードの異なり枚数は，年中児 662 枚，年長児 933 枚，計 1,595 枚である。文の数は，これからの調査研究を待つことになるが，6,000 文から 8,000 文ぐらいになるのではないかと思う。年中，年長児それぞれの例を「幼児のことばカード」から一児ずつ示すと次のようである。幼児の発話は，かたかなの部分である。

（1） **年中児** 自中—r女(4：8) **の例**

ゆかりちゃんいくつですか？

○ヨッツ。

きのうなにして遊んだかそのお話してくれる？

○ワカンナイ。

わすれちゃった。きょうはどういうことやってきた朝。

○アノネー ＃ ナンモ ヤッテ コナカッタ。

だれときたの？保育園には。

○ママ。

おうちにはだれとだれがいるの？

○ママト パパ。 ＃ パパ オシゴト イッテルノ。

それから？

○ママト パパ。 ＃ パパ オシゴト イッテルノ。

それから？

○ママネ オシゴト シテルノ。 然 オウチデ。

で，ゆかりちゃんと三人きり？

○フターリ。

もうひとりだれ？

○モウ　イナイノ。サンニンシカ。　然

○パパ　ヨルン　トキ　カエッテ　クル(カラ)。

パパのお仕事知ってる？

○ウーウン。　シラ(ナイ)。

どういうお仕事か。

○ウーウン。シラ(ナイ)。

どういうお仕事か？

○ミナイカラ　シラナイ。　然

お母さんは？

○イル。

どういうお仕事してらっしゃるの？

○オバサンノ　オシゴト。

おばさんのお仕事ってどんなの？

○アノネー　卄　オバサンガ　ヤ　ウント　キ(ル)(レ)　カッテ　キテネ　卄　ウント　ソシテ　ヌウノ　ママガ。

お父さんとねお母さんとどっち好き？

ネ　卄　ウント　ソシテ　ヌウノ　ママガ。

お父さんとねお母さんとどっち好き？

○オト　パパネ　卄　アンマリ　イイ　コト　ヤラナイ。　然　ママ　ダ(ッ)(イス)キ。

叱られることある？

○アル。

どういうとき？

○ナンカ　ヤル　トキ。　卄　ワルイ　コト　ヤル　トキ。然　スグ　オコ(ン)(ル)ノ。

ほめられることある？

○アル。

ほめられることある？

○アル。

どういうとき？

○アキラクン(ネ)　アキラクン　エレナイ　トキハ　オコル。

あきら君ってだれ？

○ヒサ(ワ)クン　チノ　アキラクン。

ほめられるときは？

○シラナイ。

おうちからね幼稚園に来るにはね，どういう道通ってくるの？いつも。

○ウントネー　卄　ヘエキショウノ　ナカ。　然　ココネ　マガッテ

も。

○ウントネー　卄　ヘエキショウノ　ナカ。　然　ココネ　マガッテキテ　卄　ココジュト(ア)　キテ　ココ　コウ　ヤッテ　ハイッテ　イッテネ　卄　ソイデ　ヨウチエン　キタノ。

おうちに帰るにはどう行くの？

○カバン　モッテ。

道は？教えて。

○オミチモ　オミチモ　オンナシニ　トオッテ　クル。

幼稚園て好き？どういうとこいい。

○ドコデモ　イイ。

どんなとこ？

○ドコデモ　イイ。

どんなとこ？

○ドコデモ　スキ。

特にどんなとこが面白い？

○ドコデモ　オモシロイ。

なにして遊ぶの？

○オママゴト　トカネ　卄　オモテデ　アソンダ　トキモ　アル。

おままごとはどういうふうにやるの？

○ナンカ　オトモラチガ　ハイッテ　キタ(ラ)　＃　オママゴト　ヤンノ。

だれ一番好き？

ヤンノ。

だれ一番好き？

○ママ。

あのお友だちでは？

○アノネ　ダレモ　オトモ(ラ)(ダ)チ　イナイノ。

いないの？だって幼稚園にいっぱいいるんでしょ。

○ダケエモ　アソブ　ヒト　イナインダモン。　然

○コレ　ダレノカ　シッテル？

だれの？

○コレ　ダレダ？

机の上の紙いじっていていいの？

○コレ　ダレダ？

机の上の紙いじっていていいの？

○コレ　ナーニ？

知らない。

○(イチバンシタカ)　ナイ　(カミ)。

お母さんのどこが好き？

○カオ。

どんなのお母さんの顔。

○メガネ　カケテ　ナイ。　然

どこ大好き？

○カオ。

どこ大好き？

○カオ。

顔のどこ？

○メ。

自分の顔でどこ好き？

○ドコデモ　スキ。　／笑／

テレビ見る？

○テレビ　ミル　トキ　ママ　マ(ワ)(ア)シテ　クレル。

どういうの見るの？

○テツジントカ　ナンカ　イッパイ　ミルノ。

一番好きなのは？

○テツジントカ　ナンカ　イッパイ　ミルノ。

一番好きなのは？

○テツジン。

どんなお話？

○テツジンネ　シラナイノ。

忘れたの。

○ナン　ナンノ　マンガデモ　シラナインダ。　ユカリ。

どして？見てるんでしょ。

○ミテルケド　ワカンナイノ。

覚えてるのある？

○アノネー　＃（チョッカンカン）　アノネ　＃　ト　……ネー，

覚えてるのある？

○アノネー　＃（チョッカンカン）　アノネ　＃　ト　……ネー，

きのうなに見た？

○ウントネ　＃　……ネ　……ナンダー　ワカンナク　ナッチャッタ。／ん？／　ワカンナク……

わかんなくなっちゃった。きのうの「ちゃこちゃんはーい」なんていうの見る？

○ミタ。

どういうお話？

○ウントネ　チャコチャンネ　＃　ウート　ナンカ　ツケテ　ダレカノ　カオニ　ツケチャッタノ。　／ん？／　ダレカノ　カオニネ

○ウントネ　チャコチャンネ　＃　ウート　ナンカ　ツケテ　ダレカノ　カオニ　ツケチャッタノ。　／ん？／　ダレカノ　カオニネ　＃　ツケチャッタノ。

よく覚えてるじゃない。でどうしたの？

○コレ　オトウバンノ　チルシ？　〔そばのリボンを指して〕

知らないの先生。

○コレ　オトウバンノ　シルシダヨー。

お当番ってどういうことするの？

○ココ　シルシ　ツケテネ　＃　(チュ)(ッ)　クエ　フイテ　(オ)ハナモッテ　キテ　ソシテネー　ウント　スコシ　アソンデ　キテネー　＃　ソシテネー　ウントネー　ウント　ゴハン　ナルマデ　アソン

モッテ　キテ　ソシテネー　ウント　スコシ　アソンデ　キテネー　＃　ソシテネー　ウントー　ウント　ゴハン　ナルマデ　アソンデ　イテモ　イイノ。

お母さんね絵本読んでくれたりねお話してくれたりする？

○ツール。

どんなお話聞いた？

○ステゴノ　ゼミ。　／ん？／　ステゴノ　(ゼ)(デ)ミノ　ホン。

どういうのそのお話？

○アノネー　＃　ウチ　ウチガ　ビン　／ん？／　ウチガ……　アノネー　＃　ウチガ　ビンボトカラネ　＃　ダカラネー　ウシノ　チチネ　シボッテネ　＃　ウート　カアサンガネー，

ネー　＃　ウチガ　ビンボトカラネ　＃　ダカラネー　ウシノ　チチネ　シボッテネ　＃　ウート　カアサンガネー，

大きい声で言って。

○デネー　……デー　アノネー　アノネー

お乳しぼってそして？

○ウントネー　ウチガ　ビンボウナ　ウチガ　ビンボウナンダヨ。　＃　ソシ　ウウシ　ウッチャッテネ　＃　(エ)ート　デムネ　＃「シト(リ)　ウッチャヘー」ッテ　ユッタノ。　＃　ソイデ　オシマイ。　然　ソレシカ　シッテ　ナイノ。

どんなとこがいい？そのお話の中では。

○カワイソン　トコガ　イイ。

どんなとこがいい？そのお話の中では。

○カワイソン　トコガ　イイ。

この絵を見てねお話してください。縞馬とライオンのお話なのよ。

ライオンさんがどうしたの？

○コマッテル　カオ　シテール。

それから？

○(ダ)(ラ)イオン　ニゲタシ　／ん？／　ダイオン　ニゲラシタノ。

それから？

○シマ　シマウマネー　＃　ウントー　オオキナ　クチ　アケテンノ。

どうして大きな口あけてるのかしら。

○コエ　ダシテンノ？　＃　……コッチモ　コエ　ダシテ(ンノ)。

どうして大きな口あけてるのかしら。

○コエ　ダシテンノ？　＃　……コッチモ　コエ　ダシテ(ンノ)。

……コノ　コ　ワラッテル。

子供笑ってるね。

○コッチモ　ワラッテ。然　コレ　チョット　オコリミタイ。＃　……チョット　コレ　ナキソウナ　カオ。／笑／

このお話をねここからこう順々にやってみて。知ってる？

○ウ(ツァ)(サ)ギ　ウーントネ　ウン　ウーントネ　ウーントネ　カメ　ノロイカラ　ウサギ　サキニ　イッテネ　ウート　ココデ　ヒトヤスミ　シテネ　ソシテネ　カーメサンネ　モット　サキニ　イッテネ　ヒイテネ　アノネー　コッ(コ)　オヤママデ　ノボッテ　キ

スミ　シテネ　ソシテネ　カーメサンネ　モット　サキニ　イッテネ　ヒイテネ　アノネー　コッ(コ)　オヤママデ　ノボッテ　キテネ　ウサギガ　イチバン　ノロイ。

このお話聞いたことある？ない。これはなんでしょうね。

○オハナ　オハナガネー　カレチャッタノ。　＃　コレ　マタ　サイタノ。＃　オテンキガ　イイシ。

これはなんでしょう。

○アノネー　＃　ネズミネー　ウント　コノ　クマガ　オイカケテ　＃　……ドッカ　アタマガ　(コエ)チャッタノ。

ん？

サ？

ん？

○コレ　サン？

そう。三番目のお話ねこれが一番目でこれが二，三，四。字が読めるの？　これ三っていう字読めるの？どうして知ってたの？

○(シ)ラナイノ。　／ん？／　シラナイ。

でも「三」って聞いたでしょ。交通事故にあったことある？見たことある？

○フミチャン　ヒカレタ　トコ　アル。

ふみちゃんってだれ？

○オウサマグミノ　フミチャン。然　ホイクエンニ　キテテ　ハネ

ふみちゃんってだれ？

○オウサマグミノ　フミチャン。然　ホイクエンニ　キテテ　ハネ（ラレチャッタノ)。

どうして？

○キヲ　ツケナイカラジャナイ。＃　(シット)。

これはなに？これは。

○コレハネ。＃

どうしたの？

○ママニネ　＃　ツケテ　モラッタノ。然

ママがどうしたの？

○ママモ　ツケテン(ノ)。

ママがどうしたの？

○ママモ　ツケテン(ノ)。

どうしてそんなのつけるの？

○(ア)ノネー　＃　シラナイノ。

（2）　年長児　自長―i男(6：5)　の例

名まえは？

○K・K。

いくつ？

○ムッツー。然

きのうなにしたかお話してください。

○ウン。キノウネー　＃　……キノウ　ボクハー　／幼稚園来たでしよ。／　ウン。ヨウチエン　キテネー　＃　……ンー　ズーットネー　＃　アソンデー　＃　ナニヲ　シテ　アソンダンダッケー　／笑／ウーン　……サカガミマアチャンタチトネー　＃　キノウネー　＃　ボクネー　サンジ　マエニネー　＃　ウーン　チョット　オアツマリノネ　マエニネー　＃　ウーン　バッタ，ネー　＃

ネー　＃　ボクネー　サンジ　マエニネー　＃　ウーン　チョット　オアツマリノネ　マエニネー　＃　ウーン　バッタ，ネー　＃　トノサマバッタネー　マーウー　ウーチャンガ　ミツケタ　トコロニ　イッテネー　＃　バッタ　トッテネー　＃　ソレデネー　ウーン　オカセンセエタチトネー　＃　ウーン　ナンカデ　アソンダノ。然　ウーン。

虫すきなの？

○ウン。

どんな虫と遊ぶ？

○バッター。　／ん。それでどんな／　ソイデ　カマキリ　＃　ウーントネ　＃　カ

マキリ　イタンダケドネー　ニゲチャッタノ。然

○バッター。　／ん。それでどんな／　ソイデ　カマキリ　＃　ウーントネー　＃　カマキリ　イタンダケドネー　ニゲチャッタノ。然

おうち帰ったらどうした？

○オウチ　カエル　トキネ　＃　オカアサンガネ　＃　ゴジゴロニ　オムカエ　キタノ。然

おうちからね，幼稚園に来るにはね，どういう道を通ってくるの？

○ウーントネ　＃　ボクハネー　ハジメネ　＃　……アノ……　オオドオリノネー　＃　ジドウシャガ　イッパイ　トオルネー　＃　モッ　モット　ナカ　ハイッテキテネー　＃　ウーントネー　オミセヤガ　アル　トコネー　＃　ズーット　ソコノ　ミチネー　＃　コノ　ウーン　オオキイ　ミチ　ジャナクテネー　＃　チュウグラ

セヤガ　アル　トコネー　＃　ズーット　ソコノ　ミチネー　＃　コノ　ウーン　オオキイ　ミチ　ジャナクテネー　＃　チュウグライノ　ミチノネー　＃　デンキヤサンノ　トコロヲ　トオッテネー　＃　ウーン　ソレカラネー　＃　ウーン　ズーット　イッテネー　＃　アカンボウガ　イルカラ　＃　ハギワラサン　チ，ノネー　トチュウノ　フミエセンセイン　チカラネー　＃　フミエセンセン　チカラアノネー　ミチ，ガ　ホソクテネー　＃　ソッカラネー　ウーン　……イイ　ミチトオッテネー　＃　ヘイキショウノネー　＃　コウジ　シテルネー　＃　ウーンコッチ　ガワノ　ジドウシャ　トオル　トコロノ　ミチ　トオッテ　クルノ。然

遠いの？

ウシャ　トオル　トコロノ　ミチ　トオッテ　クルノ。然

遠いの？

○ウーン。トオク　ナイ。アンマリ。

おうちの人だれとだれがいる？

○オカアサントネー　＃　オトウサントネー　＃　ウーン　ムッチャンテ　イウネー　＃　ウーン　イナカノ　ヒト。

と，ぼく？

○ウン。アト　アカンボウノ　フッチャン。

お父さんのお仕事はなに？

○ウーン　ジドウシャ　ツクル　卄　カイシャニ　イッテンノ。然

お母さんはなにしてるの？

○ウーン　ジドウシャ　ツクル　卄　カイシャニ　イッテンノ。然

お母さんはなにしてるの？

○ウーン　ガッコウデネー　卄　ウン　セートヲネー　卄　ウン　セート　ベン

セートーニ　ベンキョウ　オシエテンノ。然　ガッコウノ。／先生？／ウン。

どっち好き？

○ドッチモ　スキ。然

ほめられることある？

○ウーントネー　テツダウ　コト。然

叱られることは？

○トネー　イタズラ　シチャウノ。

叱られることは？

○トネー　イタズラ　シチャウノ。

どんないたずらするの？

○ウーントネー　ヘイニ　ノボッチャ　イケナイッテ　イウノヲ　ワスレテ　ノボッ

チャウカラ。然

それから？どういうことで叱られる？

○アトネー　卄　ウソ　ツク　コトモ　アルノ。

どういう嘘つくの？

○マエハネ　ボク　ウソッテ　シラナカッタンデネー　卄　ウーン　ヒ　ヒトノ　モ

ノ　カリテ　キテ　オイテ　イッタノネー　卄　ウーン「カッテ　キタノ」ッテ

ユッテ　ウソヲ　ツイチャッタノ。

ヒ　ヒトノ　モノ　カリテ　キテ　オイテ　イッタノネー　卄　ウーン「カッテ

キタノ」ッテ　ユッテ　ウソヲ　ツイチヤッタノ。然

で今は？

○ウーン　アンマリ　ツカナイ。＃　ウソハ。＃

いけないってことわかったの？

○ウン。然

どういうお遊びが一番すき？

○ウントネ　カクレンボ。

幼稚園はどうですか。

○ヨウチエンハ　オモシロイ。＃　ドングリ　ソコノ　アソコデネー

幼稚園はどうですか。

○ヨウチエンハ　オモシロイ。＃　ドングリ　ソコノ　アソコデネー　キョウハ　サガシタノ。

幼稚園は面白いとこはどこ？

○ウントネー　＃　アソコニ　ドングリ　イッパイ　オッコッテルカラ。

どんぐりの木があるの？

○ウン。

そういうの拾うの好き？

○ウン。

それから？

○ウン。

それから？

○ムシ　トル　コト。

それから？

○ンー　アトネー　＃　オイカケッコ。＃

だれと仲良し？

○サカガミマアチャント　チョウジクン。然

テレビ見る？

○ミル。

どういうの見る？

マンガ。然

どういうの見る？

○マンガ。然

なにが面白い一番？

○ウーントネー　＃　パーピー。

パーピてどういうの？

○ウーントネ　＃　ホシカラ　キテネー　＃　ペンダントガネー　＃　……ペンダントーガ　ネー　＃　パピー　ロボットミタイノデネー　＃　ウーン　ペンダントガナクナルトネー　＃　ウン　ウーントネー　ニッポン，ノネー　チノウヨリモネー　＃　スグレタ　チノウデ　カンガエテ　ヤッツケテ　ヤ　ヤンノ。

知能ってなーに？

チノウデ　カンガエテ　ヤッツケテ　ヤ　ヤンノ。

知能ってなーに？

○ワカンナイ。ナンダカ。然

日本の知能より強い知能ってなに？

○ワカンナイノ。然

だけど面白いの？

○ウン。然

それからなに見る？ほかには。

○ワカンナイ。

お母さんが読んでくれたり，お話をしてくれたりする？

○スル。

お母さんが絵本読んでくれたり，お話をしてくれたりする？

○スル。

どんなの聞いた？

○ウーントネー　＃　……アトムノ　オハナシ。＃　ホンガ　アルノ。然
そのお話きかせてよ。

○エ？

お母さんが読んでくださったお話を聞かせて？

○ウーントネー　＃　ハジメハネー　＃　アトムネー　＃　ウーン　ハジメ　ナンニモ　ヤンナイデネー　＃　アトネー　テジナシデネー　＃　テジナシノ　ロボットガ　アッテネー　＃　ウーントネー

ハジメ　ナンニモ　ヤンナイデネー　＃　アトネー　テジナシデネー　＃　テジナシノ　ロボットガ　アッテネー　＃　ウーントネー　ドンナネ　テツデモ　トオリヌケチャウ，ネー　＃　アレナノ。＃　ソレデネー　＃　ウーン　ナントカッテイウ　モウ　ヒトリノ　ニンゲンノ　ハカ(セ)　ンー　テジナシガ　イテネー　＃　ウーントネー　＃　アノー　テジナシノ　ロボットトネー　＃　ウーン　オンナジノデ　ワルイ　ロボットヲ　ツク　ツクル　タメニネー　＃　ココニネー　＃　ソノ　イエニネー　ツレコマレテネー　＃　ウーン　ナンマイモ　ドア　アケテネー　＃　ンー　テジナシデネー　ウン　カベガ　ナンマイモ　ア　アル　テジナ　シチャッタカラネー　＃　デンキノ　デンセンノネー　＃　クモノ　スノ

シデネー　ウン　カベガ　ナンマイモ　ア　アル　テジナ　シチャッタカラネー　＃　デンキノ　デンセンノネー　＃　クモノ　スノ　ウエニ　ヒッカカカッチャッテネー　＃　ウー　ソレカラ　デンキ　キテネー　＃　ンー　ニセモノ　ツクッタノ。然ソレデネー　アノ　アノ　＃　アナカト　オモッテネー　＃　ウーン　ウーン　アトム，トネ　ホントノ　ロボットノ　テジナシガネー　＃　ウーン　アアノ　クライ　アナニネー　ハイッテ　ロウソクヲ　モッテネー　＃　アトムハ　ロボットダカラ　アナカラ　サーチライト　ツケテネー　ミタラネー　＃　ソノ　ワルイテジナシガネー　＃　ウーン　バケテタカラ　＃　アトム　ウーン　ウーン　ヤッタノ。＃　ソレデネー　＃　トビツイテネー　＃　ライトヘ　アゲ

＃　ウーン　バケテタカラ　＃　アトム　ウーン　ウーン　ヤッタノ。＃　ソレデ

ネー　#　トビツイテネー　#　ライトヘ　アゲテ　クダサイッテ　ユッタラネー　#　ライトハ　アトムガ　ウエ　アゲテ　マタ　ロウソク　モッテ(キテ)　ナカニハイッテ　イッタラネ　#　ドウクツガ　アッタノ。#　ソノ　ドウクツノ　ナカ，ハネー　#　ウーン　ウーントネー　アノ　テジナハ　ワルイ　テジナシノネウーン　#　ウーン　ドウクツダッタノ。#　ソレデネー　#　……ンー　ソレガネー　ドウクツダト　ワカッテネー　#　ドウクツガ　ワカッチヤッタンデネー　#　ソレノ　ノ　テジナシハネー　#　ウーントネー　ウン　キテネ　(ニセ)モノノ　ロボットノ　アレ　ダシタノ。#　ソレデネ　アトムハ

テテジナシハネー　#　ウーントネー　ウン　キテネ　(ニセ)
モノノ　ロボットノ　アレ　ダシタノ。#　ソレデネ　アトムハ
クモノ　ロボットヲ　ヤッツケタラネー　#　ウーン　アトムノ
ウシロカラネー　#　ウーン　ニセモノノ　テジナシ　コウセンジュー　モッテ
キテネ　#　ウーン　アトムガ　ハンタイカラ　ウン　ヌイテネー　#　チューット　ダシタラネ　#　フキトバサレチヤッタノ。

絵本なの？

○ウン　然　エホン。#

ぼくが読むんじゃなくて，お母さんに読んでもらったの？

○ウン。然

ぼくが読むんじゃなくて，お母さんに読んでもらったの？

○ウン。然

ニュースなんて見る？

○ミネー　ア　アンマリ　ミナイ。然

新聞なんかは？

○ミナイ。然

ここへ絵本もってきたのよ。このお話きかせてね。

○ドコ　ヨムノ？

字を読むんじゃないの。これ縞馬とライオンのお話が書いてあるのよ。絵をこうい

うふうに順々に見て自分でお話つくってください。

ライオンがどうしました？

よ。絵をこういうふうに順々に見て自分でお話つくってください。

ライオンがどうしました？

○ライオンガネー　＃　シマウマヲネー　＃　エー　タベヨウト　シテネー　＃　ウートネー　＃　アー　オイカケテ　イッタラ　シマウマ　ニゲテネー　＃　ソー　ミンナデ　ニゲテネー　＃　ナンカ　タベテルトネー　＃　ウーン　ライオンガネー　＃　ネー　ウシロアシデネー　＃　ウーントネー　シマウマニ　ケットバサレチャッテンノ。然　ソレカラ　ライオンハ　シマウマ　タベナク　ナッタノ。＃　（オソレ）（ムコウ）　イッチャッタ。

このお話は？

○ウーントネー　＃　カメトネー　カメトネー　＃　ソー　ウサギガ

このお話は？

○ウートネ　＃　カメトネー　カメトネー　＃　ソー　ウサギガ　ネー　カケッコ　シテネー　＃　ソー　カメヲ　グングン　オイヌイテ　イル。ネー　ウーンネー　ウサギハネ　カメハ　ソー　コナイダロウト　オモッテネー　＃　ウーントネ　グーグー　ネムッテル　ウチニ　カメハネー　＃　キテネー　ソーット　ウサギノ　トコ　トオリヌケ　シテネー　＃　ヤマノ　ウエニ　ツイテ　ウサギハネー　＃　クヤシガッテ　オイカケテ　イッタノ。

上手ね。このお話きいたことある？

○アル。

なんていう題のお話だっけ。

○アル。

なんていう題のお話だっけ。

○カメト　ウサギノ　カケッコダ。

これは？

○ハジメネー ＃ ミズヲ ヤンナイカラネー ＃ オハ ヒマワリノ オハナガネー ＃ シオレチャッテネー ＃ オテントサマバッカリニ アッテ ア アテラレテルカラ ミズヲ ヤンナキャ ダメデネー ＃ シオレテルノ ミタカラネー ＃ オニイサンガネー ＃ アッ オジサンガネー ＃ ミズヲ ヤリニ キテ，ミズヲ ヤッテ ゼンブ ソー ソノ ミズヲ ヤッテ，＃ ソー ヒニ アテターラ ソー ヒマワリハ ヤット タッタノ。

ズヲ ヤッテ ゼンブ ソー ソノ ミズヲ ヤッテ，＃ ソー ヒニ アテターラ ソー ヒマワリハ ヤット タッタノ。

こんどこれ。ためいきついちゃうの。

○クマガネー ＃ ソー クマ ネズミガネー クマノネー ＃ ソー ドッカヲフンデ クマガ オイカケテ キテネ ＃ ウーン ネズミガ オオドオリニ デテネー ウーン ＃ ジドウシャ トラックガ キテネー ＃ クマノ セナカニ ガーント アタッタラ ジドウシャガネ ツブレチャッタノ。然 オモシロイ。

面白い？この絵。この前お祭あったでしょ？／○ウン。／覚えてる？

まだ。

○イッカイシカ イカナカッタノ。然 ウントネー ビィヨッキニ

まだ。

○イッカイシカ イカナカッタノ。然 ウントネー ビィヨッキニ ナッタ。アタマイタク ナッタカラ。然 ウーントネー ＃ オマツリデネー ＃ ボクネー ハジメ オマツリ イッテネー ＃ エートネー ドンドン ハイッテ イッタラ ＃ オモチャガ アッテネー ＃ デンキノネー ソー カイチュウデントウノ テッポウ ハジメ カイタカッタンダケドネー ＃ カメラノ テッポウ ウッテタカラ ソノ カメラノネー アレダー カイチュウデントウ，ヲ カッテネー ＃ カエッテ キタノ。

お母さん，いつもおうちにいなくて淋しくない？

○ウーン。サビシイー コトモ アルケド，＃ アンマリ サビシクナイ。

お母さん，いつもおうちにいなくて淋しくない？

○ウーン。サビシイー　コトモ　アルケド，＃　アンマリ　サビシクナイ。

赤ちゃんだれがみているの？

○オカアサン。ネテル　トキモ　アンノ　トキドキ。／だれが。／フッチャン。／かわいい？／　ウン。カワイイ。

（注）＃＝調査者の合づち「うん」「ん」の略記号。然＝調査者の応答「そう」「そうね」などの略記号。長い点線はカードの変わり目で，各カードのはじめに，その文脈がわかるように前のカードのあと二行を繰返してある。この年報では，紙面のつごうで追いこみにしたので，そのようになっていない場合がある。また，それぞれのカードのはじめには，幼児の略記号その他がはいっているのはもちろんであるが，ここでは略した。

C　今後の予定

来年度は次の二つのことを予定している。

(1)　40年度に採集したこれら資料カードを使って，この年令の幼児のことばの実態を知るとともに，文を構文，陳述の両側面から分析する。

(2)　資料カード補充のための調査

調査法については(1)の文の分析の経過を参照しながら検討するが，40年度と同じ時期に年長児のことばをさらに採集する予定である。

（大久保）

明治時代語の調査研究

A 目的・意義

近代語研究室では，昭和30年度以来，明治初期の文献を資料とした語彙調査を継続して行なってきた。その成果については，そのつど年報または報告書に発表されている。(『年報』7～15，および，『明治初期の新聞の用語—報告15—』参照)

39年度からは，その語彙調査で得られた資料により分析考察すべき問題のうち残されたものについて，一往のまとめをするとともに，新しい構想による調査研究にも着手しようとして，次の四つの柱を立てた。

(1) 明治初期文献の用字調査

(2) 明治初期文献における助詞・助動詞の調査研究

(3) 明治初期文献に現われた語彙の用例記載カードの作成

(4) 明治初期生まれの古老の談話の録音採集

ほかに，これまでに資料として購入した文献の整理をするため，

(5) 明治文献の分類整理

の仕事を加えた。

B 担当者

(1)(4)は進藤咲子，(2)(3)は永野賢が担当し，(5)は永野と進藤が共同して当たった。年間を通じて牧野正子が仕事を助け，また，2名の臨時補助者が随時作業に加わった。

C 本年度の経過

仕事の能率を高めるため，研究補助員・臨時補助者の力をすべて(1)に注入した。そのため，(2)(3)はほとんど仕事が進まず，かつ，永野は昭和37年度

以来の「国民各層の言語生活の実態調査」とその継続調査の報告書の執筆・刊行のために，大部分の時日を当てざるを得なかった。

(5)については，本年度末3月現在で，440部1,125冊の文献を日本十進分類による分類番号を付したカードを作成することによって，一往の整理を終えた。

(1)(4)については，次項に報告する。　　(永野)

D　明治初期文献の用字調査

昨年度に引き続き郵便報知新聞の用字調査を行なった。用字調査の目的，規模については昨年度の年報に報告してあるので省略する。また，昨年度の年報には，郵便報知新聞の使用度数10以上の語の用字について，その調査の結果の一部を報告してある。

今年度は，使用度数9以下の語の用字について調査した。この調査のための作業は，一般用語(地名，人名，数詞を除いた)について，その語を表記している漢字の一字ごとに集計カード（その字の用いられ方および使用度数が一覧できるカード）を作成した。ただ今，地名，人名，数詞の集計カード作成の作業がその大半を終わるところである。

使用度数9以下の語の一般用語は，異なり語数では11133語，延べ語数では41142語である。これの用字調査の結果は次のようである。

異なり字数	3469*	
延べ字数	73710	
内　訳		
音	55378	(75.1％)
訓	16138	(21.9％)
特訓	2194	(3.0％)

*　使用度数10以上の語の字種との重複1010字，非重複129字。この数字は異体字を含む。

さて，使用度数10以上の語と9以下の語とに分けて行なった調査，字の用

いられ方を見るためには，分けた方が種々の便宜がある）を合併すると次のようになる。

異なり字数	3598*	
延べ字数	138402	
内　訳		
音	87249	(63.0％)
訓	47827	(34.6％)
特訓	3321	(2.4％)

*　地名，人名，数詞は未集計。

なお，今までにあげた数字は，最終のものではない。全部の作業を終了したところで，あらためて正確な数字を報告する。

郵便報知新聞の用字調査は，ほぼ完了するところであるが，次年度に調査の結果について報告する予定である。

E　明治初期生まれの古老の談話の録音採集

今年度は，次の方がたのお話を伺い，延べ約10時間分の談話を録音採集した。

○生野団六氏（東京採集　明11生　87歳　公社役員）
○池田ゆきさん（東京，明 5，93，元教員）
○田中　融氏（松江，明13，85，元商業中学校長）
○落合テイさん（松江，明19，79，元教員）
○小笹かめさん（松江，明18，80，農業）
○来海（きまち）ぜんさん（松江，明18，80，質やご隠居）
○井村かねさん（伊勢，明18，80，旧家，旅館経営）

なお，東京においての録音採集には，生野氏令孫大坪富美子さん，池田氏令孫池田一氏（ＮＨＫ教養部），松江に出張しての録音採集には，松江市収入役漢東種一郎氏，元代議士木村栄氏，旅館経営の山田千代江さん，松江市役所の目次重美氏，および落合春雄氏らのご協力をえた。　（進藤）

電子計算機による大量語彙調査の準備的研究

A 目　　的

国語問題の解決に役立つ基礎資料を整えるためには，現代語の語彙について使用の実態を広範囲に明らかにする必要がある。本研究所では，これまで書きことば研究室が，比較的大きな規模の語彙調査を行なって，語彙表を作成してきたが，基礎語彙の設定に資するためには，いっそう規模の大きい調査を行なう必要があることがわかってきた。これには電子計算機を用いるのが最もよいと考えた。また，データとして漢字かなまじり文をそのままの形で取り扱うためには，入出力機器として漢字テレタイプ（略称するときは「漢テレ」という）を用いるのがよいと考えた。本年度内に電子計算機と漢字テレタイプが設置されることになったので，41年度から大規模の調査が始められるように，全般にわたって準備を整えるのが本年度研究調査の目的である。

B 担　当　者

第一資料研究室の林四郎，石綿敏雄，田中章夫，南不二男，松本昭および言語計量調査室の斎藤秀紀（40年10月より）がこれに当たり，柴崎香苗，小林さち子，本多レイ子，中野三千子（40年6月から）が研究作業をたすけた。また，研究作業の一部に，第一研究部長林大，書きことば研究室の見坊豪毅，西尾寅弥，宮島達夫，話しことば研究室の鈴木重幸，近代語研究室の進藤咲子，第三資料研究室の斎賀秀夫，土屋信一が協力した。プログラムの開発については，日本ビジネス・コンサルタントの山本武氏の助力を得た。

C これまでの研究経過

この研究は昭和38年から始まった。38年には，電子計算機の性質と能力

について，各種の情報を集めた。昭和39年度には，導入すべき機種について，各社の各機種を比較検討した結果，日立製作所の HITAC 3010 を選定した。昭和40年度の予算から電子計算機のレンタル設置が認められた。入出力機器の漢字テレタイプについては，購入が認められたので，HITAC 3010 への接続用として，日立製作所を経由して沖電気工業株式会社に製作を依頼し，3台発注した。盤面に入れる文字は2400字とし，その排列法やコード構成法を研究して，独自の方式を定めた。

この間，導入機種を決める検討手段の一つとして，電子計算機メーカー各社に，片かなによって作品の用語総索引を作るプログラムの作成を求めた。データに芥川竜之介の『蜘蛛の糸』を用い，2社から回答を得た。

D　本年度の調査研究作業

1　機械の設置

a．漢字テレタイプは，沖電気工業の高崎工場で3台製作した。昭和40年11月1日，2日の両日にわたって，日立検査課員立会いのもとに所員が検査し，11月8日，研究所に搬入した。調整後，直ちに使用を開始した。

b．電子計算機室(計算機室 118.96 m² (35.98 坪)，電源室 25.92 m² (7.84 坪)は8月17日に着工し，1月10日に完成した。

c．電子計算機 HITAC 3010 は，日立製作所神奈川工場で製作した。12月22日所員が検査し，昭和41年1月11日搬入設置した。調整後，3月1日研究所に引き渡され，使用を開始した。

2　機械の概要

a．漢字テレタイプ

【名称】 漢字鍵盤穿孔印刷装置

【構成】 鍵盤穿孔機と印字機とから成る。各機は次のような部分を含む。

鍵盤穿孔機の各部

①鍵盤部　24列×25行＝600箇の鍵(キイ)が並んでおり，各キイに4字が含まれるので，全体で2400種の文字が並んでいる。(各キイの4字は，

両足のペダルで区別される。)

②穿孔部　紙テープにあなをあける部分で，鍵盤上のキイを押すと，所定の文字に当たる符号のあなが紙テープ上にあく。また，読取り部が読み取ったとおりのあなをあけて，テープを複製する。

③　読取り部　あなのあいた紙テープの情報を読み取って，穿孔部に穿孔させる。

④　制御部

⑤　機械台部

印字機の各部

①　印字部　打鍵または紙テープ上の情報に従って，紙上に活字で印字する。

②　読取り部　紙テープの情報を読み取って印字部に印字させる。また，穿孔機の穿孔部に穿孔させる。

③　制御部

④　機械台部

【機能】　文字情報の扱い方　本機は HITAC 3010 にオフラインで接続する入出力機器であるので，3010 入出力用の紙テープをそのまま用いる。したがって，8単位テープに7単位のあなをあける。ただし，3010 は1文字につき7単位1列(1けた)のあなを用いるが，漢テレでは，7単位2列のあなを1文字に当て，2400 種の文字の区別をする。7単位のうち1単位は検査のためのもので，実際の情報は6単位に盛りこまれる。

文字の種類と字数

漢　字	2109	当用漢字　1845（朕，璽，脹，壱，弐の5字を除いたもの） 表 外 字　264
○，々	2	
盤外字マーク	1	
平がな，片なな	170	

ローマ字	52
ギリシャ文字，音声記号	16
アラビア数字	10
符号，記号	40
計	2400

処理機能と速度

鍵盤穿孔機	打鍵 →穿孔	350字／分
	打鍵 →穿孔・印字	120字／分
	読取り→穿孔	350字／分
印字機	読取り→穿孔・印字	120字／分
	読取り→印字	120字／分

盤外字の取扱い方　鍵盤にない文字は，盤外字マーク(◆)のあとに盤内の字2字を組み合わせて一定の処理番号を打ち，諸橋大漢和辞典の通し番号との間に，ある対応関係をつけて処理する。この方法だと，盤内にない字が20万字現われても，処理できる。諸橋漢和にのっていない字が出て来ても，このシステムの中で処理することができる。

b．電子計算機

【名　称】 HITAC 3010

【機器構成と各機の機能】

① 処理装置　H—304　計算機の本体で，次の部分から成り立つ。

高速記憶部（HSM）　処理すべきデータと実行すべき命令を随時記憶する部分で，記憶容量は2万けた（漢テレの文字では1万字にあたる）である。

プログラム制御部　HSMに記憶されているプログラム（命令）を実行する部分で，データ処理，演算，判定と制御，入出力の操作，などを行なう。

制御盤　人間が計算機に直接，命令・指示を与えるための操作ボタンや表示ランプが並んだ部分。

電源部　各部へ電源を供給する部分。

② テープ読取り穿孔機　H—321　電子計算機自体の入出力機器の一つで，紙テープにパンチされた情報を読み取る入力の部分(リーダー)と，処理結果を紙テープにパンチする出力の部分（パンチャー）とから成り立つ。処理速度は読取りも穿孔も100けた／秒である。

③ 磁気テープ装置　H—382　補助記憶装置の一種である磁気テープに情報を書きこんだり，磁気テープ上の情報を読み取ったりする部分で，入出力機器の一つである。(HSM が内部記憶装置であるのに対して，これは外部記憶装置である。外部記憶装置には，ほかに磁気ディスク，磁気カードなどがあるが，研究所には備えてない。) 本機は6台1組なので，6巻の磁気テープが同時にかけられる。このテープ1巻には，600万けた書きこむことができる。読取り速度は3万けた／秒である。

⑤ ラインプリンタ（高速印字装置）　H—333C　処理結果を紙に活字で印刷する装置である。印字速度は，96文字(片かな，英字，数字，特殊記号)で打つとき510行／分，64文字(片かなを除く)で打つとき600行／分，1行の最大印字数は120字である。これは，計算機に付属した出力専門の機械である。

⑤ 万能入出力装置(フレキソライタ，略称「フレキン」)H—177　人間の文字を機械向けの文字に変えて紙テープにあなをあけるタイプライターで，ラインプリンタに備わる96文字と，そのほかいくつかの特殊記号を3010用に7単位1列のコードに変換する。逆の変換，すなわち出力も行なう。処理速度は450字／分である。3台そなえた。

3　語彙調査の具体的準備

41年度から実施する語彙調査の準備作業として，以下のことを行なった。

3・1　従来の語彙調査の検討　研究所がこれまでに行なってきた語彙調査の方法や成果を吟味検討し，今回の調査の性格，規模，方法等を決定するための資料としたほか，外国の語彙調査の情報についても調べて参考にした。

3・2　調査対象・方法等の検討　調査対象は新聞と定めた。その理由は次の

とおりである。

(1) 新聞は，一般国民が日常最も親しんでいる読みものである。

(2) 新聞は話題の幅も広く，文章のジャンルも変化に富んでいるので，書きことばの用語調査資料として，比較的片寄りが少ないと思われる。

(3) 新聞記事は，義務教育終了者に読めることを目標にして書かれているから，特に難解な文章や専門的な用語などを使用しないよう努力されていて、基本語彙を考える資料になりうる。また，逆に学校の国語科教育では新聞の読めることが目標の一つとされている。

対象の範囲は，昭和41年1年間の新聞数種の全紙面とし，サンプリング調査を行なう。層別については，サンプリングのための層別と結果の分析のための層別とを別に考え，それぞれについて各種の案を出し，検討した。

3・3 語の単位分割の基準の検討　文章から語を認定する基準を立てることがまず必要である。書きことば研究室のこれまでの調査では，はじめ，α単位と称する，学校文法でいう文節に近い単位を用い（婦人雑誌の調査），あとからは，β単位と称する細分化した単位を用いてきた（総合雑誌および雑誌九十種の調査）。これらの単位基準を検討したうえで，新しい基準を立てた。まだ最終的に確定してはいないが，原則として，長い単位と短かい単位とを併用することにした。長い単位はα単位に近い。短かい単位はβ単位に近く，あるいはそれよりさらに短いもので，形態素に当たるものとなるだろう。

3・4 漢字テレタイプによる入力方式の検討　漢字かなまじり文の言語情報を電子計算機に処理させるための基本的条件の一つに，漢字テレタイプによる入力の方式を最も合理的な方式に定めるということがある。これは，将来研究所における各種の研究調査を広く電子計算機で処理する場合に非常に大事なことなので，そのための研究を始めた。とりあえず，今回の語彙調査に必要なこととして，

① 漢テレ盤内字のコード表を作る。

② 盤外字の処理方式を定める。

の二つを完了した。盤外字のことは前述のとおりである。

3・5 語彙調査処理プログラムの検討　機械処理の方法には，いろいろなアイディアがありうるので，それらを出し合って検討した。数種のブロックチャート(処理の大まかな流れ図)を描いて比較検討し，各方式の場合の時間計算などを行なった。

3・6 漢字テレタイプによる用語総索引作成プログラムの作成　昭和39年度には，片かなによる『蜘蛛の糸』の総索引を作成し，年報16に作成手順のブロックチャートを記しておいた。漢字テレタイプが11月に設置されたので，語彙調査プログラム研究の第一段階として，漢字テレタイプを入出力に用いる用語総索引作成プログラムをまず作った。12月から作成に着手し，3月に完成し，漢字かなまじり表記による『蜘蛛の糸』の用例出典つき用語総索引を作った。3月24日の評議員会では，処理の一部を実演した。このプログラムの内容は，別の機会に報告する。作業に要した正味の時間を事項別に示すと，次のとおりである。

Ⅰ・人間の作業

a．単位切り，活用形修正，漢字のよみがなつけ，清書。1人　32時間

b．清書原稿を見て漢字テレタイプで紙テープにパンチ。1人　15時間

Ⅱ・電子計算機の作業

a．紙テープの内容を磁気テープに書きこむ。	7分	約2時間
b．磁気テープ上のデータを語別にして見出し語を立て，語ごとに用例(1文)，出典を書き入れる。	8分	
c．見出し語によって五十音順に整理する。	10分	
d．磁気テープの内容を紙テープにパンチする。	90分	

Ⅲ・漢字テレタイプの作業

a．Ⅱdでできた紙テープを漢字テレタイプの印字機で印字する。　(1台のべ) 43時間45分

3・7 フレキソ～ラインプリンタによる言語資料処理プログラムの開発　漢

字テレタイプを入出力とする言語情報処理に対し，漢字テレタイプを用いない処理業務の部門として，フレキソで入力してラインプリンタで出力する通常の方式による言語情報処理に着手した。まず，データとして，録音された話しことば資料を用いることにした。昭和38年度に松江市で「国民各層の言語生活の実態調査」を実施した中に，一家族の一日の発言を録音したものがある。その文字化が終っているので，これを材料にし，電子計算機によって用語の総索引を作るほか，諸種の分析を行なうプログラムを組み始めた。40年度内にプログラムの一部ができたので，データの一部を使って処理を試み，成功した。

3・8　処理方式を改良するプログラムの研究　われわれが41年度から行なおうとしている語彙調査の処理方式は，機械処理の前後に多くの人手を要するやり方である。将来は人手をへらして，なるべく多くの仕事を機械に行なわせるように，合理化されたプログラムを考える必要があるので，今からその研究に着手した。その項目は次のとおりである。

a．自動単位分割　目下，語彙調査に必要な人間の作業の大きな部分を占める言語単位分割を計算機自身が行なうようにすることを目ざす。なお，今年度の文部省科学研究費による各個研究(岩渕悦太郎)「電子計算機による自動言語単位分割の研究」に，林，石綿，田中，南，松本が協力した。今年度内に得られた成果は第一次報告『電子計算機による言語単位分割自動化の研究』(孔版印刷)に述べられている。

b．自動よみがなつけ　語彙表における語の排列を五十音順にするためには漢字で表記された語によみがなをつけなければならない。さしあたって，よみがなはすべて人間がつけるが，これを大部分計算機が自分でつけるようにすることを目ざす。

c．活用形の自動修正　語尾変化のある語は，文章の中では多くが終止形以外の形で現われる。見出し語を終止形に統一して立てるためには，それら語形の変化している語を終止形になおして入力する必要がある。これも，さしあたっては人間が行なうが，それを計算機が自動的に処理す

るようにすることを目ざす。

d．自動語彙分類　さきに研究所は，語彙調査の結果から『分類語彙表』を作って刊行した。今後，計算機でいろいろな言語情報処理を行なうのに，いろいろな性格の分類語彙表(いわゆる「シソーラス」)が必要になってくる。それらの語彙分類を計算機自身が作ることを目ざす。

4　研究員・作業員の研修教育

新しい種類の仕事を開始するに際して，各種の技能を習得するための研修教育が必要であり，次のことを行なった。

a．プログラミング技術の習得　HITAC 3010 のプログラミング技術の基本は，室員全部が知つておく必要があるので，日本ビジネス・コンサルタントの実施するアセンブリ・プログラム・コースの講習を全員が受講した。そのほかのコースについては，必要に応じて受講した。

b．言語単位分割の訓練　研究員の作成した分割基準によって研究補助員に訓練を施し，研究補助員が臨時の作業補助者の作業を指導できるようにした。

c．漢字テレタイプ操作員の教育と訓練　漢字テレタイプの操作員として採用した1名について，打鍵および機械操作について，訓練を施した結果，すでに確実な操作技能を身につけ，実務に従事している。

5　報　　告

5月から，部内用の報告『月報』を，孔版によって毎月作成し，必要な所に配布した。各号に掲載した記事は次のとおりである。

5月　チェッカートの意味論(石綿)

6月　自動単位切りの一アイデア(石綿)

7月　日本言語地図の電子計算機による作成(山本)

8月　Computational Linguistics をめぐる断想(松本)

Computational Linguistics についての覚え書き(石綿)

Computer による文法上の諸問題の分析(田中)

計算機による文章処理の展望(林)

On the Description of Syntactic Structures（南）

9月　Computational Linguistics の定義について(石綿)

語彙調査プログラムの時間計算(石綿，小林，山本)

10月　国研用漢字鍵盤穿孔印刷機(漢テレ)の概要及び同機による漢字処理の方法について(松本)

国研用漢テレとそのコードについて(松本)

11月　国研用漢字鍵盤穿孔印刷機(漢テレ)の概要及び同機による漢字処理の方法について(続)(松本)

H—3010 による漢字の自動解読についてのアイディア(田中)

12月　『基本語活用辞典』の案(林)

1月　雑報

2月　読みをささえるキーワードの求めかたについて(林)

3月　語彙の自動分類(石綿)

E　今後の予定

昭和41年度から新聞の語彙調査の実施にかかる。あわせて，電子計算機による松江資料の処理，言語情報処理のための言語の研究，言語情報処理の諸方式についての研究等を行なう。　（林　四郎）

社会構造と言語の関係についての基礎的研究

A 目的と方法

言語あるいは言語生活は，社会生活およびそれを規定している社会構造と密接な関係を持っているが，この研究はまだ十分に行なわれてはいない。もちろん研究方法も確立していない。いわば未開拓な分野に属する。したがって，この研究を進めるにあたっては，まずその研究方法を十分に検討する必要がある。まず単純な構造を持つ社会において，比較的明確な言語事象に範囲を限って調査を行なうのが適当であると考えられる。そこで比較的単純な構造を持つと思われる農村について，特に共通語生活と方言生活との交渉・接触において前者を推進し，あるいは阻止する条件を，方言体系や社会生活・社会構造との関係において明らかにしようとした。調査地点としては福島県北部農村(伊達(だて)郡保原(ほばら)町地区および福島市郊外の茂庭(もにわ)地区)を選び，ほぼ4年間で調査を完成しようと計画した。

B 担当者

この仕事に当たる本年度の分担は次のとおりである。

音韻・文法　　飯豊毅一

語彙・社会構造　渡辺友左

もちろん，つねに討論・協力して調査を進めたことはいうまでもない。なお河東はるみが作業を助けた。

C 研究の概要

1 計画のあらまし

このような調査を行なうためには，ほぼ次のような作業を要すると考えた。

(1) 方言体系の記述　共通語生活の推進・阻止の条件を考える場合には当然従来の方言生活ないしそこで用いられている方言体系をまず把握する必要がある。いわば全体の準備的研究である。

(2) 言語使用の実態　この地域における人々が日常生活においてどのように言語を使用しているか，共通語あるいは方言をどのように使い分けているかを調査する必要がある。

第一に，ある場面(たとえば親しい友人と雑談する場合)において，話し手の条件の異なりに応じてその使用言語はどうなるであろうか。性・年齢・職業・教養等の違いが使用言語にどのような差をもたらしているであろうか。あるいは言語についての意識がどのように異なるであろうか。

第二に，各種場面の違いに応じて使用される言語がどのように異なっているであろうか。家庭内とか，近隣の人との応待などのようなくだけた場面と，官公庁とか見知らぬ人(たとえば東京の人)との応待などのような改まった場面との間には，どのような違いがあるであろうか。

このようなことについて，録音資料あるいは面接調査によって調査を行なう必要があろう。

(3) 言語活動の機能・言語生活の形態　どのような言語生活を営んでいるか，また，話し・聞き，読み・書く言語活動はどのように行なわれ，どのような機能を発揮しているか。農村が近代化する過程においてかなりな変動が予想されるものである。

(4) 社会構造・社会生活の実態　農村の近代化もかなりな速さで進んでいると思われる。社会構造や社会生活は言語生活あるいは言語活動にはかなり直接に結びつくが，言語体系には現在の社会構造・社会生活と同時に前の時代のそれも影響を及ぼしていると思われる。したがってこれらの調査には現在の実態のみならず戦前のそれも追究調査する必要があろう。

(5) 以上の総合　以上の(1)〜(4)を総合的に関係づける調査が必要である。これはかなりな規模のものを予定しなければならないであろう。しかし前記の課題を明らかにするためには欠くことができないものであり，(1)〜(4)

は実はこの準備的調査研究であるといってもいいのである。

2 本年度の研究

本年度は第一年度であり，研究を進めるに当たっての計画の検討や環境整備等，具体的調査に入る以前の準備もあって，具体的な調査研究そのものは多くをなし得なかった。

(1) 方言体系の調査　『福島県方言辞典』をはじめ従来の研究物について調査を行なったほか，保原地区4地点，茂庭地区1地点でそれぞれ数名につき昭和41年3月に音韻・文法・語彙のめぼしい特徴を中心として面接調査を行なった。文法では用言の活用を中心とし，めぼしい助詞・助動詞の用法について行なった。語彙では親族語彙と形容詞・形容動詞を中心に，その体系を明らかにしようとした。（音韻・文法・語彙のそれぞれの調査地点はかならずしも同一ではない。）

また参考として周辺地区（梁川町梁川および梁川町白根・月館町・霊山町大石・桑折町）においても同様な調査を行なった。

この整理は次年度に持ちこされた。

(2) 言語使用の実態の調査　昭和40年8月に保原地区・茂庭地区において，話し手の性・年齢・教養等の違いによって使用言語がどのように異なるかをみるために，録音調査を行なった。すなわち親しい人とくだけた話し合いを行なう場面に限定し，男子老年層，男子青年層，女子老年層，女子青年層の四つの層をさらに教養(学歴)によって二つに分け，計八つの層について各3名の話し合いを録音採集した。話題はできるだけ同様なものにすることを心がけたが多少のずれがある。そのリストは次のようになる。

リール番号	資料番号	略称	採録年月	時間	話者
No. 福 1		㊫栄町老人会話	S. 40.8	90 分	木戸福次郎(67)，渡辺吉五郎(72)，笠原喜一(60)
〃 2		〃	〃	45 分	
〃 3		㊫保原教老婦人	〃	90 分	古宮千代，小森谷登喜，八巻キヌイ
〃 4		〃	〃	30 分	
〃 5		㊫保原教老会話	〃	90 分	平林宥尚，佐藤吉次(62)，尾形喜一(63)
〃 6		〃	〃	30 分	
〃 7		㊫保原青年学級女	〃	90 分	一条キイ子(20)，斉藤タカヨ(20)，土田槇子(21)
〃 8		㊫保原青年学級男	〃	90 分	小林栄重(21)，高橋雄二(21)，井間弘章(23)
〃 9		㊫保原男子学生	〃	90 分	浅野嘉尚(19)，舟山喜一(18)，畠山孝夫(20)
〃 10		〃	〃	30 分	
〃 11		㊫保原女子学生	〃	90 分	半沢光子(21)，宮口茂子(21)，赤井ミヨ(21)
〃 12		㊫保原老婦人	〃	90 分	大友タネ(59)，一条ユウ(61)，高松ヤス(59)
〃 13		㊫富成老人会話	〃	60 分	菅野勇治(74)，西戸徳左衛門(67)
〃 14	side Ⅰ	〃	〃	30 分	
	side Ⅱ	富成老人混合	〃	30 分	二階堂宥夫(61)，佐藤武二(66)，菅野勇治(74)，西戸徳左衛門(67)
〃 15		富成教老会話	〃	60 分	二階堂宥夫(61)，佐藤武二(66)

〃	16		㊧富成青年学級男	〃	60 分	野崎正雄，菅野欣一，菅野助之，寺内勝美
〃	17		〃	〃	30 分	
〃	18	福島県北部方言資料 4	㊧茂庭青年男	〃	60 分	鈴木忠司(24)，山田広美(21)，山田次男(22)
〃	19		〃	〃	40 分	
〃	20	福島県北部方言資料 2	㊧茂庭老人	〃	60 分	小関芳之助(65)，鈴木栄徳(70)，斎藤松太郎(67)
〃	21		〃	〃	60 分	
〃	22	福島県北部方言資料 1	㊧茂庭老婦人	〃	60 分	鈴木トキ(84)，鈴木　正(78)，小関ウン(73)
〃	23		〃	〃	30 分	
〃	24	福島県北部方言資料 3	㊧茂庭青年女	〃	60 分	鈴木靖子(23)，小関絹子(23)
〃	25		㊧ 〃	〃	30 分	
〃	26		㊧茂庭老壮男	〃	60 分	今野義男(68)，小関正一(64)，本多佐七(53)，鈴木吉司(52)
〃	27		〃	〃	30 分	鈴木唯男(40)

このうち15時間を文字化した。(文字化には現地の保原高校教諭小野忠氏および福島大学国文科学生宇野伸一氏の協力を得た)。録音資料リストに㊏とあるのがそれである。さらにこのうち4時間分についてカード採集を行なったが，その分析整理は次年度に持ちこされた。4時間分の録音資料にふくまれている話者ごとの文の数は次のようになる。

	時間	文数	話者別文数					
茂庭老人	66分	1,016	小関 芳之助	鈴木栄徳	斎藤 松太郎	話者不明	飯豊	渡辺
			347	65	512	1	48	43
茂庭老婦人	66分	1,137	鈴木トキ	鈴木正	小関ウン	一同	飯豊	渡辺
			426	370	202	2	56	81
茂庭青年男	59分	760	鈴木忠司	山田広美	山田次男	菅野	飯豊	渡辺
			168	323	198	6	25	40
茂庭青年女	58分	919	鈴木清子	小関絹子			飯豊	渡辺
			383	320			130	86

(3) 社会構造の調査　本年度は記録や各種統計表による概観調査を行なった。これには農林省発行の『農業センサス』，総理府発行の『国勢調査報告書』をはじめとする既刊資料および中央官庁における各種資料を利用したほか，昭和40年8月および昭和41年3月の上記調査の際にも福島県庁や現地諸機関にある諸資料を利用した。これは保原地区・茂庭地区の産業・職業構造，人口・学歴構造，交通圏・通信圏等についての基礎的調査の一部分である。

また，既存資料の収集につとめた。

D 今後の予定

次年度は方言体系の調査，および本年度採集した録音調査のカード化とその整理分析を進め，さらに言語使用の実態を主として面接調査によって行なおうとしている。すなわち共通語と方言をどのように使い分けており，また意識しているか，方言内部における類似の語・形式をどのように使い分け，意識しているか，それらは話者によってどのような違いがあるか等を調査する予定である。

また，社会構造についても基礎的調査を継続しつつ，さらに家族構造，消費構造，コミュニケーション圏，商業圏等に範囲を拡げ資料を収集しようとしている。

（飯豊）

現代語における漢字ならびに表記法に関する調査研究

A　調査の目的・意義

国語の正書法を確立するうえに役立つ基礎資料を得るために，国語の文字・表記法に関する諸問題を調査研究する。

B　担　当　者

調査研究の担当者は，

斎賀秀夫　土屋信一

の両名であり，宇野瑠美子(昭和40年6月30日辞職)・菅野裕子(昭和40年7月1日採用)が，作業を助けた。

C　これまでの作業経過

昭和37年度以降，「現代雑誌九十種の用語用字調査」で得られた資料に基づいて，漢字ならびに表記法に関する調査研究を行なってきた。37年度は，「使用率順漢字表」および「用法別漢字表」を作成し，若干の分析結果を加えて，国研報告22『現代雑誌九十種の用語用字』(第二分冊　漢字表)を刊行した。38年度は，漢字の音訓使用の実態を調査し，その結果の一部を『年報15』に報告した。39年度からは，主として，送りがなと，漢字・かなの書き分けの問題を採りあげ，その実態を調査し，分析を進めてきた。このうち，「送りがなのゆれている語例」の一覧表を，『年報16』に掲げた。

D　本年度の作業

1　現代雑誌九十種の用字調査

a．送りがなに関する分析

現代雑誌の用語調査で得られたすべての語[注]について，送りがなの使用

状況を明らかにするため，各語を，品詞別，活用別，音節数別，語結合の種類別に分類したうえで，送りがなの使用状況が一覧できる送りがな分析表を作成した。さらに，一つの語が他の品詞に転成したり，あるいは複合語の結合要素になったりした場合に，送りがなのつけ方に変動が生じるかどうかを見るために，送りがな関連表を作成した。

なお，この調査は，昭和31年一年間の雑誌についてのものであるが，その結果を現在の状況と比較するために，朝日・毎日・読売の三紙における送りがなの現状を小規模に調査した。（昭和41年1月27日付の三紙の朝夕刊全紙面を対象とした。）

注）現代雑誌90種についての用字調査は，用語調査のために抽出した標本の3分の2（全紙面のほぼ340分の1）について行なったので，ここで「すべての語」というのは，全体の3分の2の標本に現われたすべての語をさす。

b．漢字・かなの使い分けに関する分析

現代雑誌の用語調査で得られたすべての語を，語種別，品詞別に分類したうえで，それらの語がどういう文字で表記されているかを調査し，かな書きにされる条件を明らかにしようとした。40年度は，漢語・外来語および和語の一部（代名詞，指示語，感動詞）などについて，一覧表を作成した。

2　文字使用の実態調査

上記(1)の調査は，書かれた文字資料に基づいて，表記の分析を行なうものであるが，国語表記についての問題点を明らかにするためには，そのほかに実際に文字活動をいとなむ読み手および書き手を対象として，その表記の実態と文字や表記に対する意識を知る必要がある。この見地から，(1)の調査の結果明らかになつた，送りがなあるいは漢字・かなの使い分けに関する問題点について，日常生活で文字活動をいとなむ機会の多い一般成人を対象とする調査を考えた。今年度は，その準備的調査として，次の二つの調査を実施した。

a．作文における送りがな調査――日本広報協会主催の「広報セミナー」（昭

和40.11.16～11.20）に出席した聴講生の作文93編を借覧し，実際に送りがながどう書かれているか，どんなことばの送りがなが不統一であるかを，記録した。

b．千葉県広報担当者の集合調査――千葉県下各市町村の広報担当者59人に対して，送りがなについての実態ならびに意識を調べる集合調査を行なった（昭和40.12.7）。この調査は，ペーパー・テストの方法を用い，送りがなの実態については，選択肢法と補塡法の形式を併用して，各人がどういう送りかたをするかを見ようとした。また，たとえば「ふだん文章を書くとき，送りがなのつけ方について迷うことがあるか」「迷うときはどうするか」「一つの語について送りがなのつけ方が一定していたほうがいいと思うか」などの設問を用意して，選択肢法および自由記入の形式で答えてもらった。これは，送りがなというものに対する各人の平素の意識や態度をさぐろうとしたものである。この調査結果の概要については，下記のE(1)の分析結果の記述の中に触れる予定である。

E 今後の予定

(1) 現代雑誌九十種の用字調査……40年度にほぼ作業ならびに分析を終了したので，41年度にその分析結果を，記述する予定である。

(2) 文字使用の実態調査……40年度の準備調査に使用した送りがなに関する調査票を再検討し，さらに，漢字・かなの書き分けに関する問題も加えたうえで，41年度に本調査を実施する。調査対象は，文字活動をいとなむ機会の多い一般成人（大学生・官公吏・会社員など）約千人を予定している。

(3) 戦後の表記法の変遷に関する研究……(1) (2)の調査と並行して，標記の調査の準備にはいる。41年度は，調査項目，調査資料，調査方法などについて検討し，42年度以降の調査計画をたてるとともに，必要によって小規模の実態調査を準備的に実施する予定である。

（斎賀）

国語関係文献の調査

国語に関する学問の一般を知り，あわせて学界の動向や世論の動きをとらえるために，前年度に引き続き，本年度も，昭和40年1月から12月までの刊行の図書・雑誌・新聞についての文献調査を行なった。これらの文献目録はその他の資料・情報とともに，当研究所編『国語年鑑』(昭和41年版)に掲載されている。

以下，その各々について分類し，冊数および点数により，大まかな傾向を示すことにする。

A　刊行書の調査

国語関係の刊行書について，書名・著(編)者名・発行所・発行年月・型・ページ数，ならびに内容を調べ，カード化し，総数495冊の分類目録を作成した。なお，分類項目の立て方の変更により一部見出しに移動があるが，可能なかぎり前年の数を(　)内に示して今年のものと比較できるようにした。

刊行書の分類とその冊数

国語(学)		
国語一般	18	(7)
国語史	15	(11)
音声・音韻	8	(7)
文字・表記	12	(3)
語彙・用語		
語彙・用語	5	(16)
人名・地名	9	(10)
文法	13	(6)
文章・文体	9	(8)
方言・民俗	27	(19)
コミュニケーション		
コミュニケーション一般	6	
言語技術(話し方・書き方)	38	(18)
情報処理	3	
マス・コミュニケーション	15	(18)
国語国字問題	3	(13)
国語教育		
国語教育一般	11	(6)
学習指導一般	16	(16)
語彙・文字教育	2	(7)

文法教育	2	(0)
聞く・話す	1	(2)
読む・読書指導	9	(15)
書く・作文指導	12	(5)
文学教育	4	(7)
幼児教育	6	(6)
学力調査	1	(5)
その他	8	(12)
言語学その他	23	(27)
日本語の研究と教育	2	
辞典・用語集		
国語辞典	12	(5)
用語辞典・用語集	24	(26)
特殊辞典	5	(9)
索引	4	(4)
資料		
資料	5	(42)
史料	48	
解題・目録	20	
年鑑	14	
計	410(360)冊	
追補		
国語学その他	27	(71)
方言	7	
国語教育	16	
言語学その他	15	
辞典・用語集・資料	20	
総計	495(431)冊	

B　雑誌論文の調査

主として当研究所購入の諸雑誌，ならびに寄贈された大学や学会・研究所などの刊行物から，関係論文・記事を調査し，題目・筆者・誌名・発行年月・巻号数およびページ数などを記載したカードを作り，分類別カード目録を作成した。採録した論文・記事の総数は2,021点に達した。なお，今回は連載物などはその題目について1点を数え，各回ごとに1点と数えることはしなかった。(　)内は前年の論文・記事の採録数である。

1　一般刊行雑誌，および大学・研究所等の紀要・報告書類の種別数

a　一般刊行雑誌(学会誌も含む)……276(197)種

国語・国文・言語ほか	81	(84)
方言・民俗	12	(10)
国語問題	5	(8)
国語教育	23	(36)
マス・コミ関係	15	(14)
外国語	8	(5)
総合誌	0	(4)
詩歌・芸能	4	(4)
その他（教育・社会学・心理学ほか）	59	(14)
本年度臨時にはいった雑誌	69	(18)

b　大学・研究所等の紀要・報告類……153(101)種

なお，調査した刊行物は，主として研究所に寄贈された分(後記，「昭

和40年度に寄贈された図書」の一覧(2)「逐次刊行物の部」参照)と，当所購入による下記の諸雑誌である。

国文学 解釈と鑑賞(至文堂)
計量国語学(計量国語学会)
国語と国文学(東大国語国文学会)
文学・語学(三省堂)
文学(岩波書店)
日本文学(未来社)
沖縄文化(沖縄文化協会)
民間伝承(六人社)
教育(国土社)
作文と教育(百合出版)
児童心理(金子書房)
教育心理(日本文化科学社)
教育心理学研究(日本教育心理学会)
社会学評論(日本社会学会)
英語青年(研究社)
時事英語研究(研究社)
数学セミナー(日本評論新社)
放送文化(日本放送協会)
新聞研究(日本新聞協会)
出版月報(出版科学研究所)
出版指標(出版科学研究所)
学術月報(日本学術振興会)

2 論文・記事の分類とその点数

国語(学)	37	(75)
国語史		
国語史一般	28	(27)
訓点資料関係	44	(15)
音声・音韻		
音声・音韻一般	34	(33)
史的研究	5	(11)
アクセント・イントネーション	12	(9)
文字・表記		
文字・字体	11	(7)
用字	9	(10)
表記	15	(23)
語彙・用語		
語彙・用語一般	20	(12)
古語	45	(33)
現代語	19	(23)
新語・流行語	7	(9)
外来語	3	(3)
名づけ	6	(3)
辞書・索引	18	(33)
文法		
文法上の諸問題(現代語法)	63	(54)
文法の史的研究	37	(87)
敬語法	18	(15)
文章・文体		
文章・表現一般	74	(84)
史的研究	63	(27)
古典の注釈		
古典注釈一般	4	(4)
上古	3	(133)
中古	15	
中世	7	
近世	7	
方言・民俗		
方言一般	18	(31)
各地の方言		

東　部　18　(14)
西　部　24　(20)
九州・沖縄　9　(13)
民　俗　2

コミュニケーション

コミュニケーション一般　25
言語生活　17　(20)
言語活動
言語活動一般　4　(9)
書く・読む　17　(10)
話す・聞く　38　(31)
情報処理　46

マス・コミュニケーション

一般的問題　5　(24)
新　聞　9　(54)
放　送
放送一般　24　(68)
ラジオ・テレビ　11　(42)
広告・宣伝　7　(39)

国　語　問　題

国語問題一般　26　(52)
表記法
表記一般　3　(11)
当用漢字など　2　(10)
かなづかい　3　(5)
送りがな　1　(1)
わかち書き　5　(1)
横書き・縦書き　6　(3)
かな書き・ローマ字書き　10　(9)
地名・人名の表記など　(2)

国　語　教　育

国語教育一般　34　(68)
言語能力の発達　21　(6)
国語教育史　10　(3)
学習指導一般　32　(31)
ことばの教育一般　21　(63)
文学・表記教育　19　(12)
語彙教育　13　(15)
文法教育　30　(21)
ローマ字教育　8　(1)
聞く・話す　14　(40)
聞　く　1　(15)
話　す　7　(8)
話しことば指導　5　(25)
読む・書く　7
読　む　16
読解指導　61　(202)
読書指導　14　(16)
書　く　5
作文教育・創作指導　82　(145)
文学教育　33　(65)
古典教育　13　(4)
漢文教育　9　(4)
特殊教育　10　(14)
学力評価　21　(16)
国語教科書・教材研究　57　(62)

言　語　学

言語一般　32　(22)
意　味　8　(11)
比較研究　9　(10)
翻訳の問題　15　(10)
外国語研究　38　(36)
外国語教育(学習)　18　(30)
各国の言語問題　16

日本語の研究と教育　20　(9)

資　料

資料一般　3
国語資料　27　(29)
目　録　16

時　評・随　筆　120

書評・紹介		
国語(学)その他	60	(126)
方　言	13	
国語教育	28	
言語学その他	10	
計 1,910(2,368)点		

追　補		
国語(学)その他	30	(52)
語彙・文法	18	
文　体	8	
方　言	26	
国語教育	14	
言語学その他	15	
総計 2,021(2,420)点		

C　新聞記事の調査

下記の諸新聞から，関係記事を切り抜き，それを整理し各月ごとに製本し，資料として保存し，閲覧に供するとともに，分類別のカード目録を作った。カードの記載形式は，見出し語（欄名だけで，見出し語のないものは，その内容によって，適宜題名をつけた。）・紙名・筆者名・年月日・欄名・行数・内容の順序によった。切り抜き総数 1,749 点である。調査した紙名，切り抜き点数および月別の切り抜き数は次のとおりである。

各表の(　)内の数字は昨年度の切り抜き点数である。なお，3，新聞記事の分類とその点数の表で分類項目に昨年度とは多少の動きがある。そのおもなものは［ことばと機械］，［日本語の研究と教育］の項目をたてたこと，［言語活動］のところで「言語活動一般」，「書くこと(読むこと)」の項目を，［言語学］では「比較研究」をそれぞれ新らたにたてたこと，また「翻訳の問題」の項目を［文体］から［言語学］に移したことなどである。

1　新聞の種類と切り抜き点数

日・夕刊紙		
朝　日	293	(376)
(大阪)*	9	(7)
毎　日	199	(371)
(大阪・名古屋)	12	(9)
読　売	178	(225)
(大阪)	66	(4)
東　京	353	(158)
東京タイムズ（昨年度3月まで）	—	(12)
産　経	133	(174)
(大阪)	5	(10)
日本経済	63	(88)

中部日本	49	(139)
西日本	56	(81)
北海道	122	(102)
週刊・その他		
日本読書	33	(44)
読書人	33	(76)
図　書	59	(31)
新聞協会報	29	(24)
教育日本(4月から)	18	
教育学術(　〃　)	8	
その他	31	(16)
計	1,749	(1,897)点

※かっこの中は地方出版のもの。これは，大阪の山田房一氏，名古屋の平岡伴一氏などの地方在住のかたがたから，関係記事のあるごとに恵送されたもの。

2　月別の切り抜き点数

1月	158(159)	2月	140(138)	3月	178(207)
4月	196(176)	5月	126(181)	6月	136(153)
7月	195(129)	8月	148(129)	9月	126(154)
10月	110(167)	11月	110(171)	12月	126(133)

3　新聞記事の分類とその点数

国語(学　)一般	138	(106)
音　声・音　韻	41	(25)
文　　字		
文字・表記	9	(8)
活　字	3	(3)
語　　彙		
語彙一般	159	(11)
各種用語	90	(152)
新語・流行語・隠語	47	(69)
外国語・外来語	17	(83)
辞　書	22	(18)
問題語・命名	68	(93)
地名・人名	62	(61)
文　　法	16	(4)
文　　体		
文体・表記	26	(27)
方　　言		
方言一般	27	(82)
方言と標準語	8	(13)
各地の方言	77	(21)
言　語　生　活		
言語生活一般	60	(78)
ことばの問題	30	(55)
ことばづかいの問題	32	(48)
敬語の問題	9	(25)
言　語　活　動		
言語活動一般	7	(—)
話すこと(聞くこと)	41	(53)
書くこと(読むこと)	22	(—)
読　書	14	(25)
ことばと機械	30	(26)
国　語　問　題		
国語問題一般	59	(99)

表記の問題		
表記一般	25	(14)
当用漢字など	22	(34)
かなづかい	11	(13)
送りがな	1	(2)
かな書き	8	(19)
横書き・縦書き	7	(9)
地名・人名の表記	23	(19)
外来語表記	6	(8)
ローマ字	9	(17)
国語教育		
国語教育一般	29	(13)
学習指導の問題		
学習指導一般	6	(9)
話す(聞く)	5	(3)
読む(読書指導)	12	(13)
書く(作文指導)	12	(8)
文学・古典教育	2	(10)
特殊教育	17	(19)
視聴覚教育	2	(4)
ローマ字教育	1	(4)
学力テスト	11	(33)
幼児語教育	19	(31)
言語学		
言語一般	37	(2)
外国語一般	14	(61)
比較研究	4	(—)
翻訳の問題	22	(38)
外国語教育	9	(23)
外国語に関する紹介他	24	(20)
日本語の研究と教育	22	(29)
マス・コミュニケーション		
マス・コミ一般	11	(1)
新聞	7	(13)
放送	25	(16)
宣伝・広告	7	(14)
出版	28	(15)
書評・紹介他	197	(168)
計	1,749	(1,897)点

これら国語関係文献目録の詳細は，他の資料とともに，『国語年鑑』(昭和41年版)に掲載したので，ここではふれない。

D 担 当 者

この調査および国語年鑑編集の作業は主として次のものが担当した。

橋本 圭子 塚田 菊子 中曾根 仁

(橋本，中曾根)

所外からの質問について

最初に昭和40年度に電話で受けた質問件数を月別に示す。

月 / 計	40年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	41年1月	2月	3月
716	41	62	62	54	52	78	76	60	55	52	67	57

質問の内容は，種々雑多であるが，用字用語についての質問92件，かなづかい61件，漢字の読み51件，類義語47件，送りがな46件等が比較的多い質問であった。その他，語源・敬語・ことばの意味・表記のゆれ・同音語・方言などの質問から漢字の筆順・語感についてなど多方面にわたる質問があった。

はがき・封書による質問は40通ばかりであるが，語源・方言などのことばに関する質問以外に，研究所の刊行物などについての照会がかなり多かった。中国・西ドイツ・ポーランドなど外国からの質問もあった。

電話・手紙による質問以外に，直接研究所に来訪されて質問する人も多数あった。

以上は所員が個人的に受けた質問を除き，研究所に対してなされた質問である。電話での質問に対する応答は，主として露峰裕子が当たった。

（山田）

図書の収集と整理

前年度にひきつづき，研究所の研究活動に必要な研究文献および言語資料を収集，整理，管理した。また例年のとおり，各方面からの寄贈が少なくなかった。寄贈者各位の御好意に対して感謝する。なお，今年度は，購入，寄贈とも冊数において前年度の五割増となった。また，今年度は図書館が新築され，書庫，閲覧室，事務室とも，新しいよそおいのもとに出発した。同時に，図書室の名称も図書館と改められた。

昭和40年度に新しく加えた図書の数は，次のとおりである。

単行本	購入	963冊
	寄贈	322冊
雑　誌	購入	679冊
	寄贈	813冊
新　聞	購入	10種
	寄贈	3種

年度末における蔵書数(単行本だけ)は，30,695冊である。　(見坊)

昭和40年度に寄贈された図書の一覧

寄贈者名(五十音順，敬称略)　図書名

1　単行本　(　)内は編著者が寄贈と異なる場合の編著者名。* は抜き刷り。

阿達　義雄 *「柳多留における紋章吟」

阿部　吉雄 「日本朱子学と朝鮮」

愛知学芸大学図書館 「漢籍目録」

井上　寿老 *「言語の論理」(上)(中)

井上　敏夫 「作文教育と遠足との関係」

英　紹唐 「文鳥・夢十夜(国立台湾大学日語用本)」

愛媛国語国文学会 「南予文学——古代中世篇——」

遠藤　嘉基 「欧洲紀行」

遠藤　好美 「青森のことば」(読売新聞社青森支局編)

大阪女子大学 「後撰和歌集総索引」

大田栄太郎 「富山県方言集成稿　七」(富山市教育研究所編) 「越中方言の諸相」

太田　武男 「家族法判例集成　追録１」

岡山県教育研修所 「中学校国語科における読解指導法改善のための実践的研究」

岡山大学図書館 「蔵書目録　第一巻」

奥村　三雄 *「上方洒落本における文末敬語法」*「方言と共通語にける文法的対応」

樺島　忠夫 「文体の科学」「表記体系の分析」

橘田　広国 「INSATU-MOZI」「TIZU TO RÔMAZI」「TIKAGORO NO TYÛGOKU」

京都大学人文科学研究所 「東洋学研究文献類目」(昭和37年度) 「唐代の詩篇　第二冊」

岐阜県教育委員会 「全国小学校学力調査報告書　昭和39年度—岐阜県—」「全国中学校学力調査報告書　昭和39年度 —岐阜県—」「岐阜県 小学校 学力追 跡 調 査 報 告 書　昭和39年度」

宮内庁書陵部 「看聞日記紙背文書・別記」「御摂籙渡庄目六」

桑原　秀夫 「精薄児ト　タイプライター」

グローターズ 「モグラのしっぽ」

慶応言語文化研究所 「THE CONCEPT OF BELIFE IN ISLAMIC THEOLOGY」(TOSHIHIKO IZUTSU)

神戸市教育委員会 「作文指導のために　小学校編(2)」「書くこと(作文) 指導のために　中学校編」

神戸大学図書館 「雑誌目録」

国際基督教大学 「MODERN JAPANESE FOR UNIVERSITY STUDENTS PART 1」「 〃 (WRITING)」「 〃(EXPRESSION AND STRUCTURE)」

国立近代美術館 「国立近代美術館所蔵品目録　1964」

国立国会図書館 「諸問屋名前帳　細目　四」「御仕置例類集　細目(上)」

此島　正年 *「下北方言語法考」

小林　芳規 *「鎌倉時代語史料としての草稿本教行信証古点」 *「中世語史料としての高山寺蔵古往来」 *「漢籍の古點本に用ゐられた濁音符」

小寺佐和子 「こども の あそび ことば」

佐藤喜代治 *「アメリカにおける日本語の教育と研究」

佐藤　　茂 「古活字版和玉篇和訓索引」 *「古活字版和玉篇和訓考　その二」「あゆひ抄・かざし抄　里言索引」 *「語彙分類の基本的問題」

佐藤　　亨 「岩手県北上市二子町方言の研究」

佐藤　丈治 「気仙ことば」

坂口　兵司 「国語と日本語」

さるびあ出版 「鑑賞　奥の細道」(内山一也)

塩田　真八 「八王子の方言」

渋谷　　孝 「和泉式部日記の世界」

下関市立文洋中学校 「本校教育全領域の再検討とその推進」「〃 (第2年次まとめ)」

史　料　館 「史料目録　第十一集」

白石　大二 「例解辞典」

鈴木　長治 「鬼首地方植物名方言」

成 城 大 学 「記念論文集」

関 野　　克 「宮廷関係記事用語集成」(東京朝日新聞社)

高羽　四郎 「助動詞“る”の用法(後半)」

高森　邦明 「作文教育の探求」

竹岡　正夫 *「文章解釈法の国語学的考察」

田口　孝之 「談話文の構造分析」(1), (2)

塚 本　　巌 「上中町の方言しらべ」

土本　哲郎 「作文の用語分析　(1)」

寺田　泰政 *「奥遠州水窪町のアクセント」

天理図書館 「吉田文庫神道書目録」(天理図書館叢書 28)「聖書」(善本写真集 28)「古写経」(善本写真集 25)

東京大学国語国文学会 「国語国文学研究文献目録(昭和39年)」

東京大学史料編纂所 「大日本史料」1編14, 2編15, 6編35, 11編13, 「大日本古文書」 家わけ18, 幕末外国関係文書5, 「大日本近世史料」 唐通事会所目録6,

諸問屋再興調　6，柳営補任　5，6，幕府書物方日記　2，市内取締類集　5，「大日本維新史料」井伊家史料　4，「日本関係海外史料目録」3，13，

東京天理教館「芭蕉」(天理ギャラリー　第14回展)

東京都教育委員会「教育相談　第2集」「道徳の指導　第3集」「図書館資料・視聴覚教材整備と管理(小学校・中学校)」「教育課程編成要領(聾学校小学部)」「東京都教育統計年鑑(昭和38年度)」

東洋文化研究所「新収和漢図書目録」19，20，「増加洋書目録」1961～64，

徳島県中学校教育研究会国語部会「国語とくしま読解指導　第1集」

栃木高等学校国語科「文語文法の指導上の問題点とその対策」

富山県教育研究所「児童の文章意識の発達過程に関する調査研究」

富山大学図書館「増加図書目録」(昭和39年度)

豊田　国夫　*「清朝の繙訳衙門と筆帖式」

中島　一葉「肥後狂句」

長須　正文「短詩型文学教材の検討と教育の問題」

名古屋市教育館「子どもと家庭」

奈良国立文化財研究所「平城宮発掘調査出土木簡概報」(三)「俊乗房重源　史料集成(小林剛編)」

西岡　敏夫「国語音感考説」

日本新聞協会「昭和41年　新聞用語集　別冊」

日本方言研究会「第1回研究発表会」

日本放送協会「全国方言資料」7，8，「国民生活時間調査　資料編」Ⅴ「日本放送史」上巻，下巻，別巻，「アイヌ伝統音楽」「国民生活時間調査　資料編」Ⅰ(昭和40年度)「テレビ・ラジオ番組聴視率調査(全国・地方別結果表)」

野口　幸雄「西酒屋方言の音韻」

野地　潤家「西尾実先生著述目録」

野林　正路　*「北九州地方における吸着語」*「チョムスキーの文法理論」

土部　弘　*「文章意識の発達・第3報」

浜田　敦「弘治五年　朝鮮板　伊路波」(京都大学国文学会)「日本寄語の研究」(京都大学国文学会)

原　栄一　*「日本霊異記の文体と訓読」

日野　資純　*「「ましじ」の研究史における「山口栞」の位置」

広島大学国語教育研究室　「学習能率化のための基礎調査報告書」

深谷　仲夫　「読解指導と文章論」

藤村　　隆　*「香川県における「ジャンケン用語」の調査報告」

藤原　与一　「A DIALECT GRAMMAR OF JAPANESE」

北辰K・K・「小学語文」（倉石武四郎）「中国語のくみたて」（倉石武四郎）「東京——北京」（全育本）「中国語　どういえばよいか」（長谷川寛）「中国語の話し方」（牧治雄）

北海道学芸大学図書館　「和漢書増加目録(昭和37年度)」

馬瀬　良雄　*「もんぺの方言」　*「農・山村の児童生徒をめぐる生活環境調査」

三上悠紀夫　*「『歎異鈔』の国語学的研究」

明治神宮　「新輯　昭憲皇太后御集」

森　　亮　*「『海潮音』の声調」(律動篇)　*「〻」(諸韻篇)

文部省　「学術用語集（論理学編）」「全国小学校学力調査報告書（昭和38年度）」「全国中学校学力調査報告書(昭和38年度)」

安本　美典　「文章心理学の手びき」

矢作　春樹　*「語法における共通語化の難易度とその問題点」　*「方言語法の実態と共通語化の問題点」

山口　幸洋　「静岡県本川根方言の文」

山崎　久之　*「江戸前期文語の待遇表現(二)」

山梨大学図書館　「雑誌目録　第一版」

屋比久　浩　*「イックー」と「ワッター」　*「沖縄における言語転移の過程について」　*「STUDIES ON SŌKE DIALECT I」

横浜市立仲尾台中学校　「中学校教科経営」「国語・社会」「学習指導案」

吉野　　忠　*「おあんはなし(おあん物語)」　*「『おあんはなし』とその言語」

2　逐次刊行物(おもなもの)

愛知県立女子大学　「説林」14　「紀要」16

朝日放送K・K・「放送朝日」131～141

明日香社　「明日香」311～322

いずみ会　「IZUMI」63～64

印刷学会 「印刷雑誌」 48—4～12 49—1～3

宇都宮大学 「学芸学部研究論集」 13～14

愛媛県教育研究所 「紀要」 42～47

愛媛大学 「紀要」 10 「愛媛国文研究」 15

大分大学学芸学部 「研究紀要」 2—5 (A, B)

大阪学芸大学 「紀要」 A13, C6 「学大国文」 9 「国語と教育」 1965

大阪市立大学 「人文研究」 16—2～11

大阪大学 「文学部紀要」 11～13 「語文」 25

大阪府科学教育センター 「研究報告集」 17, 23

大下学園 「研究紀要」 8～9

大谷大学 「大谷学報」 43—4, 44—1～4 「研究年報」 16

お茶の水女子大学 「人文科学紀要」 18 「国文」 23～24 「附属高等学校紀要」 10

学燈社 「国文学」 10—6～15 11—1～4

鹿児島大学 「教育学部研究紀要」 16 「薩摩路」 10

金沢大学 「教養部論集」 2 「法文学部論集」 12～13 「教育学部紀要」 13～14

カナモジカイ 「カナ ノ ヒカリ」 514～525 「モジ ト コトバ」 263～273

関西学院大学 「人文論究」 15—3～4 16—1～2 「日本文芸研究」 16—3～4 17—1

九州大学 「語文研究」 19～20 「文学論輯」 12

京都学芸大学 「紀要」 A, B 26～27

京都女子大学 「女子大国文」 37～40

京都大学 「文学部研究紀要」 9 「教育学部紀要」 11 「教養部人文」 12 「人文科学研究所 紀要」 41 「〃 調査報告」 21 「ZINBUN」 8 「国語国文」 368～378

京都府立大学 「人文」 16～17

金城学院大学 「論集」 28 「金城国文」 31～33

宮内庁 「書陵部紀要」 16～17

熊本大学 「教育学部紀要」 13—1～2

訓点語学会 「訓点語と訓点資料」 30～32

高知大学 「学術研究報告」 14—8～9 「国語教育」 13

甲南女子大学 「研究紀要」 1 「甲南国文」 13

神戸市外国語大学研究所 「神戸外大論叢」 76～81 「研究年報」 2 「外国学資料」 15

神戸女学院大学 「論集」 34～36

神戸大学 「研究」 35～36 「教育学部研究集録」 33～34 「教養部論集」 1

語学教育研究所 「語学教育」 273～275

国学院大学 「国学院雑誌」 66―2・3～12 「国語研究」 20～21

国語学会 「国語学」 60～63

国語問題協議会 「会報」 28～32

国立教育研究所 「紀要」 45～46

駒沢大学 「駒沢国文」 2～4

「古典と現代」の会 「古典と現代」 22～23

佐賀大学 「人文紀要」 1 「文学論集」 6

相模女子大学 「紀要」 21～23

静岡県立教育研修所 「教育研究」 28～30

実践国語研究所 「実践国語」 303～316

実践女子学園 「実践文学」 25～27

信濃教育会 「信濃教育」 941～952 「教育研究所年報」 8

島根大学 「論集」 15 「山陰文化研究所紀要」 6

上智大学 「ソフィア」 14―1～4

昭和女子大学光葉会 「学苑」 304～315

信州大学 「文理学部紀要」 14 「教育学部紀要」 14 「教育学部研究論集」 16

成城大学 「成城文芸」 38～41

全日本CM協議会 「CM研究」 19～20

大修館 「英語教育」 14―2～12, 15―1

大東文化大学 「紀要」 3 「東洋研究」 11

中央大学 「文学部紀要」 17～19 「中央大学国文」 8 「教育学論集」 7

中国語学研究会 「中国語学」 149～158

地域社会研究所 「コミュニティ」 5～7

秩父市教育研究所 「秩父教育」 36～37 「教育研究」 23

天理大学 「学報」 47～50 「山辺道」 11～12 「中文研究」 5～6 「ビブリア」

30～32

東京教育大学 「文学部紀要」 52 「教育学部紀要」 11 「社会科学論集」 12 「国文学 言語と文芸」 38～44 「教育研究」 20—5～12, 21—1～4

東京女子大学 「比較文化研究所紀要」 19～20 「比較文化」 12 「日本文学」 22～25

東京外国語大学 「論集」 12 「語学研究所所報」 5～6 「日本語教育」 4～7

東京大学 「教育学部紀要」 7 「新聞研究所紀要」 13 「東洋文化研究所紀要」 35～37 「国語研究室」 4

東京都立大学 「人文学報」 43～49

統計数理研究所 「彙報」 22～23 「研究リポート」 13 「統計研究通信」 8

同志社大学 「人文学」 74, 76, 80 「文化学年報」 14

東北大学 「文学部研究年報」 15 「教育学部研究年報」 13 「東北文化研究室紀要」 7 「国語学研究」 5

東洋大学 「大学院紀要」 2 「文学論藻」 30～32 「王朝文学」 10～12

徳島県教育委員会 「教育月報」 182～193

中沢 政雄 「国語教育科学」 51～60

永江 秀雄 「若越郷土研究」 10—6, 11—1

名古屋市教育委員会 「研究要録」 昭和39年1～3

名古屋市教育館 「研究紀要」 39—1～4

名古屋大学 「文学部研究論集」 13 「教育学部紀要」 12 「教養部紀要」 9～10 「国語国文学」 16～17

新潟大学 「人文学部 人文科学研究」 26～30 「教育学部高田分校研究紀要」 9～10

日本英文学会 「英文学研究」 41—2 42—1 1966(英文号)

日本エスペラント学会 「エスペラント」 33—1～4, 6, 8, 10～12 34—1～3

日本音声学会 「会報」 117～119

日本学士院 「紀要」 22—2～3

日本言語学会 「言語研究」 47～48

日本語普及会(ブラジル) 「日本語普及会だより」 2～16

日本女子大会 「国文目白」 4～5

日 本 大 学 「語文」 21～22 「人文科学研究所研究紀要」 7

日本のローマ字社 「RÔMAZI NO NIPPON」 150～160

日本文学教育連盟 「文学教育」 2－1～3

日本文学研究会 「文学研究」 21～22

日本文芸研究会 「文芸研究」 50～52

日本文芸学会 「日本文芸学」 1－2

日本文体論協会 「文体論研究」 6～7

日本放送協会 「文研月報」 167～178 「放送文化研究所年報」 10

日本民俗学会 「会報」 38～43

日本民族協会 「民族学研究」 29－3～4 30－1～3

日本臨床心理学会 「クリニカル サイコロジスト」 5～10, 13

日本ローマ字教育協議会 「ことばの教育」 139～149

広 島 大 学 「文学部紀要」 24－1～3 「教育学部紀要」 14 1963 (英文) 「方言研究会会報」 9 「国語教育研究」 10 「国文学攷」 36～38 「中世文学」 31～34

表 現 学 会 「表現研究」 1～2 増刊号

福 井 大 学 「学芸学部紀要」 14～15

米国大使館文化交換局 「日米フォーラム」 11－4～12 12－1～3

方言研究同好会 「土佐方言」 9～11

法 政 大 学 「文学部紀要」 10 「教養部研究報告」 9 「日本文学誌要」 12～13

北辰K.K. 「中国語」 73～74

北海道学芸大学 「紀要」 15(A, B, C) 「人文論究」 25 「語学文学会紀要」3 「学術文献収報」 40～48

北海道教育研究所 「研究紀要」 44～49

北海道大学 「教育学部紀要」 11 「外国語・外国文学研究」 12 「国語国文研究」30～32

万 葉 学 会 「万葉」 55～58

宮城県教育研究所 「研究紀要」 50～53

明治図書出版K.K. 「教育科学 国語教育」 78～90 「児言研国語」 4～7

文 部 省 「指定統計」 13 「世界教育調査速報」 22～23 「初等教育資料」183～

195 「中等教育資料」 178～191 「教育調査」 66 「教育統計」 93～99 「統計速報」 107～111

仏教大学 「研究紀要」 47～48

山形県教育研究所 「山形教育」 109～110, 112, 114

山形大学 「紀要」(人文科学) 6－1 (社会科学) 2－3 「国語研究」 16

山口大学 「教育学部研究論叢」 14－1～3 「文学会志」 16－1～2

山梨県立教育研修所 「研究報告書」 昭和39年度 1～5

山梨大学 「学芸学部研究報告」 15 「国文学研究論集」 2～3

立教大学 「日本文学」 14～15 「心理・教育学科研究年報」 7～8

立正大学 「文学部論叢」 21～23

立命館大学 「立命館文学」 232～245 「論究日本文学」 24～26

龍谷大学 「国文学論叢」 11～12

早稲田大学 「国文学研究」 31～32 「学術研究」 14 「史観」 71～72 「日本語教育」 1 「平安朝文学研究」

CENTRE INTERNATIONAL DE DIALECTOLOGIE GÉNÉRALE "ORBIS" 13－2, 14－1

UNIVERSITY OF LONDON "BULLETIN OF THE SCHOOL OF ORIENTAL AND AFRICAN STUDIES" 28－1～3

庶　務　報　告

A　庁舎および経費

1　庁　　舎

所　　在	東京都北区稲付西山町	
敷　　地		10,030.11 M²
建　　物		
本　　館(延)	鉄筋コンクリート二階建	1,576.54 M²
付属建物(延)		1,738.65 M²
図　書　館(延)	鉄筋コンクリート平家建書庫積層(3)	213.84 M²
電子計算機室	新営　鉄筋コンクリート平家建	118.96 M²

2　経　　費

昭和40年度予算総額		94,460,000円
人　件　費		59,666,000円
事　業　費		34,794,000円
昭和40年度文部省科学研究費	総合研究	945,000円
	各個研究	333,000円
昭和40年度施設設備費(電子計算機室新営)		6,655,000円
昭和40年度各所修繕費		2,468,000円

B　評　議　員　会

会長　久松潜一	副会長　有光次郎	
阿部吉雄	石井良助	伊藤忠兵衛
桂　寿一	高津春繁	佐伯梅友
佐々木八郎	沢田慶輔	中島文雄

中村光夫	永井健三	西尾実
西脇順三郎	細田菊雄	前田義徳
武藤俊之助	山本勇造	横田実

C 組織と職員

1 定員

教官 35　事務官 14　その他 23　計 72

2 組織および職員

	職名	氏名	備考
国立国語研究所	所長	岩淵悦太郎	
第1研究部	部長	林大	
話しことば研究室	室長	宮地裕	40. 4. 1 話しことば研究室長に昇任させる
		鈴木重幸	
		衛藤蓉子	
書きことば研究室	室長	見坊豪紀	
		西尾寅弥	40. 4. 1 主任研究官
		宮島達夫	
		橋本圭子	
		高木翠	
地方言語研究室	室長	林大	40. 4. 1 地方言語研究室長事務取扱を免ずる
		上村幸雄	40. 4. 1 地方言語研究室長に昇任させる
		野元菊雄	40. 9.19 休職（英国出張期間満了，同地に滞在）
		徳川宗賢	
		加藤正信	40. 4. 1 採用
		白沢宏枝	
	非常勤	W. A. グローターース	
第2研究部	部長	興水実	
国語教育研究室	室長	芦沢節	
		村石昭三	40. 4. 1 主任研究官
		根本今朝男	
		天野清	40. 7. 1 採用

	職名	氏　名	備　　考
		川又瑠璃子	
		福田　昭子	
言語効果研究室	室長	高橋　太郎	40. 4. 1　言語効果研究室長に昇任させる
		大久保　愛	40. 4. 1　言語効果研究室に配置換する
		屋久　茂子	
第3研究部	部長	山田　巌	
近代語研究室	室長	永野　賢	
		進藤　咲子	41. 3.31　辞　職
		中曾根　仁	
		牧野　正子	
古代語研究室	主任(併)	山田　巌	
開設準備室		広浜　文雄	40. 4. 1　辞　職
第4研究部	部長	大石初太郎	40. 4. 1　第4研究部長に昇任させる
第1資料研究室	室長	林　四郎	40. 4. 1　第1資料研究室長に配置換する
		石綿　敏雄	40. 4. 1　第1資料研究室に配置換する 40. 4. 1　主任研究官
		南　不二男	40. 4. 1　第1資料研究室に配置換する
		田中　章夫	〃　　〃
		松本　昭	〃　　〃
		柴崎　香苗	旧姓吉村　　〃
		露峰　裕子	
		小林さち子	40. 4. 1　第1資料研究室に配置換する
		本多レイ子	〃　　〃
第2資料研究室	室長	飯豊　毅一	
		渡辺　友左	40. 4. 1　第2資料研究室に配置換する 40. 4. 1　主任研究官
		高田　正治	
		塚田　菊子	
		市橋　孝子	40. 6.15　辞　職
		河東はるみ	40. 4. 7　第2資料研究室に配置換する
		芥川　豊子	40. 8. 1　採　用

	職名	氏　名	備　考
第3資料研究室	室長	斎賀　秀夫	
		土屋　信一	
		宇野瑠美子	40. 7.15　辞　職
		菅野　裕子	40. 7. 1　採　用 40. 7.16　第3資料研究室に配置換する
言語計量調査室	室長(併)	林　四郎	40.10. 1　言語計量調査室長に併任する
		斎藤　秀紀	40.10. 1　採　用
		中野三千子	40. 5. 1　採　用 40.10. 1　言語計量調査室に配置換する
庶務部	部長	尾崎源之助	40. 4. 1　宇都宮大学事務局長に配置換する
		宮沢　武司	40. 4. 1　庶務部長に転任させる
庶務課	課長	三島　良兼	40. 4. 1　金沢大学学生部次長に昇任させる
		鹿島　巌	40. 4. 1　庶務課長に昇任させる
	課長補佐	名古屋　恒太郎	41. 3.31　辞　職
		鈴木　篁二	
		西山　博	
		根岸佐代子	
		斎藤　恭子	
会計課	課長	出牛清次郎	
	課長補佐	伊藤　仲二	
		三浦　清伍	
		渋谷　正則	
		鈴木　亨	
		筒井　士郎	
		岡本　まち	
		金田　とよ	
		加藤　雅子	
		中村　佐仲	
		安藤信太郎	
		船倉　正章	
図書館	館長(併)	見坊　豪紀	40. 4. 1　図書館長兼務

職名	氏　名	備　　考
(併)	鈴木　篁二	
	芳賀清一郎	
	大塚　道子	

D　地方研究員全国協議会の開催

昭和40年11月9日，10日2日間にわたり，当研究所における「日本言語地図作成のための調査」に尽力された地方調査員をまねいて，同調査についての経過報告と協議とを行なった。

なお日程等は次のとおりであった。

1　主　催　　国立国語研究所

2　場　所　　国立国語研究所大会議室

3　日　程

第1日　11月9日13時開会　　司会者　所員　上　村　幸　雄

あ　い　さ　つ　　所　　長　岩淵悦太郎

事　務　報　告　　第一研究部長　林　　大

報　告　1　「日本言語地図作成のための調査」の経過と出版計画について　　所員　徳　川　宗　賢

○討　　議

報　告　2　検証調査についての報告

所員　加　藤　正　信

○討　　議

報　告　3　調査結果の一部について(原図供覧)

所員　徳　川　宗　賢

所員　加　藤　正　信

第2日　11月10日10時再会

司会者　第1研究部長　林　　大

報　　告　本年度委託の報告書に関して

所員　上　村　幸　雄

○討　　議　（今後の方言研究について意見交換）

閉会あいさつ　　第1研究部長　林　　大

（12 時 閉 会）

出 席 者

(1) 地方研究員

担当地域	氏　名	担当地域	氏　名
北海道	五十嵐三郎	長野	青木千代吉
北海道	長谷川清喜	岐阜	谷開石雄
北海道	石垣福雄	愛知	山田達也
青森	此島正年	三重	慶谷寿信
岩手	小松代融一	三重	堀田要治
秋田	北条忠雄	三重	杉浦茂夫
山形	後藤利雄	京都	奥村三雄
山形	佐藤兌一	奈良 大阪	西宮一民
福島	三浦芳夫	兵庫	和田実
茨城	金沢直人	兵庫	岡田荘之輔
栃木	多々良鎮男	和歌山	村内英一
群馬	上野勇	鳥取 島根	広戸淳
埼玉	江原襄	島根	岡義重
千葉 東京	加藤信昭	岡山	虫明吉治郎
千葉	後藤和彦	広島	村岡浅夫
東京	馬瀬良雄	徳島	宮城文雄
東京	斎藤義七郎	香川	近石泰秋
東京 神奈川	日野資純	愛媛	杉山正世
石川 富山	岩井隆盛	高知	土居重俊
福井	佐藤茂	福岡	都築頼助
山梨	清水茂夫	佐賀 長崎	小野志真男

担当地域	氏　名	担当地域	氏　名
長崎	西島　宏	鹿児島	上村孝二
熊本	秋山正次	沖縄	仲宗根政善
大分	糸井寛一	沖縄	外間守善
宮崎	岩本　実		

出席者

(2) 研究所

所長	岩淵悦太郎
第1研究部長	林　大
第2研究部長	興水　実
第3研究部長	山田　巌
第4研究部長	大石初太郎
(前)地方言語研究室長	柴田　武
地方言語研究室	上村幸雄
〃	徳川宗賢
〃	加藤正信
〃	W.A.グロータース
〃	白沢宏枝
書きことば研究室	宮島達夫
庶務部長	宮沢武司
庶務課長	鹿島　巌

E　内地留学生受け入れ

全国都道府県から内地留学生を受け入れ，研究の便をはかった。次にその氏名研究題目などを掲げる。

氏　名	学　校	研究題目	研究期間
千葉　勲	徳島県三好郡三加茂町立三庄小学校教諭	学習の近代化とその訓練	昭和40. 4.10から 〃 10.10まで
牧田　常雄	長崎県西彼杵郡長与村立長与小学校教諭	語句指導の研究	昭和40. 7.26から 〃 8. 7まで

氏　名	学　　校	研究題目	研究期間
神代　克彦	長崎県諫早市立有喜小学校教諭	国語の学力を伸ばすための技能指導	〃
藤田伝右衛	長崎県福江市立翁頭中学校教諭	作文を通じての国語の力を伸ばす具体的研究	〃
永田　重明	長崎県南高来郡有家町立小学校教諭	読解における語句指導	〃
飯島　典人	長崎県南高来郡布津村立布津中学校教諭	学力をつけるための国語学習について	〃
松田　幸雄	長崎県長崎市立伊良林小学校教諭	作文における構想指導	昭和40. 7.19から 〃　7.25まで
谷口　静子	富山県中新川郡上市町市上市中央小学校教諭	学校研究課題に位置づいた国語研究物語文説明文の読解指導について	昭和40.11. 4から 〃　11.13まで

F　日　誌　抄

1965. 5.14～15　第34回関東甲信越地区各国立大学，所轄機関庶務部課長会議（東京工業大学で）

5.18～19　国立学校および所轄機関等庶務部課長会議（東京大学で）

5.27～28　第24回文部省所轄ならびに国立大学附置研究所長会議（日本学術会議で）

5.28　文部省所轄研究所長会議（プリンスホテルで）

5.28　品川区立荏原第四中学校阿部校長外4名研究所見学

1965. 6.10～11　第16回文部省所轄機関事務協議会（草津大阪屋で）

6.22～23　長崎県島原市立第四小学校梅林教諭研究所見学

7.13　第58回国立国語研究所評議員会

議　事

1. 昭和40年度研究事業について
2. 昭和41年度の予算要求について
3. その他

7. 19　人事院任用監査

監査官　和田係長　山本事務官

7. 24　京都女子大学国文学科学生 65 名研究所見学

9.28～29　第 18 回文部省所管研究所事務協議会(東北大学で)

9. 30　各省直轄研究所長連絡協議会(気象庁で)

10.19～20　第 35 回関東甲信越地区各国立大学・所轄機関庶務部課長会議(千葉大学で)

10. 20　千葉県船橋市国語研究部長　宮崎晟 外 40 名研究所見学

10.25～26　文部省所轄研究所長会議(緯度観測所で)

11. 4　文部省会計監査

監査官　伊藤係長　今井事務官　斎藤事務官

11. 8～ 9　第 16 回文部省所管研究所第 3 部会事務協議会(奈良国立文化財研究所で)

11. 9～10　国立国語研究所地方研究員全国協議会(大会議室)

11.11～12　文部省所轄 ならびに 国立大学附置研究所長会議(京都大学経済研究所で)

11. 18　宮崎県都城市県立泉丘高等学校福井教諭外 1 名研究所見学

11. 29　埼玉県比企郡玉川地区国語研究部長野口教諭外 14 名研究所見学

12. 7　第 59 回国立国語研究所評議員会

議　事

1. 研究事業の中間報告について
2. 国立国語研究所組織規程の一部改正について
3. その他

12. 20　創立記念日の記念講演　講師　佐々木評議員　(研究所会議室)

1966. 3. 9　会計検査院　会計検査

検査官　高野副長　田所調査官　山城調査官

3. 25　第 60 回国立国語研究所評議員会

議　事

1. 昭和 40 年度の研究報告について

2. 昭和41年度予算の内示について

3. 電子計算機について

4. その他

昭和41年11月

国立国語研究所

東京都北区稲付西山町
電話東京(900)3111(代表)

UDC　413=956
NDC　814.5

093

本書の市販品発行所

東京都新宿区市ケ谷左内町39　(260)5281
株式会社　秀英出版

国立国語研究所刊行書

国立国語研究所年報

1～16　（昭和24年度～昭和39年度）

国立国語研究所報告

1　八丈島の言語調査
2　言語生活の実態　（秀英出版刊 ¥300.00）
　—白河市および付近の農村における—
3　現代語の助詞・助動詞
　—用法と実例—
4　婦人雑誌の用語
　—現代語の語彙調査—
5　地域社会の言語生活　（秀英出版刊 ¥600.00）
　—鶴岡における実態調査—
6　少年と新聞
　—小学生・中学生の新聞への接近と理解—
7　入門期の言語能力
8　談話語の実態
9　読みの実験的研究
　—音読にあらわれた読みあやまりの分析—
10　低学年の読み書き能力
11　敬語と敬語意識
12　総合雑誌の用語（前編）
　—現代語の語彙調査—
13　総合雑誌の用語（後編）
　—現代語の語彙調査—
14　中学年の読み書き能力
15　明治初期の新聞の用語
16　日本方言の記述的研究　（明治書院刊 ¥900.00）
17　高学年の読み書き能力
18　話しことばの文型（1）
　—対話資料による研究—
19　総合雑誌の用字
20　同音語の研究
21　現代雑誌九十種の用語用字
　—総記および語彙表—
22　現代雑誌九十種の用語用字
　—漢字表—
23　話しことばの文型（2）
24　横組みの字形に関する研究
25　現代雑誌九十種の用語用字
　—分析—
26　小学生の言語能力の発達　（明治図書刊 ¥2,100.00）
27　共通語化の過程
28　類義語の研究
29　戦後の国民各層の文字生活
30　日本言語地図（1）

国立国語研究所資料集

1　国語関係刊行書目（昭和17～24年）
2　語彙調査
　　—現代新聞用語の一例—
3　送り仮名法資料集
4　明治以降国語関係刊行書目（秀英出版刊 ¥300.00）
5　沖縄語辞典（大蔵省印刷局刊 ¥2,500.00）
6　分類語彙表（秀英出版刊 ¥900.00）

国立国語研究所論集

1　ことばの研究
2　ことばの研究第2集

国語年鑑

（昭和29年版）（秀英出版刊 ¥450.00）
（昭和30年版）（秀英出版刊 ¥600.00）
（昭和31年版）（秀英出版刊 ¥450.00）
（昭和32年版）（秀英出版刊 ¥480.00）
（昭和33年版）（秀英出版刊 ¥480.00）
（昭和34年版）（秀英出版刊 ¥500.00）
（昭和35年版）（秀英出版刊 ¥550.00）
（昭和36年版）（秀英出版刊 ¥800.00）
（昭和37年版）（秀英出版刊 ¥500.00）
（昭和38年版）（秀英出版刊 ¥950.00）
（昭和39年版）（秀英出版刊 ¥980.00）
（昭和40年版）（秀英出版刊 ¥1,100.00）
（昭和41年版）（秀英出版刊 ¥1,100.00）

高校生と新聞　国立国語研究所・日本新聞協会共著（秀英出版刊 ¥280.00）
青年とマスコミュニケーション　日本新聞協会・国立国語研究所共著（金沢書店刊 ¥280.00）

1965—1966

ANNUAL REPORT OF NATIONAL LANGUAGE RESEARCH INSTITUTE

CONTENTS

Foreword
Outline of Researches from April 1965 to March 1966
Study of Modern Japanese Grammar
Research on Meaning and Use of Verbs and Adjectives
Compiling and Publishing the Linguistic Atlas of Japan
Contrastive Study of the Dialects and the Common Japanese
Study on Junior High School Pupil's Mastering of Chinese Character
Preparatory Study on Language Development of Pre-School Children
Study on Expressional Function and Communication Effect of Japanese Language
Study on Language of Meizi Period
Preliminary Study for the Statistic Investigation of Vocaburary by Computor
Basic Study on the Relation between Language and Social Construction
Study on Writing System of Modern Japanese
Others
General Affairs

THE NATIONAL LANGUAGE RESEARCH INSTITUTE

INATUKE-NISIYAMA, KITA, TOKYO